

ドラゴンボールSS ～農 耕民族サイヤ人伝説～

秋羅

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ドラゴンボールs読んでたら書きたくなつた農耕民族ネタ
タグの内容がお気に召さない方は読まない方がいいですよ。

現在、サイヤパワー不足の為、更新停止中

目次

第1部 農耕民族サイヤ人編

ラディッツ「農業力5万。ほう、なかなかではないか。」—— 1

ベジータ「地球へ向かうぞ！」ナツパ「カカロットを指導するんだな？」

26

ゴールデンフリーザ「さあ、行きますよ!! ビューティーザーボンさん! スリムアツプドリアさん!」—— 49

ターレス「どうあってもドラゴンボールを渡さねえつもりか?」—— 71

第2部

ラディッツ「カカロット達が帰ってくるまで後3時間か……」—— 103

トランクス「待っているよ人造人間……!!」—— 127

神「ぜ……絶望的だ……奴の成長率は異常過ぎる……!」—— 153

18号「それ以上近づいたら自爆してやるからね!!」—— 178

悟空「ひゃー! 会社の地下はこんな風になってたんか!」—— 202

第1部 農耕民族サイヤ人編

ラディッツ「農業力5万。ほう、なかなかではないか。」

おっさん「な、なにモンだおめえ!」

ラディッツ「俺か? 俺は宇宙一の農耕民族サイヤ人のスーパーエリート、ラディッツ様だ!!」

おっさん「さ、サイヤ人!」

ラディッツ「そうだ。全宇宙を股にかけ、星々を開拓し農地へと変えるのが俺達一族の仕事だ。」

おっさん「ほえ。宇宙には凄い人達がいるだなあ。・・でなくて! オメエ! オラの畑にナニしてくれるだ! これからイモツコ植えるところだったのにこんな大穴空けられたら植えらんねえべさ!」

ラディッツ「ムツ! 俺とした事が! これはすまない事をした。侘びとしてこれにくれてやろう。」キュイーン

おっさん「て、手なんて光らせて何するつもりだく!」

ラディッツ「こうするのさ！ サタデークラッシュユ!!」ポヒユウウウ

おっさん「ぎよえー！?!?!」

ドゴオオン!!

モクモクモク

おっさん「あ、あれ？ 生きてる？・・・って、なに？!」大穴が無くなって、代わりに一面芋畑になってるだ!」

ラディッツ「ふつ。俺が畑を台無しにしてしまったのだ。これくらいはせんとな。ちなみに植えてあるのは惑星ポテイト原産の満月芋だ。成熟して新鮮な状態のこの芋は1700万ゼノ超のブルーツ波を発するから収穫に苦労するが味は超一級！ 全宇宙で愛されているスーパーポテトだ。こいつは月の様な環境でも栽培できる作物だから、肥沃なこの星なら問題無く育てる事ができるだろう。」

ピピピピッ

「むっ！ この農業力は!? フハハハハッ！ 見つけたぞカカロットよ！ 今兄が会いに行くぞー!!」バシユウウウ

おっさん「あつ！ おい待つだ!・・・行っちゃっただ。まあ、よくわかんねえけどせつかくだからこのイモツコ育ててみっぺか。」

——のちにこの農家のおっさんは満月芋で巨万の富を手に入れる事となる。おっさんはテレビのインタビュウでこう語っている。自分に満月芋を授けて去って行ったあの男はきつと農業の神だったのだと。そして、彼が農業の神に出会った地では筋肉隆々のロン毛でM字ハゲの大男の銅像が祭られるようになったという——

——とある山——

ラディッツ「見つけたぞカカロットー!!」

ギユウウウウウ・・スタツ

ヤムチャ「うおっ!? なんだお前!」

ラディッツ「なにっ!? この俺が分からのか!? あれほど可愛がってやったという

のに貴様というやつはっ!」

ヤムチャ「あのく、誰かと間違えてないか?」

ラディッツ「そんなはずはない! それ程の農業力を持っているのだ! 貴様は24

年前に生き別れた俺の弟カカロットだ!」

ヤムチャ「えつと、俺の名前はヤムチャだし、24年前はまだ両親と暮らしてたから、

お前の弟とは別人だぞ?」

ラディッツ「そうなのか!? だかこの農業力は・・・。」

ヤムチャ「なあ、さつきから言ってるノウギヨウリヨクってなんなんだ?」

ラディッツ「そんな事も分らんのか? 農業力とは農業に関する知識や技術、適性などの全ての能力の総評。これが高ければ高いほど優れた農民という事だ。」

ヤムチャ「へ、へ(汗) それで俺の農業力って・・・。」

ラディッツ「貴様の農業力は10万。エリート農家と呼んでも遜色ない数値だ。ちなみに俺の農業力は53万で、一般人は5だ。」

ヤムチャ「おいおい、ナウでモダンなシティーボーイのヤムチャ様にそんなに高い農業力が有る訳無いだろう!」アセアセ

ラディッツ「こいつは最新式のスカウターだ。誤動作などありはしない。・・・ああ、そういう事か。」

ヤムチャ「な、なんだよ!」

ラディッツ「貴様、都会に憧れて実家を飛び出したくちだな?」

ヤムチャ「ギクツ」

ラディッツ「なんと嘆かわしい。都会なんぞにかぶれおつて。それ程の農業力があれば、大豪農も夢ではないというのに。」

ヤムチャ「う、うるせえ!! 都会に憧れて何が悪い! テレビもねえ! ラジオも

ねえ！ 車もぜんぜん走ってねえ！ 挙句の果てには年頃の女の子すら居ねえ！ そんな田舎で一生畑なんて耕してられるかよ!!」

ラディッツ「うーむ、俺の場合は農業さえできれば他はどうでもいいんだが：まあ、価値観は人それぞれ。ましてや貴様はサイヤ人ではないからな。これ以上は押し付けにしなければ。」

ヤムチャ「ほっ」

ラディッツ「だが気が変わったらいつでも言えよ。貴様は我が一族に迎え入れても差し支えない程の漢だ。その時は良い嫁を紹介してやろう。サイヤ人の女は器量良しの上に頑丈だ。子供も山ほど産んでくれることだろう！」

ヤムチャ「あ、ああ（汗）無いとは思いますがもしもの時はお願いするよ。」

ラディッツ「では俺は弟を探さんといかんから行かせてもらおう。さらばだヤムチャよ！ 貴様が農民に戻る日を楽しみにしているぞ！」バシユウウウ

ヤムチャ「いやだからなんねえよ!!」

——上空——

ラディッツ「むう。あれから農業力の高い奴らを片っ端から当たって見たがカカロツ

トが見つからん。そもそも本来ならばこの星の陸地は全て農地に成っているはずなのにそれがなされていないという事はカカロットの身に何かあったのか？ いやまさな。カカロットは生まれながらにして農業力1万のエリート農民！ それがこの様に穏やかな星でどうこうなるわけがないか……」

ギユウウウウウ……キキツ

???「どうとう追いついたぞ！ 膨大な気を撒き散らしながら飛びまわりやがって！

何者だ貴様！」

ラディッツ「なんだ貴様は？ 俺は今忙しい。話なら後に……むっ！ 貴様はナメツク星人！ まさかこの星にも居たとはな！」

ピッコロ「ナメツク星人、だと？ 貴様！ 俺の何を知っている!？」

ラディッツ「おいおいどうした？ 随分と気性の荒いナメツク星人だな。貴様野菜は食っているのか？ ああ、ナメツク星人は水しか口にせんのだったな。それじゃあ、地球の環境のせいかな？」

ピピピピ

ラディッツ「うん？ なっ!? そんな馬鹿な!？」

ピッコロ「オイ貴様！ さっきから何をごちゃごちゃと！ 俺の質問に答えろ!!」

ラディッツ「……農業力3。サイヤ人に次ぐ農耕種族であるナメツク星人がたった

の3だと？」

ピッコロ「ノウギョウリヨク？ 何の話だ？」

ラディッツ「まさか、考えたくはないが、カカロットの農業力も下がっているのか？
だが何故？ 地球人の農業力自体は高い方だ。その様な環境に居れば農業力が上がる事はあれど下がることなど……。もしや重力が低い事が原因か？ いやしかし……。」
ブツブツ

ピッコロ「いい加減に俺の話を聞きやがれー!!!」

ポヒユウウウ……。ドゴオオン!!

ピッコロ「フフフツ！ どうだ？ これで俺の話を聞く気になったか!？」

ラディッツ「……。人が考え事をしているのにうるさいぞ。畑の肥しにされたいのか？」

ゴツ

ピッコロ「な、なんだこの気の量は!？」

ラディッツ「丁度良い。身の程知らずにもこの俺に攻撃してきたお前に良い事を教えてやろう。このスカウターは農業力だけではなく戦闘力も測ることができる。お前の戦闘力は332。そして、俺の戦闘力は……。1500万だ!」ドン!

ピッコロ「なん・だと!？」

ラディッツ「分かったら消えろ。有機肥料にされる前にな。」

ピッコロ「クソツタレー!!」バツ

ラディッツ「馬鹿が! シヤイニングフライデー!」ギョオオオン!!

ガガガガガッ!

ピッコロ「ぬぐわあああー!!!」ヒュー…

ラディッツ「しまった。ついイライラしてやっちゃった。まあ、加減はしたから大丈夫だろう。それよりカカロットだ。生まれながらに高い農業力を持つナメック星人があのようなのだ。カカロットの農業力も下がっていると考えると考えた方が良さだろう。そして、この星で育つたにしては高い戦闘力。もし、カカロットが同じ状態になっているとしたら…。」ピピピピッ

ラディッツ「! あつちか! 距離12,909。この星で最も大きな戦闘力だ。今度こそカカロットであってくれよ!」バシユウウウ

—— 亀ハウス ——

悟空「!!?」

クリリン「どうした悟空?」

悟空「ピッコロの気が消えた？」

亀仙人「なん・じゃと!? 彼奴ほど手だれをいつたい誰が!」

悟空「・・・!!み、みんな! 離れる!! とてつもなく強い気が近づいてくる!!!」

クリリン「ええっ!?!」

亀仙人「まさかピッコロを倒した奴か!」

ギユウウウウウ・・・スタツ

ラディッツ「・・・」

クリリン「誰だ? こいつ? ヘンテコリンな格好して・・・」

ラディッツ「ヘンテコリンだと? 貴様サイヤ人の作業着を馬鹿にしているのか?」

ギロツ

クリリン「え? い、いやべつにしそういうつもりは無くて!」アセアセ

亀仙人「なんなんじゃ此奴は。強さの底が見えん」タラリ

悟空「・・・」ゴクリツ

ラディッツ「おお! その顔、間違い無い! ようやく見つけたぞカカロットよ!!」

悟空「カカロット? オラは孫悟空だ。誰かと間違つてんじやねえのか?」

ラディッツ「間違うものか。・・・これを見たらわかる」シユル:

悟空「!! そ、それは尻尾・・・? オラと同じ・・・」

ラディッツ「その反応、やはりお前はカカロットだな。そう、この尻尾はサイヤ人の・・・ん？ お、お前、尻尾はどうしたんだ!？」

悟空「尻尾はだいぶ前に無くしちまった。もう生えてくる事もねえ」

ラディッツ「なんだと・・・」

悟空「おめえは一体誰なんだ？ なんの目的でここに来たんだ？ オラの事をなんで

カカロットと呼ぶ？」

ラディッツ「・・・まあ、落ち着け。まず俺は敵ではない。順に説明してやる」

・・・

悟空「な・・・なんだって!？」

ラディッツ「信じられないのも無理はない。地球人として育てられていたお前ではな・・・だが全て事実だ。お前は農耕民族サイヤ人であり、この俺の弟。お前は本来、この星を開拓する為に送られた農民なのだ。」

クリリン「なんか農民って点でシリアスな雰囲気壊れちゃったんだけど・・・」

ブルマ「しっ！ クリリン黙ってなさい！」

ラディッツ「さて。次はこちらから質問させてもらおうとしよう。カカロットよ、何故貴様はこの星を開拓していない？ サイヤ人は生まれながらの本能として畑を作る。

それは赤子として例外ではない。にもかかわらずお前は畑を耕さず、農業力も下がって

る。何故だ？」

悟空「何故って言われてもなあ……あ、そういえば！ オラを育ててくれた祖父ちゃんと言つてたつけ。オラを拾つたばつかの時は目を離すとすぐに土いじりしてたけど、頭ぶつけてからやんなくなつたつて。」

ラディッツ「つまりなんだ？ 頭をぶつけた衝撃で本能と農業力を失つてしまったという事か!? なんとという事だつ。俺は親父とお袋に何と言えればいいんだつ!!」

悟空「なんかわりいな。でもオラはこの星で楽しく暮らしてる。オメエの言う事が本当だとしても今更畑仕事なんてできねえよ。それにそんな事より修業したり強え奴と闘つてた方がおもしろえかな！」

ピクリ

ラディッツ「そんな事、だと？」

亀仙人「な、なんじゃ!? 此奴の気が急激に高まつておる!」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

ラディッツ「貴様！ 農業を馬鹿にしたかカカロットー!!」バツ ド

ガアアアアアアン!!

悟空「!？」

パラパラパラ

ラディッツ「いいだろう。ならばお望み通り強い奴と闘わせてやろう。」

亀仙人「なんとという圧力じゃ!?」「ブルブル

クリリン「か、身体が動かないっ」ガクガク

悟飯「うわーん! こわいよー!」

ブルマ「大丈夫! 大丈夫だからっ!」ギョツ

悟空「ひゃー! スゲエなオメエ! オラわくわく・・・」

ラディッツ「フンっ」ヒュン!

バギイイイイインツ!

バシバシバシバシバシ!!

ギユオオオン!!・・・ガガガガガツ!!

ポヒユウウウ・・・ドゴオオン!!

ヒュン!

ドオオオオン!!!

ヒュン!

ドオオオオン!!!

ヒュン

バシユウウウウ!!・・・ドザアアアア!

ドドドドドドドドドド!!

ポヒユウウウ・・・ドゴオオン!!

・・・・・・・・・・・・・・・・

悟空「ヤムチャ状態

ラディッツ「ふん。修行と戦いに明け暮れていたのにこの程度か。まあ、当然か。脳筋が農筋に勝てるはずがないのだからな。」

悟飯「おとうさんを・・・いじめるなー!!」ゴツ

ラディッツ「むっ!! こいつは!」ガシツ

悟飯「うわー!? 離してよー!」ジタバタ

ブルマ「ああ!? 悟飯君!」

クリリン「やめろー! 悟飯はまだ子供なんだぞ!!」

ラディッツ「悟飯?・・・この顔、そしてこの尻尾。カカロットの息子か!!」

悟空「あ・・・う・・・悟飯を・・・離せ・・・」

ラディッツ「やはりそうか・・・よし、良い事を思いついたぞ。カカロットよ、今から1週間以内に100ヘクタールの畑を耕し何でもいから作物を植えろ。できなければこいつを惑星ベジータに連れていく。半分とはいえサイヤ人。腐らせる訳にはいかんからな。」

ブルマ「100ヘクタール!? そんなの機械を使っても無理よ!」

ラディッツ「無理ではない。カカロットがサイヤ人の本能を思い出す事ができればな。」

悟空「やめろっ・・・ラディッツ!!」ズルズル

ラディッツ「貴様も誇り高きサイヤ人ならばこれくらいやって見せろ。さて、今日のところはこれで帰らせてもらう。ちなみに貴様の息子も人質として連れていく。兄の期待を裏切つてくれるなよカカロット。」ヒューン

悟飯「うわーん! おとーさん!!」バタバタ

悟空「ごはーん!!」

——とある台地——

ラディッツ「さて、これならばカカロットも畑を耕すだろう。これがきつかけになり本能を思い出せばいいのだが・・・」

悟飯「うわーん! うわーん!」

ラディッツ「・・・はあ。少々やり過ぎたか。おい、悟飯といったか。そろそろ泣き止め。それでもサイヤ人の血を引く者か?」

悟飯「うわーん！ うわーん！」

ラディッツ「むう・・・そうだ！ カカロットを探して地球を周っている間に見つけたマンモスイチゴをやろう。」

悟飯「・・・いちご？」

ラディッツ「ああ、イチゴだ。こいつは俺が今まで見てきたイチゴの中でも一際デカく、そして甘い。こいつを宇宙に広めれば多くの者が喜ぶことだろう。ほれ。」スツ

悟飯「ん・・・」モグモグ

ラディッツ「どうだ？」

悟飯「おいしい!!」パア

ラディッツ「そうかそうか。それはよかった！」

・・・

ラディッツ「というわけでサイヤ人は全宇宙に旨く新鮮な野菜を届ける為に日々努力しているのだ！」

悟飯「すごい!!」onラディッツの膝の上

ラディッツ「そうだろう！ どうだ悟飯？ お前も農民にならんか？ お前ならばエ

リート農民になれるぞ？」

悟飯「うーん・・・でもおかあさんがえらい学者さんになれって。」

ラディッツ「学者だと？ そんなものになってなんになる。殆どの生物は食い物が無ければ生きていけん。そして、その生きる為に必要な食い物を作る農家こそが至高の職業。対して学者というのは何も生み出さず部屋に閉じ籠ってコンピュータをいじってばかりいる連中だぞ？」

悟飯「そんなことないよ！ 学者さんだつていろんなものを生み出してるんだよ！」
ラディッツ「ほう？ それはいつたい何だ？」

悟飯「おかあさんがいつてた！ おうちに電気があるのも病気のときに飲むお薬があるのもみんなえらい学者さんががんばつて考えたからなんだつて！ だから僕もえらい学者さんになつて皆が幸せになれるようにいろんなことを考えるの！」

ラディッツ「そうか、それならばいい。母親に強要されているのであれば無理にでも止めたところだが、自分の意思でなろうというのならかまわん。だが、どうせなるなら農学者になれ。サイヤ人の血を引くお前ならば農業に革命を起こせるような技術を生み出せるはずだ。」

悟飯「農学者か……うん、わかった！ 僕、農学者になる！ そしておいしいものをたくさんの方が食べられるようにする!!」グツ

ラディッツ「それでこそサイヤ人の血を引く者だ！ そうと決まればお前の母親にも話をせんと。農学者になるにしても実際に農業を知らんことには始まらん。今の内

にいろいろ教え込まねば。」

悟飯「おかあさん、ゆるしてくれるかなあ？」

ラディッツ「心配するな。俺も説得する。それではお前の家に案内してくれ。頼んだぞ悟飯！」

悟飯「うん！ おじちゃん！」

バシユウウウ

——悟空の家——

チチ「そういうことならかまわねえべ。悟飯ちゃん、しっかりと勉強してくるだよ。」

悟飯「うん！ 分かった！」

ラディッツ「すまん。突然押し掛けたあげく無理を言つて。」

チチ「気にしねえでけろ。悟空さのお兄さんが悟飯ちゃんの将来の為にわざわざ骨を折ってくれるつーんだから、むしろ感謝してるくらいだ。」

ラディッツ「任せてくれ。こいつが立派な農学者になれるよう、しっかりと教える。」
チチ「よろしく頼むだ。それにしても、悟空さのお兄さんがこんなに働き者だとはビックリしただ。」

ラディッツ「そんな風に言うということは、あいつめ、働いてないのか？」

チチ「んだ！ 悟空さつたら働かねえで修行ばつかして、本当に困った人だべ！」

ラディッツ「そうか・・・あいつめ、本当にしようがない奴だ。だが安心しろ。少し強引ではあるが働かざるをえない状況に追い込んでおいた。これを切っ掛けにサイヤ人の本能を思い出し、働き者になることだろう。」

チチ「そうなら良いんだけど・・・」

ラディッツ「これでダメなら惑星ベジータに連絡して指導員を呼ばねばならんだろう。或いは惑星ベジータに連れていくか・・・」

チチ「流石にそれは嫌だべ。」

ラディッツ「まあ、これはもしもの時の話だ。あいつもエリートのを引く者。必ずややり遂げるだろう！」

チチ「んだな！ 妻であるオラが信じねえでどうするだ！ 悟空さなら大丈夫だ！」
グツ

悟飯「うん！ お父さんならできるよ！」グツ

ラディッツ「(ふふつ。カカロットよ。良い家族を持ったな。家族の為に頑張るのだぞ。)」

——とある台地——

一週間後

ピッピッピッ

ラディッツ「むっ？ この反応は・・・」

ギユウウウウウ・・・キキッ

悟空「ラディッツ！」

ピッコロ「この前の借りを返させてもらおうぞ！」

ラディッツ「カカロットとこの前のナメック星人か。その様子では、畑は作らなかつたようだな・・・」

悟空「それより強くなってオメエを倒した方が早えかな！」

ピッコロ「神の奴の力を借りるのは癪だったが、おかげで大幅にパワーアップできたぜ！」

ラディッツ「そうか・・・カカロットよ、何故その選択をした？ 力の差は歴然。貴様らが勝つ確率は1%もないのだぞ？」

悟空「ゼロじゃねえならやる価値はある！ それになにより・・・」

ラディッツ「なにより？」

悟空「オラ、働きたくねえ！　ぜってえに働きたくねえ!!」ドーン!!

ラディッツ「……」

ピッコロ「……」

悟飯「……」

ヒュ……

悟空「さあ、勝負だらディッツ！　オメエを倒して悟飯は連れて帰る！」グツ

ラディッツ「カカロット、貴様……」ギリツ

悟飯「待つてくださいいおじさん。ここは僕に任せてください。」

ラディッツ「悟飯!?!　分かった。任せたぞ。」

悟飯「はいっ！」

ザツ

悟飯「お父さん……」

悟空「ご、悟飯!?!　オメエ、なんで？」

悟飯「お父さん、僕は怒ってるんだよ？　お父さんはいつもそうだ。修行ばかりで

お母さんを困らせてばかり。そして、僕が宇宙に連れていかれるかもしれないのにおじ

さんが言ったことをしないでまた修行……もううんざりだ。」

悟空「い、いや、オラはオラなりに考えてだなあ……」アセアセ

悟飯「だから、お父さんに見せてあげるよ。僕がおじさんから教えてもらった農業の力を！」ゴッ

悟空「の、農業!？」

悟飯「行くよ！ ハッ！」バツ

バギイイイイイインッ

悟空「重てえ!？」ズザザザア

悟飯「まだまだあ！」シユッ

ドドドドドドドド

悟空「う、く、のわあ!？」バシバシバシバシバシッ

悟飯「足元がお留守ですよ！」ガッ

悟空「んなあ!？」ガクッ

悟飯「今だ！ ダブルサンデー!!」ポヒユウウン!!

悟空「うわー!？」

ドカアアアン!!

ピッコロ「そんな馬鹿な!? 神の元で修行した孫が、あんな餓鬼に!？」

ラディッツ「見たか。これが農耕民族サイヤ人の真の力だ。サイヤ人は農業力が高まると同時に戦闘力も上昇していく。これは過酷な開拓地で生き延びるために備わった

特性だ。そして、勤勉な地球人との混血である悟飯は俺の教えを受け、たった一週間で農業力を1万まで上げた。」

ピッコロ「なら、あいつの今の戦闘力は・・・」

ラディッツ「悟飯の戦闘力は2万。カカロットのおよそ10倍だ。」ドン！

ピッコロ「なん・だと!？」

ラディッツ「素晴らしい才能だろう？ そら、話をしているうちに決着が着きそう
だ。」

悟飯「ハアア!! ウイークエンド!!」ギョオオオオンツ!!!

悟空「かーめーはーめー波ー!!」ズドオオオウツ!!

ドオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ
モクモクモク
!!!!!!!!!!!!

悟飯「ハアハア・・・お父さん・・・」

悟空「へへっ・・・すげえな、悟飯・・・オラの、負けだ・・・」ドサツ

悟飯「お父さん!？」ダッ

ラディッツ「安心しろ。気絶しただけだ。」

ピッコロ「まさかこんな事になるとは・・・」

ラディッツ「さて、おまえはどうするナメック星人？」

ピッコロ「くっ……。分かった。貴様に従おう。」
ラディッツ「賢い選択だ。」

……

悟空「ん……。あれ？ オラは……。」ムクリ

悟飯「お父さん！」ギユツ

悟空「ああ、そっか。オラ、悟飯に負けたんだな……。」

ラディッツ「どうだカカロットよ。貴様の息子の、そして農業の力は？」

悟空「ああ、ビックリした。修行してたオラよりも農業やってた悟飯の方がずっと強くなつてたんだかな……。農業つてすげえんだな……。」

ラディッツ「ようやく分かつてくれたのだな、カカロットよ。そうだ、サイヤ人にとつて農業こそ至高の修練であり職業。これを極めればお前の望みも叶える事ができるだろう。」

悟空「ホントか？」

ラディッツ「ああ本当だとも。お前は俺の弟で悟飯の父親だ。忘れてしまっているだけでそのポテンシャルは計り知れん。それに開拓地では強敵と出会う事が多々あるからな。そういつた奴らと闘う事もできるだろう。」

悟空「そっか……。分かった！ オラ、農民になつぞ!! だからオラに農業を教えて

くれ！ 兄ちゃん!!」

ラディッツ「!? ふっふっふっ……それでこそ我が弟だ！ いいだろう！ カカロット！ 貴様を宇宙一の農民に育て上げてやる！ 俺について来いっ!!」

悟空「ひゃー!! オラ、わくわくしてきたぞ！ いっちょ農業やってみつかー!!」

——こうして悟空は無職を脱し、農民への第一歩を踏み出した。これから彼には多くの困難が待ち受けているが、それはまた別のお話——

悟飯「あ、ダメですよピッコロさん！ ここはこうやってしつかり結ばないと支柱が倒れちゃいます。キュウリは弦が伸びて上へ上へと成長していきますから、支柱はしっかりと立てないとい！」

ピッコロ「そ、そうなのか、気を付ける……これでどうだ？」ギュツギュツ

悟飯「はい、大丈夫です。次はネットを張りますからそちらを持ってください。」

ピッコロ「何故俺がこんな事を……」

悟飯「ピッコロさん!!」

ピッコロ「わ、分かった！ 今やる！」ダッ

う
う
う
へ

ベジータ「地球へ向かうぞ!」ナツパ「カカロットを指導するんだな?」

ベジータ「ああ、カカロットの奴、不慮の事故で農業力を失ったらしいからな。」

ナツパ「マジかよ!?! 生まれつきあれだけの農業力を持つてたつてのに残念だぜ。」

ベジータ「バーダックとギネの二人も残念がつてたぜ。本当なら自分達が行きたかったようだが、今は惑星ミートの開拓で手が離せないようなんぞな。代わりに俺達が行く。」

ナツパ「へっへっへっ。サイヤ人の王子直々に指導たあ、カカロットの奴運が良いぜ。」

ベジータ「それに地球で作った息子がとんでもない資質の持ち主の様だからな。二人まとめてスーパー農民にしてやるぜ!」

???「おや? ベジータさんとナツパさんではないですか。」

ベジータ「! これはフリーザ様。いらしていただくのですか。」

フリーザ「ええ。今日は新たに開拓していただく惑星についてベジータ王と打ち合わせ。」

せがあるんですよ。今度の惑星はギニュー特選隊に酪農専用の星にして貰おうと思いましてね。」

ベジータ「そうでしたか。今度の惑星も完璧に開拓してみせますよ！」グツ

フリーザ「ほっほっほっ。頼もしいですねえ。サイヤ人がツフル人を滅ぼした時はどうなる事かと思いましたが、貴方達を信じて正解でした。」

ベジータ「当然です！ 遺伝子組み換えに食品偽装！更に食中毒を起こした挙句、食い物を粗末に扱うような連中はこの宇宙に必要ありません！ サイヤ人こそ宇宙の農業を支える選ばれし民族！ まさに農民です！」ドン！

ナツパ「懐かしいぜ。あの時は丁度満月だったからサイヤ人総出で大猿になって、惑星プラント全土を一瞬で耕作地に変えちまったからな！」

ベジータ「ああ、その上、親父とバーダックはブチ切れ過ぎてスーパーサイヤ人になっちゃったくらいだ。ツフル王はシオンベン垂らしながら命乞いしたらしい。」

フリーザ「そして全員仲良く畑の肥しですか。本当にいい気味ですよ。彼らの所為で私の商売も大打撃を受けてしまいましたからね。危うく大赤字になるところでした。」
ギリツ

ベジータ「しかし、それをすぐに立て直したのですから、流石『宇宙貿易の帝王』フリーザ様としか言いようがありません。」

フリーザ「ほっほっほっ! いえいえ、これも貴方達サイヤ人の『最野菜』のおかげですよ。これが無ければあんなに早く立て直す事は出来なかつたでしょう。」

ベジータ「そう言っていたら光栄です。」ペコリ

フリーザ「本当に感謝してしますよ。商売の事もそうですが、最野菜のおかげで息子のフリーザの野菜嫌いも治りました。今では野菜が主食といつても良いほど食べてるんですよ。」

ナツパ「へっへっへっ! そいつあ農家冥利に尽きるつてもんですぜ!」

フリーザ「まあ、それは私も同じなのですがね。それに兄のクウラも最野菜のほうれんそうが大好物で毎日そればかり食べて、遂にはメタルクウラになってしまったくらいです。まったく我が兄ながら呆れたモノです。」ホツホツホツ

ベジータ「最野菜のほうれんそうは鉄分がたっぷりですからね!」ドヤツ

フリーザ「だからといってメタル化するほど食べるものでもないでしょう? まあ、それで大幅に戦闘力を上げた様ですから試してみたくもありませんが。」

ベジータ「それでしたら、スーパーサイヤ人が丹精込めて育て上げた『伝説のスーパー最野菜』などいかがでしょう?」

フリーザ「ほう! 『伝説のスーパー最野菜』ですか。興味深いですねえ。』ワクワクベジータ「こいつはスーパーサイヤ人が手塩にかけて育てた最野菜の中でも一億分の

1の確率でしかできない栄養満点の黄金に輝く究極の最野菜なんです!」バーン!

フリーザ「でもお高いんでしょう?」

ナツパ「通常1つ惑星1つ分の値段のところ! 今回は超お得様であるフリーザ様の為に特別価格!」バツ

ベジータ「1億宇宙ゼニーの大特価でお売りいたします!!」ドドン!

フリーザ「買ったあ!!」ダン!

ベジツパ「ありがとうございまーす!!」ペコリ

フリーザ「支払いはクレジットカードで頼むよ。5回払いだ」スツ

ナツパ「一括じゃないんですかいw」

フリーザ「これは個人的な買い物ですからねえ。月の小遣いを考えるとこれが精一杯です。」

ベジータ「宇宙貿易の帝王も奥さんには敵いませんか。」

フリーザ「これも妻帯者の宿命ですからね。」ヤレヤレ

ナツパ「たしかにw」

ベジータ「それではフリーザ様。こちらが伝説のスーパー最野菜でございます。熱を加えると栄養素が失われてしまいますのでそのままお食べください。」ドシン

フリーザ「なんと大きな黄金のカブでしょう!? これは非常に食欲がそそられない見

た目ですが、最野菜がおいしくないはずがない! さつそく頂きましょう!」ヒヨイ

シヤクリ・・・シヤクシヤク・・・

フリーザ「・・・」ピタッ

ベジータ「フリーザ様?」

ナツパ「どうしました?」

フリーザ「うーまーいーぞーーーーーーー!!!」

ベジータ「ぐおおおお!」ズザザザ!

ナツパ「うぐっ!!」ドガン!!

ドドドドドドドドドドドド!!

ゴールデンフリーザ「素晴らしい。なんとという旨味。なんとという栄養。私の全細胞が歓喜に打ち震えているっ!。これが伝説のスーパ―最野菜。これほど美味しい物がこの世にあったとは・・・。感謝しますよベジータさん。おかげで私は新たなステージに立つ事ができました。」シユインシユインシユインシユインシユイン:

ベジータ「そ、それはよかったです・・・」ゼエゼエ

ナツパ「壁にめりこみ

ゴルフリ「それではベジータ王のところに行くとしましようか! 進化した私の経営力を見せて差し上げましょう!! 私の経営力は53兆です!! ほーーーーほっほっ

ほっほっほっほっほっ……」

バシユウウウウウウウ……!!!

ベジータ「……地球に行くか。」

ナツパ「ピクピク

——地球 東の都近郊——

ゴオオオオオオオ!!……ズドン!!……プシユー

ベジータ「ようやく着いたか。ここが地球。なかなか良い星だ。開拓し甲斐がある。」

ゴキゴキ

ナツパ「そうだなベジータ!」クン!

ズアオ!!!

東の都の住人A「うぎゃー……!!! 都の地面が一面菜っ葉畑に!」アタフタ

東の都の住人B「一体何が起こっているんだ!? 天変地異の前触れか!」アタフタ

東の都の住人C「あら〜。食費が浮くわ〜。」ヌキヌキ

ザワザワ……

ベジータ「おいナツパ! 新しい星に着く度にクンする癖を治せと言ってるだろう!」

ナツパ「すまねえベジータ。新しい星に来ると気分が高揚しちゃってな。ついやっちゃったぜ。」テヘペロ

ベジータ「まあ、気持ちは分からんでもないがな。だが、人が住んでる場所でやるのは止めるよ。今度やったらナノハに言い付けるからな!」

ナツパ「そ、それだけは勘弁してくれ! かあちやんの収束エネルギー砲は死ぬほど痛えんだ!!」ガクガク

ベジータ「死ぬほど痛いだけで死なんのだから問題ないだろう?」

ピピピピッ

ベジータ「ん? 農業力の高い連中がまとまっている場所があるな。ラディッツ達か。」

ナツパ「みてえだな。おし! さっそく行くとしようぜ!」

ベジータ「ああ。この星の農民の実力を見せてもらおうとしよう。」

バシウウウウ

悟空「かーめーはーめー波ー!!」ズドオオオウツ!!

ラディツツ「いいぞカカロツト! 見事な畝だ! だがこれで満足するんじゃないぞ! 真の農家は一撃で100ヘクタールの畑を耕す。今のは精々1ヘクタールだ!」

悟空「くそー! やっぱ農業は難しいぞ! けど、どんどん強くなってる実感がある! やっぱ農業ってスゲーな!! (農業力1万)」

ピッコロ「ちっ! こっちはまだ畝を作るので精いっぱいだったのに孫の野郎、どんどん腕を上げやがる! ぜったいに負けんぞ! (農業力6000)」

悟飯「大丈夫ですよピッコロさん! 畝ができるようになれば後は範囲を広めるだけです! すぐにヤムチャさんみたいに自由自在に畑を作れるようになりますよ! (農業力5万)」

クリリン「いや、あれはもう次元が違うだろ。(農業力4500)」ヒクヒク

天津飯「流石はエリート農民と言ったところか。くっ、くくく:(農業力3000)」ピクピク

チャオズ「ヤムチャ、おまえがナンバーワンだ! ぶくくくっ! (農業力2500)」ブルブル

ヤムチャ「うるせー! 畑の肥しにすんぞ!! (農業力20万)」ズガガガガガッ

悟空「ひゃー! すげえなヤムチャ! 操気弾でどんな畑ができてくぞ! オラも負けてらんねえな!」

ラディッツ「やはり俺の目に狂いはなかった。本気で一族入りを検討せんとな．．．むっ! この強大な農気は!？」

ギユウウウウウ．．．スタツ スタツ

ベジータ「ふっ、久しいなラディッツ。そいつがカカロットか。」デコツ

ナツパ「バーダックの奴にそっくりじゃねえか! そんなでそちのちっこいのが息子か!」ツルン

ラディッツ「そのとおりだ。カカロット、悟飯。この二人はベジータとナツパ。ベジータはサイヤ人の王子でナツパはその指導役を務めた程の人物だ。今回はお前達の為に来てもらった。」

悟空「ひゃー! たしかにすんげえでつけえ農気持つてんな! オツス! オラ悟空! よろしく頼むぜベジータにナツパ!」

悟飯「よろしくお願いします!!」ペコリ

ナツパ「ほう。聞いてたより随分マシじゃねえか。これなら思つてより楽そうだな。」ピピピピ

ベジータ「ふん、どうだかな。息子の方は兎も角カカロットの方は1年で元の農業

力に戻った程度だぞ？　これでは先が思いやられる。」

ラディッツ「そう言ってくれるな。カカロットは去年まで武術一辺倒だったのだ。基礎の基礎から教えてきてようやく本格的な指導を始めたところなんだ。熱意とやる気は十分ある。ここから急成長することだろう！」

ナツパ「そいつが身内びいきじゃなけりやいいがな。」

ベジータ「まあ、この俺の特別指導プログラム『ベジータ様のお野菜地獄』を受ければ嫌でも農業力が上がる。あとは最後までついてこられるかだ。」

ナツパ「カカロット達とナメック星人はともかく、地球人がついてこられるか見ものだぜ！」

クリリン「ちよっ!?　俺達も受けるんですか!?!」ギョツ

ベジータ「当然だろう？　貴様らはこの農場の従業員なんだ。このプログラムを受ける義務がある。」

ヤムチャ「ちなみに拒否権は？」

ナツパ「あるわきやねえだろう！　まあ、おまえほどの農民にや簡単すぎてあくびが出ちまうかしんねえけどな！　通過儀礼だと思つて我慢してくれや。」

ベジータ「そうだな。地球最高の農夫ヤムチャ。貴様の勇名は惑星ベジータまで轟いている。俺の父であるベジータ王も一族に迎え入れようと親族の中からお前にピツタ

りの娘を選んでいるところだ。貴様には期待しているぞ!」グツ

ラディッツ「なんと! もうそこまで話が進んでいたのか! よかったじゃないかヤムチャ!」

悟空「おー! ヤムチャおめーブルマに振られたばっかだから丁度よかつたじゃないか!」

天津飯「祝福するぞ・・・地球最高の農夫ヤムチャ・・・」ピクピク

チャオズ「結婚式には呼んでね! 地球最高の農夫ヤムチャ!」プルプル
ピッコロ「雌雄がある種族は面倒だな。」

ヤムチャ「だー!! てめえら全員堆肥に混ぜて熟成させてやらあー!!」ゴオ!!
シユン!

サイバイマン「足元がお留守ですよ?」ガッ

ヤムチャ「ぐえ!」ガクン

サイバイマン「ヤムチャしやがって・・・」ダキツ

ヤムチャ「ちよ!? おまつ!?」ジタバタ

サイバイマン「さよなら天さん」ウルツ

天津飯「さ、サイバイマン!」

ドオオ

!!!!!!!!!!!!

ヤムチャ「プスプス

チャオズ「ヤムチャはパオズ農場の中で最弱。」ペッ

ピッコロ「サイバイマンごときにやられるとは我らの面汚しよ。」ケツ

天津飯「くっ！サイバイマンっ！馬鹿な事をつ」グズツ

クリリン「いや!? ヤムチャさんの心配しましょうよ!」ビシッ

ベジータ「心配するな。ヤムチャよ、これを食べ。」グイッ

ポリポリ・・・パアアアアッ!!

ヤムチャ「はぁ・・・これは良い物だ。」ムクリ

クリリン「ヤムチャさんよかったー！ つてあれ？ ベジータさん、仙豆持ってたん

ですか？」

ベジータ「仙豆？ いや、今のは大豆だ。サイヤ人が育てた大豆には超回復効果があ

る！」ドン！

ヤムリン「なん・だと!?!」

ナツパ「流石最野菜だよな！」グッ！

ラディッツ「ああ！ 開拓には欠かせない作物だ！」グッ！

悟空「ひゃー！ 最野菜つてすげえな！ オラも早く作れるようになりてえぞ！」ワ

クワク

悟飯「サイヤ人の持つ農気が作用しているのでしょうか？　これが解明できれば多くの人々を助ける事ができます。」メモメモ

ワイワイガヤガヤ

ヤムリン「……………サイヤ人って怖い」

……………

半年後

悟空「おりゃー!!かめはめ波ー!!（農業力50万）」ズドオオオオウツ!!

ピッコロ「負けるかあ!　魔貫光殺砲ー!!（農業力35万）」ギャルルルルル!!

ドオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!

クリリン「おーおーやってるやってる。ベジータの訓練と界王星での実習は全員クリ

アしたけど、もう俺達じゃ足元にも及ばないなあ…………（農業力2万）」↑太陽拳で日照

不足を補いながら気円斬で草刈り中

天津飯「仕方ないだろう。あいつ等は農耕民族だ。地球人の俺達とは身体の作りが違

う。（農業力1万3000）」↑同じく太陽拳で日照不足を補いつつ、四妖拳しながら四

身の拳して収穫中

チャオズ「でも収穫とかはボク達の方が上！（農業力8000）」↑太陽拳以下略しながら超能力で出荷用に箱詰め作業中

ナツパ「収穫で作物を傷つける訳にはいかねえからな。畑作るみたいになんかできねえのさ。だから普段はサイバイマンにやらせてんだ。」↑太陽拳以下略しながらサイバイマンの種を採っている

サイバイマン「あつあつあつあつ」クチュクチュ

クリリン「あー・・・確かにサイヤ人の人達って細かい作業とか苦手そうですよね。」
シユバババババ

ナツパ「それと頭を使う事とかもな！ だからそういうのはフリーザ様のとこに頼んでんだ。」

ベジータ「まあ、いつまでもそれではダメだから少しずつ改革していくつもりだがな。差し当たってラディッツに経営について学ばせるつもりだ。」ヌツ

天津飯「帰ったのかベジータ。ブルマとのデートはどうだった？」ニヤニヤ
ベジータ「だ、誰がデートなんぞするか！ あいつに会っているのはホイホイカプセルの技術を得る為の交渉と経営について学ぶためだ!!」アタフタ

クリリン「はいはいツンデレツンデレ。それにしてもラディッツに経営を学ばせるって意外だなあ。あいつってそんなに頭良かったっけ？」

悟飯「僕に勉強を教えてください。この間も化合物の化学式について教えてくれました。(農業力20万)」ヌツ

ナツパ「おっ! 今日はこちらに来たのか! 勉強との両立なんてすげえ奴だな。とてもカカロットの息子とは思えねえぜ!」ガハハハハッ

クリリン「よく考えれば悟飯はまだ5歳ですからね・・この歳で研究までやってるんですから未恐ろしいですよ。」

悟飯「研究なんてそんな! 僕はただ、農気が野菜に及ぼす影響をしらべてるだけですよう!!」フルフル

天津飯「論文まで書いておいてそれは無いだろ。」ビシッ
ザッザッザッ

ラディッツ「二人とも畑を耕すのは完璧だ。次はそれと同時に作付もできるようになる。これができれば一人前の農民と言っても良い。」

悟空「ひやー! まだまだ強くなれんのか! オラ、ワクワクが止まんねえぞ!!」

ピッコロ「孫! 次こそは俺が先に習得するぞ! 何時までも自分が上だと思ふなよ

!

悟空「オラだって負けねえぞピッコロ! どっちが先に出来るようになるか競争だ

!

ワインワイン

チャオズ「あ！ ラディッツ達、来た！」

クリリン「お！ それじゃあ休憩にするか！ ヤムチャさん！ そろそろ休憩にしましょうよー!!」ブンブン

ヤムチャ「・・・」スツ

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

ヤムチャ「真・農家風風拳!!」カツ！

シユババババババババツ・・・ドサドサドサドサドサ・・・

ヤムチャ「ふう」

クリリン「すげえ・・・ヤムチャさん、一瞬でトマトの収穫を終わらせちゃった・・・」
ゴクリ

天津飯「しかもあの一瞬で丁度出荷できる状態のトマトだけを選んで収穫してやがるっ」タラリ

ラディッツ「最早奴の農業力は俺を凌駕している・・・恐るべき漢だ！（農業力80万）↑ベジータブートキャンプを一緒に受けた

ヤムチャ「・・・ああ、何て清々しいんだ！ 土の香りに包まれながら作物達と戯れる・・・農業つて本当に素晴らしい！（農業力100万）」キラキラ

ピッコロ「おい、あいつどうしたんだ？ ついこの間まで農業嫌がつてたのに今じゃ嬉々としてやりやがる。正直気持ち悪いぞ。」

ベジータ「ああそれは、洗脳・・・もとい教育の成果だ。先週一週間サイヤ人の農業論をイヤホンで延々と聞かせ続けたからな！ 今では立派な超農民だ！」

クリリン「ヤムチャさん・・・農業力が高いばかりにつ・・・憐れ過ぎる・・・」グ
スツ

ヤムチャ「おや！ みんな休憩かい！ 僕も丁度収穫を終わらせたところだよ！」サ
ワヤカ〜

チャオズ「キモイ！ ヤムチャ、あっちいけ！」ゾワゾワ

悟空「ひゃー！ ヤムチャすつげえうぜえぞ！ オラ、イライラしてきたぞ！」ピキ
ピキ

天津飯「その鬱陶しい髪の毛ひっこ抜くぞ！」ボキボキツ
クリリン「すみません、フォローできません。」

ヤムチャ「おやおや皆つれないな。しょうがない。僕は重力室で感謝のクワ振り10000回をしてくるとしよう。今日はまだやって無かったからね！ はっはっはっ！」
キラキラキラ：

ナツパ「・・・ベジータ。やり過ぎたんじやねえか？」

ベジータ「そうだな。今夜あたり調整しておこう。」

・・・・・・・・・・・・・・・・

数週間後

——カプセルコーポレーション——

ベジータ「全員良く集まってくれた。」

ラディッツ「どうしたというのだベジータ？　とうとうブルマとの婚約発表か？」

ナツパ「そいつは目出度えな！　あのムッツリベジータがようやく結婚か！」

悟飯「おめでとうございます！」

ベジータ「だだだだだ誰があんな農業力の低い女と結婚なんぞするか！　あいつ

とはビジネスライクの関係だと何度も言ってるだろうがっ!!」キョドキョド

天津飯「ほう？　その割には腕を組んだりキスしたりしているようだが・・・」

ベジータ「ダニイ! 貴様つ、何故それを知っている!」バンツ!

天津飯「別に知らん。だがマヌケは見つかつたようだな。」ニヤツ

ベジータ「はっ!」(・ロ・ロ Ⅱ ・ロ・ロ) キョロキョロ

ヤムチャ除く一同「ニヤニヤニヤ」

ベジータ「・・・消えて無くなれ!!」キユイーン:

ラディッツ「待てベジータ!? 俺達が悪かつたから落ち着いてくれ!」ガシツ

ナツパ「もうからかわねえからギャリツク砲は勘弁してくれ!」アセアセ

ヤムチャ「それより早く話を続けてくれよ。ブルマの話は地味にダメージを受け

る・・・。」ズーン

天ナツツ「ニすまんかつた。」

クリリン「あはは・・・。それでどうしたんだよベジータ? 突然呼びだしたりなん

かして。」

ベジータ「・・・ああ、それが惑星ベジータから連絡があつてな。フリーザ様がナメツ

ク星に向かわれるそうさ。」

ピッコロ「ナメツク星だと? 異常気象で滅んだんじやなかつたのか?」

ベジータ「どうやら少数だが生き残っている連中が居た様だな。土壌や水質を改善し

ながら細々と暮らしているらしい。」

ラディッツ「フリーザ様はそんなところに何をしに行くというのだ？ サイヤ人なら兎も角フリーザ様が行く理由が無いだろう？」

ベジータ「これを聞いたときは俺も耳を疑ったが、あのドラゴンボールの存在がナメック星で確認されたらしい。」

ナツパ「な!? それは本当か!? だったら俺達も急いで行かねえと!!」バン!

悟空「ドラゴンボール? それなら地球にもあんだろ?」キョトン

ラディッツ「馬鹿者! ナメック星のドラゴンボールに比べれば地球のドラゴンボールなんぞ唯の石ころだ!!」

クリリン「そんなに凄いモノなのか!!」ギョツ

天津飯「フリーザはそれで何を望むというんだ!?!」

ベジータ「決まっているだろう! 不老長寿だ!!」バン!

ヤムチャ「な、なんだってー!?!」

クリリン「(不老不死の間違いじゃないのか?)」

悟飯「(フリーザさんは健康志向なのかな?)」

ベジータ「そういうわけで、すぐにナメック星に向かう必要がある。そこでせつかくだからお前達も一緒に連れていこうと思つてな。」

ラディッツ「なら俺とカカロット、悟飯は決まりだな。ドラゴンボールも気になるが、

ナメック星の土壌と水質の改善方法を学びたいからな。」

悟飯「環境汚染は地球でも問題になっていきますからね。しっかりと勉強してきましょう!」

悟空「オラはナメック星の食い物が気になるぞ! どんなものがあるのか楽しみだ!」

ピッコロ「俺も行くぞ。故郷がどんな場所か興味がある。それとナメック星人の農法にもな。」

ナツパ「それじゃあ俺は残るか。ドラゴンボールは気になるが、収穫がまだ終わってねえからな。」

天津飯「それなら俺とチャオズも残ろう。収穫なら皆より上手くできる。」

チャオズ「そうだね天さん!」

ヤムチャ「あ、だったら俺も居残りで・・・」

ベジータ「当然ヤムチャは一緒に行くぞ。お前はナメック星で更なる進化を遂げるこ
とだろう!」

ヤムチャ「そんな事だろうと思ったよ!!」

クリリン「あははは・・・。頑張ってくださいねヤムチャさん。俺は稲刈りの準備がありますから・・・」ソソクサ

ヤムチャ「そんなこと言うなよ大親友のクリリンくん。俺と一緒にナメツク産の作物の採種と洒落込もうぜ！」ガシッ

クリリン「離してくださいヤムチャさん！俺は稲穂をスズメ達から守らないといけないんです!!」ジタバタ

ヤムチャ「そんなのサイバイマンにやらせればいいだろ!! お前だけは絶対に道連れだー!!」グイグイ

ギャーギャー

ベジータ「それじゃあ明日の朝、ここに集合だ。ナメツク星にはブリーフ博士が作ってくれた宇宙船で向かう。寝坊するんじゃないぞ？」

ナメツク組一同「了解!!」

—こうして悟空達は地球を飛び出し宇宙の遙か遠くナメツク星へと向かう事になった。ナメツク星の農業技術とは？そしてナメツク星のドラゴンボールとは？胸に期待を膨らませ、彼らの冒険が始まる—

??? 「もうすぐだ．．．もうすぐ俺の願いが叶う! ナメツク星のドラゴンボールさえあれば、俺は嘗ての力を取り戻す事ができる! その為にも貴様の働きには期待しているぞ?」

??? 「くつくつくつ。任せてくれよ旦那。だが、そいつが手に入ったらナメツク星を好きにしているんだよな?」

??? 「ああ、ドラゴンボールさえ手に入ればあんな星に用は無い。貴様の好きにしろ。」
??? 「そうさせてもらうぜ。あんたにとつては価値は無くても俺にとつては大事な資源だ．．．ああ、楽しみだなあ。早く真つ赤な果実を食いたいぜ．．．」ジュルリ

つづく

ゴールデンフリーザ「さあ、行きますよ!! ビューティーザーボンさん! スリムアツプドドリアさん!」

ビューティーザーボン「はっ! 進路：ナメック星! 宇宙船ギャラクシーフリーザ・発進せよ!!」バツ

スリムアツプドドリア「野郎共抜かるんじやねえぞ! フリーザ様長年の夢が掛かってるんだ! 1秒でも早くナメック星に向かえ!」グツ

船員一同「はっ! 全てはフリーザ様の為に!!」

ゴールデンフリーザ「ほっほっほっ! 皆さんそんなに慌てなくても構いませんよ。安全運転をお願いします。」

Sドドリア「了解です! 野郎共! 宇宙交通法を守りつつ最短ルートで向かえ!!」
船員一同「はっ! 全てはフリーザ様の為に!!」

Gフリーザ「・・・それにしても、私が言えた事ではないですが、お二人とも随分変わりましたねえ。」

Bザーボン「これも最野菜のおかげです。あれのおかげで肌のハリとツヤがとてもい

いんです。それに本来醜かった変身後の姿もこんなに美しくなりました。」キラッ

Sドドリア「確かに。この俺でさえ素直に美しいと思える姿だ。こういうのを傾国っていうんだろうな。」スラッ

Bザーボン「ふふっ。ようやく貴様も美しいというモノが理解できるようになったか。まあ、今の私は美の化身と言っても過言ではないから当然といえど当然だが……しかし、貴様も私ほどではないが嘗ての出荷前の豚の様な姿に比べれば十分美しいといえるだろう。その姿なら私の相棒と呼ぶのも吝かではない。」シユバツ

Sドドリア「へへっ、まさかおめえからそんな言葉を聞くとはな……確かに昔の俺は食肉用に肥育された豚の様なものだった。だが俺は最野菜に出会った事で変わった! それまで俺にとって野菜なんぞ食うに値しない雑草も同じだった。でもな、最野菜はそんな俺の常識をぶち壊した! 肉汁をたっぷり吸ったキャベツ! バターで甘く焼いたニンジン! 煮汁が芯まで浸み込んだ大根! 惑星ベジータでの会食の席で最野菜を食わなけりや、俺は一生これらの旨さに気づきもしなかっただろうさ!」ドン

Gフリーザ「ほっほっほっ! そう言っていただけるとあの時あなたを連れて行った甲斐があるというものです。」

Sドドリア「ええ! 本当に感謝してます。おかげで最近息切れもしねえし、毎朝清々しく起きれるようになりやした!」

Bザーボン「やはり最野菜は素晴らしい・・・」ズキユウウン!

Gフリーザ「その通り! 最野菜こそ最高の健康食品と言えるでしょう!・・・とはいえ、流石にナメック星のドラゴンボールには敵いませんけどね。」

Bザーボン「そうですね。穏やかで善良なナメック星人のみが神々から作る事を許された奇跡の宝玉。」ズアツ

Gフリーザ「その丸く美しい橙色の果肉は栄養満点で滋養強壮効果が有り・・・」

Sドドリア「最高7つまでしかできない種は万病の特効薬!」

Bザーボン「そして、分厚くも透き通った皮にはデトックスとアンチエイジング効果!」ドギヤーン

Gフリーザ「それこそが不老長寿の妙薬とも呼ばれる龍瓜ことドラゴンボール!! ナメック星の滅亡と共に失われたと思われていたそれがまさかまだ存在していたとは!!

これは是非とも食べなくてははいけません!」

Bザーボン「しかし、それだけ貴重な物を渡してくれるでしょうか? ドラゴンボールはフリーザ様が召し上がった伝説のスーパー最野菜よりも遥かにランクの高い作物です。購入したら銀河一つの値段に匹敵するでしょうし、そもそも金銭を必要としないナメック星人が売ってくれるとも思えません。」ドドドドドドドド

Sドドリア「確かななあ・・・かと言ってあつちの価値が高すぎて物々交換もできねえ

し、無理やり奪うなんてのは以ての外だ。」ウーン

Gフリーザ「そうですわねえ……まあ、今回は顔合わせという事にして、ドラゴンボールを一目見る事ができたら良しとしましょう。」

Bザーボン「分かりました。では、今回のことを足がかりにしてナメック星人達と良好な関係を築き、いずれドラゴンボールを譲ってもらえるように努力する。その様な方針でよろしいでしょうか?」バーン

Gフリーザ「ええ、その様に。そしてドラゴンボールを手に入れた暁には、この船に居る全員で頂くとしましょう。」

Sドドリア「マジですかフリーザ様! 流石太っ腹だ!」

Gフリーザ「いえいえ。昔のドドリアさんのお腹には負けますよ。」

Sドドリア「そりゃあんまりですぜフリーザ様!」

一同「ニ「ハハハハハハハハ!!」ニ」ドツ

ヒュウウウ……カッ!!

—— ナメック星 ——

悟空「ひゃー! ここがナメック星かー! 空が緑色だぞ!」キョロキョロ

悟飯「多分地球と比べて大気が分厚いのと空気成分が違うからだと思うよ。」

ヤムチャ「よくそんなこと分かるな悟飯・・おつ！ 土は結構良いみたいだ！ これなら問題無く畑が作れるぜ！」

ラディッツ「・・・ほう。今水質を調べてみたがそのまま飲んでも問題無いくらい綺麗だ。どうやらナメック星は嘗ての生命力を取り戻したようだな。」チャプチャプ

ベジータ「ならば安心だな。それじゃあ次はナメック星人を探すしよう。」

ピッコロ「そうだな・・・ここから北に複数の気を感じる。恐らく集落があるだろう。」悟飯「そこにドラゴンボールがあるかもしれないですね？」

ラディッツ「ドラゴンボールの世話はナメック星人でも大変なものらしいからな。育てているとしたら集落の近くだろう。」

ヤムチャ「・・・ドラゴンボールを育てるって俺達からすると凄く違和感あるよな。」悟空「ああ。まさかナメック星のドラゴンボールが瓜だとは思わなかったぞ！ 食わ

せてもらえつかないか？」ジュルリ

ベジータ「お前達、無駄話はそこまでにしろ。一刻も早く集落に向かうぞ。」

一同「「「おうー」」」

バシユウウウ

——ツノ村——

ギユウウウウウ・スタツ スタスタツ

ピツコロ「あれがナメック星人の村か・・・」

ヤムチャ「なんか変な形の家だなく。強いて言うならナメックジ?」

悟飯「周りに何か植えてあります。ナメック星の野菜でしょうか?」

悟空「だったら食ってみてえなあ! 宇宙船出る前に食ってきたけど少しだったから

腹が減ったぞ!」グッ

ゾロゾロ ガヤガヤ

ベジータ「ふむ。どうやらあちらもこっちに気付いて出てきたようだな。ラディッ

ツ、ここは貴様が交渉してこい。ブルマのところでも多少は勉強してきただろ。」

ラディツツ「俺がか!?!・・・分かった。これも将来の為だ。やってみよう。」

悟飯「おじさん! 頑張ってください!」グッ

ラディツツ「ああ、まかせろ! それじゃあピツコロ、お前もついて来い。同じナメッ

ク星人が一緒ならあちらも警戒心が薄まるだろう。」

ピツコロ「分かった。」

ベジータ「まかせたぞ。俺はその間にフリーザ様に連絡をしておく。」ピピピピピッ

ザツザツザツザツ

ラディッツ「ナメック星人達よ！ 俺はサイヤ人のラディッツ！ 我々は争う為に来たのではない！ 農耕種族と名高き貴方達の農業について学びに来たのだ！ それともう一つ！ ナメック星の異常気象の折に地球に逃げのびたナメック星人の子孫を連れてきた！ どうか我らを村に入れて欲しい！」ドン！

ザワザワ

ツノノ長老「・・・ナメック星人の方、こちらに来ていただけますか？」

ピッコロ「・・・」チラ

ラディッツ「・・・」コクン

ザツザツザツザツ

ツノノ長老「・・・おお！ なんと清らかで逞しい心なのでしょう。そして、大地と自然に対する強い愛情！ ・・・分かりました。異星からの客人よ。我々は貴方達を歓迎します。」

ピッコロ「いいのか？」

ツノノ長老「はい。貴方の様に強き善の心を持った方のお友達なのですから、皆さん良い方たちなのでしょう？」ニコリ

ピッコロ「ふん。お人よしでおせっかいな連中だ。」プイッ

ヤムチャ「おっ! 友達だつてのは否定しないのか?」ニヤリ

ピッコロ「黙れ! 魔閃光!」ズオ!

ヤムチャ「ギャーギャー!!!」

ドゴオオン!!

ラディッツ「ご老人。我々を受け入れていただき感謝します。」ペコリ

ツノ長老「たしかラディッツさんでしたね。そう畏まらずに。私は長老のツノです。貴方方サイヤ人の事は私も存じ上げております。同じ農耕種族同士仲良くいたしまししょう。では、たいしたおもてなしもできませんがこちらへどうぞ。村を案内いたします。」

悟空「おう! よろしくなナメック星人のじつちゃん! できればなんか食いもん食わせてくれ! オラさつきから腹がペコペコなんだ!」グクキュルキュル

ラディッツ「やめんか馬鹿者!!」バシッ

悟飯「恥ずかしい父ですみません・・・。」ハア

ツノ長老「ホツホツホツ。かまいませんよ。とはいえ我らナメック星人は普段水しか飲まないの準備には少々時間がかかります。それでもいいのでしたら用意いたしますが?」

悟空「頼むぞ! 今ならなんでも美味しく食べそうだ!」ドン!

ラディッツ「本当にすみません。よろしく願います。」ゲシツ

.....

悟空「ふうー・・・食った食った！ オラもう腹一杯だ！」ポンポン

ラディッツ「水のみで生きられる種族と聞いていたがちゃんと料理の文化もあつたのだな。」

ピッコロ「別に食えない訳ではない。俺もガキの時は魚なんかを取って食っていた。」
ツノノ長老「その通り。ナメック星人は水からエネルギーを得ることができますが、食べ物を食べれないわけではありません。とはいえ必ずしも必要というものでもありませんので、あくまで嗜好品といった扱いですが。」

ヤムチャ「それにしてはレベルが高いと思うんだが。特にこのアジツサの漬物は一級品だぞ」モグモグ

悟飯「確か、これで水質改善をしているんでしたよね？」シャキシヤキ

ツノノ長老「はい。アジツサには水を浄化する力と土地に活力を与える能力が有りま
す。しかし、そのままだと浄化の際に溜めこんだ毒素がありますから、このように漬物
にして発酵させるのです。こうする事で毒素が分解され食べられるようになります。
それにこれは栄養がとても豊富なので体力を消耗した際に栄養食としても食べられて
います。」

ラディッツ「ほう! まさかそのような方法があるとは! 流星は嘗て宇宙一の農科学力を持つ種族と言われただけのことはある!」

ツノ長老「いえいえ、そんな大したことではありませんよ。アジツサを育てるくらいしかやる事がないのでその分時間はたっぷりありましたから。それにアジツサを発酵させて毒素を抜く方法は異常気象以前にもあつたそうなのでそれ程難しい事ではありませんでした。もつともそれは家畜の飼料用でしたが。」

悟飯「それでもすごいですよ。それになによりアジツサがすごいです! 水をきれいにして土地に活力をあたえるだけじゃなく、栄養がある食べ物にもなる! アジツサはとてもすばらしい作物です!」キラキラ

ツノ長老「ホツホツホツ。そう言っていたらけると我々も誇らしく思いますよ。」
ベジータ「・・・」ピツピツピツピツピツ

悟空「なあベジータ、さつきから何やってんだ? オメエの分も食っちゃったぞ?」
シーシー

ベジータ「フリーザ様と連絡が取れんのだ。もうとつくに到着していてもおかしくないはずなのにな・・・それとカカロット、後で覚えてろよ。食い物の恨みは恐ろしいと思ひ知らせてやる!」

ピピピピピピピピピツ

ベジータ「な!? これは!？」

ヤムチャ「どうしたんだ？」

ベジータ「ここから東の方角で突如戦闘力10万超えの反応が複数現れた。その反応はそのまま更に東に移動中。その先には3000程度の反応が複数ある。」

ツノ長老「!? その方角には同胞の村があります！」

ピッコロ「狙いはその村か・・・10万越えの方がフリーザ達と言う可能性は？」

ラディッツ「無いな。フリーザ様達の戦闘力はそんなに低くはない。」

ツノ長老「ではいったい誰が!？」アタフタ

ベジータ「・・・嫌な予感がする。ラディッツ、カカロット。俺達3人で向かうぞ。」

悟空「おう! 分かった! もし悪い奴だったらぶつとばしてやるぞ!」ゴキツゴキツ

ラディッツ「油断するなよ。戦闘力10万とはいえ数が多そうだ。」

ヤムチャ「なら俺らはここを守ればいいんだな？」

ベジータ「そのとおりだ。この反応の連中が敵だった場合、この村も襲われる恐れがある。長老、できれば安全な場所に避難してもらいたいんだが。」

ツノ長老「それでしたら近くに洞窟があります。そこに村の者達を避難させましよう。」

ピッコロ「だったら悟飯も護衛として一緒に行け。俺とヤムチャは村に残り、奴らが来た場合に迎え撃つ。」

悟飯「わかりました! ピッコロさん達も気を付けてくださいね!」グツ

ヤムチャ「やれやれ、まさかこんなことになるとはな。一体何が狙いなものやら。」ハア
ラディッツ「・・・! そうかドラゴンボール!」ハッ

悟空「そういえばオラ達、元々ドラゴンボールを探しに来たんだつたな。アジツサの漬物で忘れてたぞ。」

ベジータ「なら急がなければ! ドラゴンボールを奪われる訳にはいかない!!」

ツノノ長老「それでしたらご安心を。ドラゴンボールは既に収穫して最長老様の下に集められています。あそこはナメック星で一番安全です。」

ヤムチャ「そういうことならとりあえず安心か。」ホッ

ピッコロ「だが村が襲われる可能性があるのだからのんびりしてられん。すぐにでも行動を起こそう。」

ベジータ「そうだな。では俺達は東の村に急行する。お前達も抜かるなよ!!」

ピッコロ「そつちこそな!」

——ムーリ村——

どどめ色のサイバイマン「ギャギャギャギャー!!」 シャツ

カルゴ「うわあー!!」 ギュツ

悟空「でえりやー!!」

ゴキイ

どどめ色のサイバイマン「ギャオウ!?」 グシャ

悟空「大丈夫か?」

カルゴ「あ、ありがとうございます!」

デンデ「どなたか存じませんが助かりました。」

ラディッツ「坊主共! いいから早く逃げろ! こいつらは俺達が引きうける!」

ブルサンデー!!」 ポヒユウウン!!

デンデ「わ、分かりました」 ダッ

カルゴ「皆さんもお気をつけて!」 タッ

どどめ色のサイバイマン、S「二」ゲギャギャギャ!!」三」ピョンピョン

悟空「なんなんだこのサイバイマンは? 気持ち悪い上に凶暴だぞ!!」 バキッ

ベジータ「こいつらはGMマンだ! サイバイマンを遺伝子組み換えで極限まで戦闘

に特化させたツフルの負の遺産! 何故こいつらがこんなところに!!」 ブバババババ

バババツ

ラディッツ「GMマンはツフル殲滅時に全て破棄したのではなかったのか!」ギユオオオオン!!

ベジータ「その筈だが・・・!」バシツ

???「ちっ・・・防がれたか。完全に不意打ちだと思ったんだがなあ。」

ラディッツ「誰だ!!」ポヒユウウン!!

ドオオオオオオオオン!!

ターレス「いきなりご挨拶だなあ。親の顔が見てみたいぜ。」ザツ

悟空「な!? オラと同じ顔?」ギョツ

ラディッツ「親父・・・な訳ないか。その卑しい面・・・貴様がターレスか!」

悟空「ターレス? あいつもサイヤ人なのか?」

ベジータ「あいつはサイヤ人であつてサイヤ人でない。奴はツフル人が貴様の父バードックの遺伝子を元に生み出したクローン戦士だ。GMマンと同じように遺伝子操作されていて、農業に欠片も興味を持たず、戦いと殺戮を好む凶暴な男だ。」

ターレス「おいおい、俺だつて農業に興味はあるんだぜ王子様。今日もこのナメック星で赤い果実を栽培しようとしてきたんだ。」

ベジータ「何が農業だ! 貴様が使う神精樹の実は星の生命を吸いつくし死の星へと

変える！ そんなものは農業とは言わん！ 農業とは星との究極のコミュニケーション！ つまり星と共に生きるといふ事だ!!」 バツ

ターレス「くつくつくつ。そう邪険に扱うなよ。お前らも一度食ってみれば神精樹の実際の素晴らしさが分かるはずだぜ？」

ラディッツ「誰が死の果実なんか食うものか！ ターレス！ 貴様はバーダックの息子として俺が殺す！」 グツ

悟空「よく分かんねえけど、オメエは悪い奴みてえだな！ いっちよ畑の肥しにしてやっぞ!!」 バツ

ターレス「おっと、悪いが俺は戦う気はないんでね。GMマン、こいつらの相手は任せたぜ。俺はドラゴンボールの捜索を続ける。」 ヒュン

GMマン「ギャウ!!」

ラディッツ「待ちやがれ!!」 ダツ

ベジータ「生まれラディッツ!!」

GMマン、S「二」ギャギャギャギャギャギャ!!」 ギューン・・・カッ!

ドオオ

ラディッツ「ぐお」 ドガン!

ベジータ「くう」 ズザザザザ

!!!!!!!

モクモクモク

悟空「兄ちゃん! ベジータ! 大丈夫か!」バツ

ベジータ「ああ、問題ない。」

ラディッツ「こつちも大丈夫だ・・・すまん、先走っちゃった。」ガラツ

ベジータ「気にするな。貴様が熱くなるのもしょうがない。」

悟空「それでこれからどうすんだ? あのターレスって奴を追うのか?」

ベジータ「・・・奴の狙いはドラゴンボールを奪う事と神精樹を育てることだ。両方阻止するのはもちろんだが、神精樹の方が厄介だ。だから俺とラディッツでターレスを追う。カカロット、おまえはピッコロ達と合流して最長老のところでドラゴンボールを守れ。」

悟空「分かった。ピッコロ達のところにもGMマンが来つかもしれねえから急いで向かうぞ。」バシユウウウ

ラディッツ「他のナメック星人の村はどうする?」

ベジータ「・・・確か、ナメック星人同士はテレパシーでやり取りができたはずだ。この村のナメック星人に事情を話して避難を促そう。」

ラディッツ「よし、ならば先程助けたナメック星人が南の方に居るようだ。そこに向かうとしよう。」ピピピッ

—— ツーノ村 ——

ヤムチャ「農家風風拳!!」ノオン!

GMマン[S]「ニギヤアー!?」ザシユザシユザシユツ

ピッコロ「戦闘力が低いくせによくやるな!」ガツ

ヤムチャ「何時までもサイバイマン如きにやられるヤムチャ様じゃないぜ! 俺の農

家風風拳は相手が植物ならなんだって刈り取る!」ノオン!

GMマン「アシモトガオルス・・・」

ヤムチャ「じゃねえよ!」ノオン

GMマン「ギョエー!!」ザシユ

ヤムチャ「ふっ。感謝のクワ振り10000回で鍛えた足腰は伊達じゃねえぜ!!」

???「ほう・・・GMマンの相手ができる奴がこの星に居たのか。」ザツ

ピッコロ「!? ナメック星人? だがなんだこの邪悪な気配は・・・」ゴクリ

スラッグ「ふん。この俺をそんな劣等種共と一緒にするんじゃない。俺の名はスラツ

グ。超越種足る超ナメック星人だ。」ドン

ピッコロ「気を付けろヤムチャ。こいつはきつきの奴らが足元にも及ばんほど強い

ぞ。俺でもまともに戦えるか分からん。」

ヤムチャ「な!? それじゃあどうすんだよ!?」

スラッグ「フッフッフ。どうやら力の差が理解できる程度の実力はあるようだな。どうだ? この俺の部下になるというなら命は助けてやろう。」

ピッコロ「冗談ではない! ここで貴様に屈すればナメック星人達の命は無い! 貴様はなんとしてでもここで仕留める!」バツ

ヤムチャ「やつぱりそれしかないよなあ……ハア、まったく地球を征服するとか言ってた奴が随分変わったもんだよな!!」グツ

ピッコロ「それは俺が一番驚いてる!」

スラッグ「どうやら頭の方は良く無かったようだな。よかろう、貴様らはここで死ぬ。」

ヤムチャ「はああああ!! 狼牙風風拳!!」ウオン

スラッグ「遅いわ!」ゴツ

ヤムチャ「ぐわあ!!」

ピッコロ「魔光砲!」パヒユウ:

スラッグ「温いわ!」ピツ:ドオオオオオン!!

ピッコロ「がっ」

スラッグ「弱すぎるわ!!」カッ

ズドオオオオオオオオオ
!!!!!!

パラパラパラ

ヤムチャ「……」ボロツ

ピッコロ「……」ボロツ

スラッグ「ふん。この程度か。」

ピーーーーー!!!

スラッグ「ぐお!?」なんだこれは……頭が……割れるっ!?」グギギギギ

ヤムチャ「ぐっ……10倍……界王拳!!」ダキッ

スラッグ「何!? 貴様!」

サイバイマン[S「「ギャギャギャー!!」」ダキダキダキッ

スラッグ「なんだこの力は!? 貴様ら離さんか!?」グググググッ

ヤムチャ「ピッコロ! 今だやれーっ!!」ビキビキビキ

ピッコロ「20倍界王拳……魔貫光殺砲!!」ギャルルルル!!

スラッグ「ぐっ……ぐおおおおおお!!」

ドサリ

悟飯「ピッコロさん!」ヒュン

ピッコロ「助かったぞ悟飯。お前が来なければやられていた。」

悟飯「でもヤムチャさんが・・・」グスツ

ヤムチャ「はあく・・・これは良い物だ。」ムクリ

ピッコロ「問題無い。最野菜の大豆があるからな。」グツ

ヤムチャ「ああ! 最野菜の大豆が無ければ死んでたぜ!」グツ

悟飯「よかったですヤムチャさん! やっぱり最野菜ってすごいですね!」

サイバイマン[S]「「ギャウギャウ!!」」

ヤムチャ「それはそうと、あいつが気がつく前に止めを刺しちまおうぜ。ナメツク星

人は頭さえ無事なら再生できるんだろ?」

ピッコロ「かなり体力を消耗するがな。よし、では止めを・・・」

サイバイマン[S]「「!?ギャギャギャ!!」」バツ

ドオオオオオオオン!!

悟飯「え!? サイバイマン!」

ヤムチャ「俺達を庇ってくれたのか!」

ピッコロ「クソツ、もう気がついたのか!」

スラッグ「ぬううう!! こんな雑魚共にこの俺が追いつめられるとは!! 許さん!

絶対に許さんぞ!!」ゴゴゴゴゴゴツ

ピッコロ「不味い。かなり消耗しているようだが、奴は本気だ。先ほどまでの油断がない。」タラリ

悟飯「たぶん、口笛ももう効かないと思います。」ゴクリ

ヤムチャ「じゃあ今度こそどうすんだよ!? あれじゃあ最野菜の大豆がいくらあつても足りないぞ?!」アワワワ

スラッグ「・・・ドラゴンボール・・・やはりドラゴンボールが必要だ! ドラゴンボールで若ささえ取り戻せば、貴様らの様な雑魚に煩わされることもない!! 貴様らっ・・・この屈辱は忘れんぞ! 必ず血祭りに上げてくれるっ!!」

バシユウウウ

ヤムチャ「・・・どうやら命拾いしたみたいだな。」フウ

ピッコロ「ああ。だが奴を放っておく訳にはいかん。奴がドラゴンボールを手に入れる前に倒す必要がある。」

ヤムチャ「あの爺の状態でさえ物凄い強さなのにドラゴンボールで若返つたらどれだけ強くなる事か・・・考えただけでちびりそうだけ。」ブルル

悟飯「消耗してたし、ベジータさんなら倒せると思うんですけど・・・」

ギユウウウウウ・・・スタツ

悟空「オメエ達無事か!」

悟飯「お父さん! はい! 敵に襲われましたがなんとか撃退しました。」

ヤムチャ「まあ、まぐれで勝てた様なもんだけどな。そっちはどうだった?」

悟空「おう、こっちもかなりやべえことになったぞ! 早く最長老つて奴のところに行かぬえと!」

ピッコロ「どうやら敵はスラッグだけではないようだな・・・よし、情報を交換しながら最長老達のところに向かうぞ。最長老とやらの居場所を聞き出さねば!」

—ナメック星に訪れた最大の危機。ドラゴンボールを狙う悪の超ナメック星人スラッグ。そして、ナメック星を神精樹の糧としようとするGMサイヤ人ターレス。果たして悟空達は二つの悪意からナメック星を守る事ができるのか。ナメック星の存亡をかけた戦いが始まる—

つづく

ターレス 「どうあつてもドラゴンボールを渡さねえつもりか？」

ツムリー 「お・・・おのれ・・・な、なんとということをして・・・き、きさまなどに渡してたまるか・・・！」ゼエゼエ

ターレス 「まったくナメック星人って奴は頑固な連中だぜ。素直にドラゴンボールを渡せば苦しまずに済んだのによ。」ヤレヤレ

ツムリー 「ほざけ！ ドラゴンボールを渡したところで貴様は同じ事をしただろう！！」

ターレス 「ご明答。俺は弱え奴を痛めつけるのが大好きだからな！」キユイイン

ベジータ 「ギャリック砲!!」バツ

ドゴオオオン!!!

ターレス 「ちっ！ もう追いついてきやがったか。」シユン

バシイ!!

ベジータ 「ラディッツ！ 貴様はナメック星人の治療に専念しろ！ 俺がターレスを

仕留める！」ダダダダダダダダダ！！

ラディッツ「分かった！ くそつ、避難が間に合わなかったか！ オイ！ 貴様、これを食え！」ゴソゴソ

ツムリー「俺よりも他の者達を・・・今ならまだ間に合う・・・」

ターレス「おっと、させるかよ。GMマン！」バシバシバシバシバシ！！

GMマン☒S「「ギャギャギャギャ！！」」バババツ

ラディッツ「ちい！ まだ居やがったのか！ サイバイマン！ お前らでナメック星人を救助しろ！ 俺が奴らの相手をする。」ダツ！

サイバイマン☒S「「ギャウギャウ！！」」敬礼！

ガシツ ググググググググググツ・・・

ターレス「ヒーヒツヒツヒツ！ 楽しいなあ王子様！ 弱え奴を矚り殺すのもいいが、偶には強え奴と戦うのもいいもんだ！ このいつ死ぬかもしれねえスリルがたまねえ！！」

ベジータ「この戦闘狂が！ そんなに戦いたいんだつたらさつさと地獄に落ちやがれ！ あそこなら永遠に戦い続けられるぞ！」

ターレス「はっ！ 死ぬのなんて御免だぜ。それに地獄じゃ神精樹の実が食えねえだ

ろうが！」バシイイ！！

ベジータ「そんなものより最野菜を喰らいやがれええええ！！」バシユウウウ！！

ターレス「俺は野菜が大っ嫌えなんだよおおお！！」ギユポオオオオン！！！！！！！！！！

ドオオオ

！！！！！！！！！！

ラディッツ「これで最後だ！」

グシャツ！！

ラディッツ「ちっ、ゴキブリみたいに逃げ回りがつて・・・サイバイマン！ そっ

ちは終わったか！」

サイバイマン「S」「ギャウギャウ！」

ツムリー「お前達のおかげで皆助かった。ありがとう。」

ラディッツ「当然の事をしたままだ。それより確認なんだがこのドラゴンボールも既に最長老の下に移されているんだな？」

ツムリー「ああ、ムーリ長老がテレパシーで伝えてくれたおかげで奴が来る前に送る

事が出来た。感謝する。」

ターレス「そいつあいこと聞いたなあ・・・」ユラア

ラディッツ「!? ターレス!?」ブン！

ターレス「おっと・・・危ねえなあ・・・こっちは王子様との戦いでボロボロだつてのにひでえ奴だ。」ヨロツ

ラディッツ「貴様・・・ベジータはどうした!?!」

ターレス「王子様ならアジツサとかいうのを庇って倒れたよ。」

ラディッツ「なんだと!?!・・・貴様、アジツサを攻撃したというのか!!」ワナワナ

ターレス「つたく、あんな雑草消し去つたくらいでなに怒つてんだか・・・これだからサイヤ人は。」ヤレヤレ

ラディッツ「ふぎけるなつ! アジツサは星に活力を与える奇跡の作物なんだぞ!?

それを雑草呼ばわりした挙句、消し去つただと?・・・ぜつたいにゆるぎん!!!」ゴゴゴゴ!! チカツ:チカツ:

ターレス「・・・ほんと、サイヤ人のこういうところは理解出来ねえぜ。まあ、理解したくもねえけど。」

ラディッツ「覚悟はできてんだろうなあ? タアアレスウウ!!」ビキビキビキ

ターレス「お生憎様。こっちはドラゴンボールの在りかが分かつたんだ。わざわざごめえの相手をしてやる理由はねえ。逃げさせてもらうぜ。」バシユウウウ

ラディッツ「にいがあすうかあああ!!!」バシユウウウ

ターレス「はっ! 掛つたな! メテオバースト!!」グオオオオオン!!

ラディッツ「しまった!」キキツ

ドガアアアアアアン!!

ヒユウウウウ・・・ドガアアン・・・

ターレス「・・・つたく、ビビらせやがって・・・早くスラッグの旦那に報告しねえとな・・・。」

バシユウウウウウ

——最長老の家——

最長老「ようこそ・・・サイヤ人に地球人、そしてカタツツの子孫よ。まず、我が子らを助けていただいた礼を言いたい。ありがとう。」

悟空「気にすんなって! 困った時はお互い様だ。それに美味しい飯を食わせてもらっ
たしな!」

ピッコロ「おい、のんびりあいさつしている暇はないぞ。何時スラッグが攻めてくるか分からんのだからな。」

悟飯「ドラゴンボールは全てここにあるんですよね?」

ネイル「いや、収穫が遅れたドラゴンボールが一つある。だが、お前達の仲間が知ら

せてくれたおかげで敵の手を逃れ、今こちらに運んでいる最中だ。」

ヤムチャ「ならひとまず安心か・・・それじゃあ敵が来る前に作戦でも考えるか。どうやらスラッグ以外にもターレスって奴がいるみたいだからな。このまま戦っても勝ち目は薄いぜ?」

最長老「それならば、私があなた方の眠っている力を呼び覚まして差し上げましょう。そうすれば、戦いも有利になることでしよう。」

ピッコロ「そんな事ができるのか!?!」

ネイル「最長老様だけができる秘術だ。これにより潜在能力を引き出された者は、その時点の肉体で扱える限界まで力を引き出すことができるのだ。」

最長老「そのとおりです。さあ、皆さんこちらに・・・」スツ

悟空「そんなじゃあオラから・・・」

ズツ

悟空「うっひゃー!! 力が噴き出してきたぞ!!」ゴツ

悟飯「すごいです! 気も農気も急激に上がってます!」

ピッコロ「これならば・・・」ゴクリ

最長老「では次はそちらの少年の力を引き出しましょう・・・」スツ

・・・・・・

ヤムチャ「最後は俺だな!!」ワクワク

最長老「あなたは・・・どうやら戦う為の力は限界まで達しているようですね。」

ヤムチャ「え? いやいやいや、この状況でそんな冗談よしてくださいよ! さあ、早く俺の潜在能力も引きだしてください!」アセアセ

最長老「申し訳ない。私では限界を超えた力は引き出せないのです。しかし、農業をする為の力ならば凄まじい力が眠っていらっしゃるのですが・・・どうなさいますか?」

ヤムチャ「そんなこつたろうと思つたよ!!」ドギャン!

ピツコロ「く、くくくくつ。流石だヤムチャ。サイヤ人の王に認められただけのことはある・・・」プルプル

悟空「ひゃー!! 流石だなヤムチャ! もう農業じゃおめえに勝てる気がしねえぞ!」ワクワク

悟飯「ヤムチャさん尊敬します!」キラキラ

ヤムチャ「ちくしよー!! 最長老! もうそれでいいからやつてくれ! こうなつたら圧倒的な農業力でスラッグ達をアジツサの苗床にしてやるぜえええええ!!」

最長老「それでは・・・」スツズツ

ヤムチャ「・・・ああ、感じるぞ。大地を荒らされたナメック星の怒りと悲しみが・・・

安心してくれ、超農地球人となった俺が奴らを土に還してやる。」ゴゴゴゴゴゴゴゴ

ピッコロ「また農薬キメたみたいにウザくなりやがった。」

悟空「ひやー! すっげえぶっ飛ばしてえぞ!!」ピキピキ

悟飯「まあまあ．．．あつ! 気が近づいてきます! きつとドラゴンボールを持ってきたナメック星人の方ですよ!」

ピッコロ「ならこいつは放っておいて出迎えるか。」

．．．．．

ギユウウウウウ．．．スタツ

マイーマ「はあ．．．はあ．．．ネイル様、ドラゴンボールをお持ちしました。」スツ

ネイル「よく届けてくれた。さあ早く中へ．．．」

悟空「っ!? そこから離れろー!!」

ビビビツ!!

マイーマ「かはっ．．．」

ネイル「なに!？」

ピッコロ「気を付けろ! まだ来るぞ!!」

バシユバシユバシユバシユバシユバシユツ!!

悟飯「くっ．．．ナメック星人の人を助けないといけないのに．．．」

ヤムチャ「ここは俺に任せろ。農家振振拳！」のうかしんしんけんブン
ズアオ!!

ピッコロ「馬鹿な!? 鍬を振った風圧であの気弾の雨をかき消しやがった!」

ネイル「超農地球人は空さえも耕すというのかっ」ゴクリ

悟飯「そんなことより早く助けないと!」ダツ

悟空「そうだった! おい、しつかりしろ!!」

マイーマ「・・・ド、ドラゴンボールが・・・ゴホッ、ゲホッ」

悟飯「え?・・・あつ!? ドラゴンボールがありません!」

ネイル「なんだと!? まさか・・・」

スラッグ「ふっふっふっ・・・探し物はこれかね?」スツ

ピッコロ「貴様はスラッグ! ドラゴンボールからその汚い手を離せ!」ダツ

ターレス「おーつと動くなよ? 動いたらその家をつぶつ飛ばすぜ?」

GMマンXS「「ギャツギャツギャツ!!」」

ピッコロ「貴様っ」ピタッ

ネイル「くっ・・・卑怯者め!!」

ターレス「ひっひっひっ! そりやあ最高の褒め言葉だぜ。さあ旦那、さっさとその

ドラゴンボールを食っちゃまえよ! そしてあんたの真の力を見せてくれ!!」

スラッグ「よかろう! かつて数多の銀河を支配した超魔王の力を見せてやる。」ガ
パツ

ゴクン・・・

悟飯「ああ!? ドラゴンボールが・・・」

悟空「なんて奴だ・・・あんなデツケエもんを丸呑みにしやがった!」

ヤムチャ「許せん。ナメツク星人の方々が丹精込めて育てたドラゴンボールを味わい
もせずあんな食べ方をするなんて・・・極刑に値する!!」バシユウウウ!!!

ゴキイツ!!

ヤムチャ「ぬるぽっ!」ギユルン・・・ドガアアアン!!

ピッコロ「ヤムチャしやがって・・・」

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴツ

スラッグ「ぬうううおおおおお!!! 力があ・・・高まるう! 溢れるうううう!」メ

キメキメキ

悟飯「そ、そんな・・・どんどん大きくなっていく!」ゴクリ

悟空「やべえな・・・身体が動かねえ・・・こいつ大猿になつたベジータよりずっと

強えぞ・・・!」タラリ

ターレス「ひゃーっはっはっはっ!! すげえ! すげえぞ旦那!! 耄碌ジジイの戯言かと思つてたら本当にこんな力を持つてたなんてな!! 超魔王の名は伊達じゃねえ!!」
ワクワク

スラッグ「ぐううううう!! おおおおおお!!!」ゴゴゴゴゴゴゴゴツ

ピッコロ「こんな化け物とどう戦えというのだ!? これじゃあせつかくのパワーアツブが意味を成さん!!」ガクガク

ネイル「なんとという事だ!! 奴の放つ強大な気の影響で大気が乱れている・・・このままでは異常気象の再来になるっ」

スラッグ「ふーはっはっはっはっはっはっはっはっはっはあ!! どうだあ貴様らあ? スラッグ様の力はあ? 今更後悔しても遅いぞお? 貴様ラ全員塵モノコサズ消シサツテクレルワア!!」ググググググツ

ターレス「ひゃっはー!! やっちまえ旦那あ!!」
ゴオツ!!

悟飯「っ!!」ギユツ

悟空「・・・・・・・・・・あり?・・なんだこりや? 攻撃がすり抜けたぞ

?」

ピッコロ「一体何が起きてるんだ!?」

で助かった。」

悟空「あとはターレスをぶっ飛ばすだけだな！ おっしや！ 氣い取り直していつちよやってみつかあ!!」

悟飯「そのターレスが居ない様ですが：：どうやら逃げたみたいですね。」キョロキョロ

ピッコロ「ちっ、逃げ足の速い奴め。だが、奴一人ならば恐るるに足らん。神精樹を植えられる前に探し出すぞ。」

ネイル「俺も同胞の手当てをしたら手伝おう。せつかく再生した星を滅ぼされる訳にはいかんからな。」

悟空「なら最野菜の大豆を食わせてやれよ。これならどんな傷でも一瞬で治るぞ。」
スツ

ネイル「そんなことができるのか?! 流石はサイヤ人の作った野菜だ。」

悟飯「そうなんです！ 大豆は「豆の王」ともいわれ、豆類の中でもタンパク質の含有量が最も多く、しかもアミノ酸の組み合わせが動物タンパクによく似ていることから「畑の肉」とも称される非常にすぐれた栄養食品です！ そして、そんな大豆の最野菜は最早「豆の神」といってもいいほどの代物なんです!!」ドン

ピッコロ「そうだな。数ができん仙豆より、最野菜の大豆の方がよっぽど素晴らしい

作物だ！」バーン

悟空「それに仙豆は農気で育ててもあんま変わんねえからなあ・・・」ポリポリ

悟飯「仙豆は完成された作物だから、農気の影響を受けにくいんだよ。たぶんドラゴンボールも同じだと思う。」

ネイル「ふむ・・・我々は農気を扱えないから最野菜を作ることはできないが、サイヤ人の農法は参考になりそうだ。いづれ学んでみたいものだ。」

悟空「だったらベジータに頼んでみるよ！ あいつサイヤ人の王子だからすげえ詳しいぞ！」

悟飯「そうだ！ どうせならこれを機にサイヤ人とナメック星人で交流をしたらどうですか？ そうすれば、もっと多くの人達を幸せにできる野菜ができるはずですよ！」

グツ
ネイル「そうだな。この騒動が終わったら、皆と相談するでしょう。」

—— エスカ村 ——

ラディッツ「ん・・・俺は・・・」パチリ

ベジータ「目が覚めたかラディッツ。身体はどうだ？」

ラディッツ「問題無い・・・はっ！ ターレスは!?」ガバツ
ベジータ「俺達を倒した後、最長老の家に向かったそうだ。」

ラディッツ「なんだと!?! それなら早く向かわねば!!」

ベジータ「落ち着け。先ほどナメック星人を通じて連絡があった。ドラゴンボールをひとつ奪われ、食われたそうだが、結果奴の仲間のスラッグという奴が死んだ。今はカカロット達がターレスを搜索してる。」

ラディッツ「そうか・・・なら俺達も探さねば!」

ベジータ「落ち付けといってるだろう。どうやらターレスの奴は戦闘力を隠すのが上手いようだな。スカウターでは見つけれん。だから気の感知が俺達より得意なカカロット達に搜索を任せて、俺達は奴を倒すために力を温存することにした。もどかしい事だがターレスを確実に倒すためだ。我慢しろ。」

ラディッツ「くっ・・・分かった。だが、待っている間手持無沙汰だな。」

ツムリー「だつたらアジツサ畑を戻すのを手伝ってくれないか？ 奴の所為でかなり荒れてしまった。」

ラディッツ「そういうことなら任せてくれ！ 以前のものに勝るとも劣らないアジツサ畑にしてみせよう!」

ツムリー「頼りにしているぞ。」

ベジータ「俺も手伝おう：：それにしても本当にターレスは度し難い奴だな。アジツサ畑をこんなにするとは」ギリリツ チカツ・・・チカツ・・・

ラディッツ「まったくだ！ アジツサはサイヤ人でさえ復興させるのが難しい荒廃した星すらも再生させる事ができる奇跡の作物だ！ その希少性と重要性も理解せずこの仕打ち！ 今度会ったら産まれてきた事を後悔させてやる!!」ビキビキビキツ チカツ・・・チカツ・・・

ツムリー「アジツサの為に怒ってくれるのは嬉しいが、その辺にしておけ。怒るというのは存外体力を使う。今ここで怒って無駄に消耗するより、奴と闘う時の為に取っておいた方がいいんじゃないか？」

ラディッツ「それもそうだな。この怒りを腹の底に溜めに溜めこんで奴にぶつけてくれるわ!!」カツ

ベジータ「ああ！ 奴に焼かれたアジツサ達の怒りと悲しみを思い知らせてやる!!」ドン

ツムリー「頼んだぞ。俺達の分の怒りもぶつけてくれ。」
ラディッツ「任せろ!!」

ザワザワザワザワザワ・・・

ラディッツ「くそっ！ もうあんなに育っていやがる!!」ギユン

悟空「わりい、あんなになるまで見つけれなかった！」ギユン

ピッコロ「長年サイヤ人やフリーザの追手から逃れてきただけの事はあるが、ここまではっ！」ギユン

ベジータ「無駄口を叩くな!! 実が生っている状態ならまだ間に合う！ 奴が全ての実をもぎ取る前に神精樹を消滅させるんだ!!」ギユン

悟飯「そうすれば吸い取られた生命力が星に戻るんですね！ 絶対に取り戻してみせます!!」ギユン

ギユウウウウウ・・・キキツ

ターレス「おやあ？ 遅かったじゃねえか。神精樹の実は既に頂いてるぜ。」クチャクチャ

ラディッツ「ターレス、貴様っ・・・な!? ヤムチャ!?!」

ヤムチャ「・・・」

ターレス「ああ、こいつか？ こいつは無謀にも俺に戦いを挑んできてな。なかなかしぶとかったがこの通りだ。」ゲシッ

悟空「やめろ！ ヤムチャから足を離せ!!」

ターレス「くつくつくつ。分かったよ．．．フン!!」ダン!!
グシヤツ

悟飯「あ．．．ヤムチャ．．．さん？」

ピッコロ「貴様．．．なんといいことをつ」ギリツ

ターレス「ひーひっひっひっひっ!! 悪いな!! 間違えて踏みつぶしちゃったぜ!!
見ろよ! まるで潰れた神精樹の実みてえだ!!」

悟空「ゆ．．．ゆるさんぞ．．．」ガクガク チカツ．．．チカツ．．．

ラディッツ「よ．．．よくも．．．よくも．．．」ピキピキ チカツ．．．チカツ．．．

ベジータ「俺は．．．俺達はっ」ブルブル チカツ．．．チカツ．．．

プチン．．．ゾワツ

悟空

ラディッツ「俺達は怒ったぞー!!!」

ベジータ

ゴツ

ターレス「な!? なんなんだ!? なんなんだこれは!?」ビリビリビリ

超悟空「俺達は大地を愛し、野菜を愛するサイヤ人．．．」シユイシユイシユイシユイ．．．
超ラディッツ「そして、アジツサと友の死による激しい怒りによつて目覚めた伝説の

戦士・・・」シユイシユイシユイシユイ・・・

超ベジータ「そう、俺達が超サイヤ人だ!!」バチバチバチバチツ カツ!!

ターレス「そんな馬鹿な!?・・・い、いや関係ねえ!! 俺は神精樹の実をたらふく食ってパワーアップしたんだ! 超サイヤ人だろうと敵じゃねえ!! まとめて捻り潰してやるっ!!」ググツ

超ラディッツ「どこを見ている?」ガツ!!

ドゴオオオ!!

ターレス「がはっ・・・」ヒュン・・・

ピッコロ「なんとというスピードだ!? まったく目で追えなかった!」

超悟空「これは貴様に襲われたナメック星人の分!!」ドゴオオオオオオオオオン!!

ターレス「くっ!」

超ベジータ「これは貴様に焼き払われたアジツサの分!!」バギイイイイイインツ!!!

ターレス「ぐ・・・がが・・・!!」

超ラディッツ「そしてこれは貴様に殺されたヤムチャの分!!」ドグシヤ

ターレス「あっ・・・かはあっ・・・!」

超悟空「そして・・・」シウウウウ・・・

超ラディッツ「これが・・・」ビギビギビギ・・・

超ベジータ「俺達の・・・」バチバチバチ・・・

超悟空

超ラディッツ「怒りだー!!!」バツ

超ベジータ

ドオオオオオオオオオオオオオオオオオオン!!!!

悟飯「す、すごい！ 神精樹の実でパワーアップしたターレスが手も足もでませんでした!!」

ピッコロ「これが超サイヤ人・・・とんでもない連中だな・・・」ゴクリ

超ベジータ「・・・出て来いターレス。まだ生きているのはわかってるぞ。」

超悟空「超サイヤ人になった俺らに貴様の隠遁は通用しない。」

ガラツ・・・

ターレス「はあ・・・はあ・・・まだだ・・・まだ終わらねえぞ・・・貴様らにツフルの力を見せてやる」カチツ：ピピピピピツ：

超ラディッツ「何時こちらに!」

Gフリーザ「たつた今来たところです。そしてたら星が荒れ、神精樹が生えていたのだから驚きましたよ・・・どうやら原因はそこのお猿さんの様ですね。」ギロツ

超ベジータ「そのとおりです。恐らくフリーザ様を襲った連中もこのターレスの差し金でしょう。」

Gフリーザ「なんと! これがあのだターレスですか・・・まさかこれほどの力を持っていたとは驚きです。逃げ足と悪知恵だけの小猿ではなかつたのですね。」

大猿ターレス「ふ、フリーザ・・・なぜ!・・・神精樹の実でパワーアップした魔族軍団ならいくらテメエでも!!!」

Gフリーザ「ええ、確かに以前までの私なら危なかつたかもしれませんがねえ。しかし、伝説のスーパー野菜でパワーアップした私の敵ではありません。全員ミンチにして有機肥料になっていただきました。」ゴゴゴゴゴゴゴツ

大猿ターレス「嘘だ・・・こんなことありえない・・・」

Gフリーザ「さて、質問はそれで終わりですね。それではそろそろ神精樹諸共消えていただきますでしょうか。」バチバチバチバチツ・・・

大猿ターレス「あ・・・ああ!!」ガクガク

Gフリーザ「それではさようなら。来世では良い子に生まれるんですよ。」スツ

ゴゴゴゴゴゴゴゴツ・・・

カツ・・・

ドオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオン
!!!!

超悟空「すげえ・・・」

超ラディッツ「これがフリーザ様の力・・・神精樹が消え去りやがった・・・」

超ベジータ「これで終わりか・・・お疲れ様ですフリーザ様。」

Gフリーザ「ほっほっほっほっ！ 星を傷つけない様に加減するのが大変でしたよ。」
スタツ

悟飯「お父さん達もフリーザさんもすごかったです!!」

ピッコロ「おかげでナメック星は救われた。ナメック星人を代表して礼を言う。」

Gフリーザ「いえいえ、当然の事をしたままでですよ・・・ほらごらんさい。神精樹に吸われた生命力が星に帰っていきます。」

ラディッツ「これは・・・」

ベジータ「なんと美しいんだ・・・まるで光が雪のように降り注いでいるようだ・・・」

悟空「これでナメック星も元に戻るんだ・・・」

悟飯「でもヤムチャさんは死んでしまいました・・・サイバイマンとの喧嘩で一度死

んでしまっているのでドラゴンボールで生き返らせる事もできません。」グスツ

ピッコロ「そうだったな・・・くつ、ヤムチャの馬鹿野郎！ サイバイマンに堅焼きそばを奪われたくらいで喧嘩を売るからこんな事になるのだ！」

ヤムチャ「そんなこと言われても、あいつは俺が楽しみにしてた昼飯の堅焼きそばを食いやがったんだぞ?! 食い物の恨みを思い知らせてやろうとするのは当然だろう？」

—

ピッコロ「それで返り討ちにあつて死んでいては意味がないだろう!・・・つて何!」
ギョギョツ

ラディッツ「ヤムチャ!?! 何故貴様が!?!」

悟空「まさか化けて出やがったのか!?!」

ベジータ「きつとターレスを止められなかった事が無念で出てきたんだな・・・安心しろ、ターレスはフリーザ様が倒してくれた。」

悟飯「そうです。だから安心して成仏してください。」

ヤムチャ「いやいやいや!! ちゃんと生きてるから!! ほら! 足もちやんとあるし、頭の上に輪つかも無いし!!」アセアセ

ラディッツ「そういえば確かに・・・ではターレスに殺されたヤムチャは一体?」

ヤムチャ「あれは四身の拳ならぬ二身の拳で作った分身だ。ターレスに戦いを挑む前

に正気に戻ったから分身して奴の隙を窺っていたのさ!」ドヤア

ピッコロ「そうだったか驚かせやがって! . . . だがだつたらなぜ今まで隠れていた? 分身を戦わせている間に俺達に知らせる事も出来たはずだ。」

ヤムチャ「え!?! . . . いやあく、それはだなあ . . .」キョドキョド

ベジータ「. . . まさかとは思うが、ビビって動けなかつたとかじゃないだろうな?」
ジトツ

ヤムチャ「はははははは! そんなまさか! このヤムチャ様がターレス如きにビビるわけ無いだろう!」ダラダラ . . .

ラディッツ「ヤムチャ . . . お前という奴は . . .」ハア

悟飯「やつぱりヤムチャさんはヤムチャさんでしたね . . .」ハア

悟空「ヤムチャ、オラ、農業以外はオメエに負ける気がしねえぞ!!」www

Gフリーザ「なんだかよく分かりませんが、愉快な方ですなあ。」ホツホツホツ

ヤムチャ「ちくしょー!! どうせ俺は農業だけが取り柄の男だよ!! . . . つて、あれは!?!」

ベジータ「どうしたヤムチャ?」

ガラッ

ターレス「. . . う . . . あ . . .」ピクツ ピクツ

ラディッツ「あれはターレス!? まさかフリーザ様のデスボールを食らって生きてやがるとは……」

ピッコロ「まるでゴキブリの様な生命力だな……よし、今度こそ息の根を止めてやる!」ザッ

ヤムチャ「待つてくれピッコロ。」ガシッ

ピッコロ「何故止めるヤムチャ!? 奴を生かしたところで改心するとは思えん。宇宙の為にもここで殺すべきだ!」

ヤムチャ「ちよつと俺に考えがあるんだ。それを試してからでも遅く無いんじゃないか?」

—— エスカ村 ——

Sドドリア「よーし! 次はこつちの家を直すぞ! ついてこいターレス!!」

アジツサターレス「はい! ドドリアさん!」キラキラ

ピッコロ「……まさかあのターレスがあんなに変わるとは……貴様の話を聞いた

時は耳を疑ったが試してみても正解だったな。」

ヤムチャ「だろ？ 超農地球人になつてから作物を見ただけでその特性がなんとなく分かるようになってな。それで思いついた。」

Gフリーザ「本当に驚きです。まさかアジツサにあんな効果まであったとは・・・これを活用すれば凶悪犯罪者も更生させる事ができますね。」

Bザーボン「しかし、あの姿は美しくありませんね。傍から見るとアホにしか見えません。」シユバツ

ラディイツ「そりや頭からアジツサ生やしてりや誰だつてそう思うだろう。」

悟飯「アジツサの浄化作用。まさかそれが生物にまで効果があるだなんて思いもしませんでした。」

ベジータ「だからと言つて植物を頭に植えるだなんて発想どうやったら出るというんだ。正気とは思えん。」

ヤムチャ「いやまあ、アレを思いついたのは覚醒してラリつてた時だし・・・」ポリ
ポリ

悟空「まあなんにせよ、あのアジツサは漬物にしても食いたくねえけどな！」

ベジータ「確かに。あれは腹を壊しそうだ。」

ヒュウウウン・・・スタツ

ピッコロ「うん？ ネイルか。早かったな。用事は済んだのか？」

ネイル「ああ、最長老と長老達が集つての報告は終わった。今は今後の事について話し合っているところだ。」

ベジータ「今後の事というとサイヤ人との交流とフリーザ様との交渉か。」

ネイル「そうだ。ナメック星人は異常気象の後に外界との交流を絶つたが、ドラゴンボールの存在が知られてしまった今、我々だけでこれを守っていく事は難しい。それにアジツサを必要とする人々が宇宙にいると分かったからな。これからは我らの知識と技術を多くの星々の為に使っていきたい。」

Gフリーザ「そのためなら私も協力を惜しみませんよ。共に宇宙の食の安全とドラゴンボールを守っていきましょう。」

ベジータ「もちろんサイヤ人も協力するぞ！ サイヤ人とナメック星人は最早盟友だ！ 力を合わせて荒れ果てた星々を再生させよう！」

ネイル「ああ！ これからよろしく頼む！」

ベジータ「……ところでさつきから気になっていたんだが、貴様が持っているのは……ネイル「そうだ。ドラゴンボールだ。今回の礼として皆に食べてもらおうと思つてな。」

Gフリーザ「よろしいのですか!?!」ガバツ

ネイル「もちろんだ。といつても質が良い、種が4つ以下のドラゴンボールは神々に

献上しなければならぬから、質があまり良くない6つ種の物になってしまおうが・・・」

Gフリーザ「いえいえ！ 食べさせていただけのだけありがたいですよ！」ワクワク

Bザーボン「長年の夢が叶いましたねフリーザ様！」ズアツ

Gフリーザ「ええ！ もういつ死んでもかまわないくらいです!!」ゴクリ

ベジータ「滅多な事を言わないでくださいフリーザ様！」

悟空「でもフリーザの仲間も合わせたらほとんど食べなくなっちゃうぞ。」グッ

悟飯「均等に分けても一口で終わっちゃうね。でも食べさせてもらえるだけでもラッ

キーなんだからそれで我慢しなきゃ。」

ラディッツ「それにあまり食い過ぎるとドラゴンボールの効能で若返ってガキになっ

てしまう可能性があるからな。一口分で十分だ。」

ピッコロ「そうだな。俺も下手したら卵に戻っちゃう。」

ヤムチャ「そういえばお前ってまだ9年くらいしか生きてなかったんだったな・・・

まったくそう見えないから忘れてたけど。」

ネイル「よし、それでは切り分けるぞ。そして、ナメック星人の至宝をじっくりと味

わつてくれ!!」

一同「おー!!!」

—こうしてナメック星のドラゴンボールを巡る騒動は終わりを迎えた。この騒動を機にナメック星人は外界との交流を再開し、サイヤ人とフリーザの協力を得ながら荒廃した星々の再生に尽力する事になる。またアジツサを使った悪人更生法がフリーザの手によって広げられ、全宇宙で犯罪者の社会復帰率が急激に高まり、その発案者であるヤムチャの名が全宇宙に知れ渡る事になるのはまた別のお話—

Gフリーザ「溢れ出よるわっ!!」ドバアアン!!

Bザーボン「舌がっ! 躰がっ! 反応しちゃうっ!!」ビリビリ

Sドドリア「めばえっ」

ヤムチャ「なんなんだあいつら、気持ち悪い・・・」

悟飯「あそこだけ別漫画になってます。」

ピッコロ「悟飯見るんじゃない。頭が腐る。」

ネイル「御粗末ッ!!」ビツ!

第1部完！

第2部

ラディッツ 「カカロット達が帰ってくるまで後3時間か・・・」

ギニュー 「確か、ヤムチャ君の結婚式の後にそのまま惑星ベジータに残ったのだったか？」

ラディッツ 「ああ、親父とお袋が引きとめてな。悟飯も一緒に残っているいろいろ教え込まれたようだ。」

ギニュー 「バーダック君達からすれば長らく会っていないかった息子と初めての孫だからな。構ってやりたくてしようがないのだろう。」

ラディッツ 「特にお袋が二人を離そうとしなくてな。おかげでチチにどやされたが最後は納得してくれたよ。」

ギニュー 「ふむ・・・君は残らなくて良かったのかね？ しばらく帰っていないかったのだろう？」

ラディッツ「俺はこっちで会社を立ち上げなくてはならなかったからな。それに弟のカカロットが結婚して息子まで作っていたものだから、俺はまだなのかという視線が痛いのはなんの・・・」ポリポリ

ギニュー「はっはっはっ！ 長男は大変だな！ で、実際のところどうなんだい？

君ほどの男なら引く手数多だろう？」

ラディッツ「これまで農業一辺倒でずつと星々を渡り歩いてきたからな。そういう浮いた話は無い。それにどうせ嫁にするなら強くて丈夫な女が良い。」

ギニュー「それは随分ハードルが高いな。超サイヤ人となった君に認められる女性がこの宇宙にどれだけいる事か・・・」

ラディッツ「まあ、そんなもんでしばらく結婚は無理そうだ。それに事業も軌道に乗り、今が一番忙しい時期だ。そんな事を考えている暇はない。」

ギニュー「確かに地球の食品・飲食業界に革命を引き起こしたルートベジタブルフアームの社長である君にはそんな暇も無いか・・・」

ラディッツ「ここまで急成長できたのはギニュー隊長を初めとしたギニュー特選隊の力があってこそだ。アンタ達の指導のおかげで高品質の乳製品と食肉を生産することができるようになった。改めて礼を言わせてもらおう。」

ギニュー「いいってことさ！ 我々も君にアジツサの飼料を教えてもらったからね！

あれは素晴らしい！ アジツサの飼料を食べさせた家畜達はとても良い乳を出すし、肉も旨くなる！ アジツサのおかげで我々の酪農は新たな境地に達したのだよ!!」バババツ

ラディッツ「アンタにそう言ってもらえると俺も教えた甲斐があるというものだ。」
ピピピツ！

ギニユー「む！ もうこんな時間か！ すまないラディッツ君。私はそろそろ出発の準備をしなくてはならない。次の星の開拓があるからね！」スバツ

ラディッツ「こちらとしてはもつといういろいろ教えてもらいたかったんだがな・・・」
ギニユー「なに大丈夫さ！ 指導した地球人達は我々の技術を完璧にマスターし、もうどこに出しても恥ずかしく無い酪農戦士となった！ 惜しくらむは彼らのスペシャルファームングポーズの完成を見届けられない事だ。」シユババツ

ラディッツ「うちの従業員に何仕込んでんだアンタ・・・」タラリ

ギニユー「何を言う！ スペシャルファームングポーズは酪農の重要なファクターなんだぞ！ これをしないとでは品質に雲泥の差が生まれるのだ!! 言わばこれは君達サイヤ人でいう農気！ スペシャルファームングポーズなくして、爆乳製品と超5ランクの肉は生まれないのだああああ!!」ズバーン！

ラディッツ「そ、そうか、すまなかつた。そういうことならしょうがないな・・・」

ギニュー「分かってくれて嬉しいよ！ では君専用のスペシャルファームングポーズを・・・」

ラディッツ「いやっ！ せっかくだが遠慮させてもらう。その様な高度な技術を短時間で覚えるのは難しいし、なにより出発の準備があるのだろうか？ 特選隊の皆を待たせては悪い。」ダラダラ

ギニュー「むう・・・残念だが確かにそうだな。君にスペシャルファームングポーズを教えるのは次の機会にしよう！ それではその時まで息災で居てくれたまえ！ さらばだ！ とう!!」ピョーン

ラディッツ「・・・あれが無ければ素直に尊敬できるんだがな。」ハア

——とある荒野——

チチ「ラディッツさ！ 悟空さと悟飯ちゃんはまだなのか!？」

ラディッツ「落ち着けチチ。先ほど地球軌道に入ったと連絡があった。あと数分もすれば到着する。」

クリリン「フリーザ様の宇宙船で来るって話だったけど、大丈夫なのか？ 国軍が出動したりしないよな？」

ベジータ「安心しろ。今回のフリーザ様の来訪は国王にも伝えられている。それにこれは将来地球が宇宙連盟に加盟する為の第一歩だ。そうそうおかしな事は起きんだろ。」

ピッコロ「それならば地球を挙げて盛大に歓迎した方がよかつたんじゃないか？」

ラディッツ「今回は視察が目的だからな。地球の生の姿を見てもらう為にも特別な事をしなくていいと言つてある。」

ベジータ「それにこれは国の上層部以外にはトップシークレットだ。だからこそ一般人に余計な混乱が起きない様にこんな誰も居ない荒野を着陸地点に選んだんだ。」

ブルマ「まあ、いきなり今日から宇宙人と交流しますなんて言われてもどうしたらいいかわからないものね。」

グオオオー

クリリン「あ！ 来た！ 悟空達が乗った宇宙船が来たぞ！」

チチ「悟空さー!! 悟飯ちゃん!! ここだここだー!!」ピョンピョン

チャオズ「天さん！ あの宇宙船すごく大きい!!」

天津飯「そうだな。聞いていたより大きいんじゃないか？」

ベジータ「あれはコルド会長のコールドポラリス号じゃないか!? まさか一緒にい

らっしゃったのか!？」

ラディッツ「どうやらあの岩山の向こうに降りるようだな。急いで向かうとしよう。」

・・・

Gフリーザ「ここが地球ですか。なるほど素晴らしい星ですね。」

ダイヤモンドコルド「そうだな。大きさは小さいが生命力に溢れている。今回の視察について来て正解だったな。」

Gフリーザ「きつと有意義な視察になると思うよ。パパ・・・ん？」

ザツ・・・

??? 「・・・」

Gフリーザ「貴方は地球人ですか？ 何か用でもあるのですか？」

??? 「お前達を殺しに来た・・・」

Gフリーザ「それは何故でしょうか？ 地球人に命を狙われる覚えはないのです

が・・・」

??? 「ツ・・・悟空さん以外は記憶に留める価値も無いというのか？」ザワツ

悟空「え？ オラがどうかしたのか？」ヒヨイ

??? 「ご、悟空さん!? どうしてフリーザ達の船から!？」

悟空「どうしてって、惑星ベジータからここまで乗せてもらったからなんだけんど・・・

オメエだれだ？」

ガク

B ザーボン「フリーザ様。周辺にポットらしきものを発見しました。どうやらこの男が乗ってきたモノの様です。」

G フリーザ「ご苦勞様ですザーボンさん。さて、それでは話していただきましょうか？」

??? 「そ、その前に一つだけ質問させてください！ 貴方は悪の帝王ではないのですか！？」

S ドドリア「テメエ・・・宇宙平和賞を3度も受賞されたフリーザ様をよりにもよつて悪の帝王だと？ 死にてえみたいだな・・・」ボキッボキッ

G フリーザ「おやめなさいドドリアさん！ さて、何故貴方が私をその様に呼ぶのかは分かりませんが、とりあえず質問に答えましょう。答えは否です。私は食を愛するしかない貿易会社の社長ですよ。」

??? 「そんな馬鹿な!? 一体どうなっているんだ!？」

クリリン「混乱しているところ悪いけど、さっさとゲロツちまった方が良いぜ？ このままで絶対死なない収束エネルギー砲を何度も喰らわされた拳句頭にアジツサ植えられるちまうぞ。」

??? 「クリリンさん・・・そうですね。本当なら悟空さんだけに話すつもりでしたが、ど

うやらここは俺が知る歴史とは違うようです。なので全て話します。俺が何者なのか、そしてなんの為にここに来たのかを……」

.....

トランクス「つまり、地球は滅亡してしまおうんです!!」

一同「「な……なんだってー!!」」

クリリン「そんな……悟空が病気で死んで、俺達全員人造人間にやられるだなんて……」
ラディッツ「しかし、話を聞く限りコイツの世界とこの世界は乖離が大きいようだぞ。
サイヤ人が戦闘民族で滅んでいたり、フリーザ様の一族が悪者で宇宙を支配していたり……ここまで違うと同じような事が起きるとは思えんのだが……」

ピッコロ「だが事が起きてしまった時の為の備えは必要だろう。」

クリリン「でもベジータでさえ敵わなかったんだろ? そんな奴ら相手に俺達があつても戦えるかどうか……」ブルルツ

天津飯「確かに……いくら俺が千手の拳と百八身の拳を編み出したとはいえ、そんな奴ら相手では分が悪いだろう。」

チャオズ「きつと僕のベクトル操作も効かない……」シユン……

クリリン「二人はまだいいさ。俺なんて仙術を身に付けただけなんだぜ？　こんなじゃ足手まといにしかならねえよ・・・」

トランクス「あ、あの・・・皆さん何を言って・・・」

チチ「そんなことより悟空さが死んでしまっつてどういいう事だ!!　冗談でも言っつて良
い事と悪い事があるぞ!!」ブンブン

トランクス「ちよ!?　チチさん揺さぶらないで!?!」ガクガク

悟飯「ウイルス性の心臓病との事ですが、治す方法、あるいは予防薬の様なモノはな
いんですか?」

トランクス「ハ、ハイ!　僕が居た世界で開発された特效薬を持つてきました。」ガク
ガク

チチ「そういう事は早く言うべき!　ほれ、さっさと出せえ!!」ブンブンブン!!

トランクス「あばばばばばばば・・・」ガクガクガクガク!!

ブルマ「はいはい落ち着きなさいチチ。それじゃあトランクスが薬を出せないわ。」

チチ「そういえばそうだったべ。」パツ

トランクス「ぎゃふん!?!」バタンツ

コロコロコロ・・・

ブルマ「ふーん。これがその薬ね。さっそく解析して量産しなくちゃ。ウイルス性な

らみんなにも移るかもしれないものね。」

ベジータ「まったく、貴様の世界の力カカロットは軟弱だな！ 最野菜を食わないからそんな事になるんだ!!」

トランクス「こつちのサイヤ人は農耕民族じゃないんですから無理を言わないでください!」

ラディッツ「なにはともあれ、その人造人間が現れるまで3年の猶予があるのだ。そこに向けて準備すればいい。」

Gフリーザ「なんでしたら私達も手伝いましょうか？」

Dコルド「そうだな。この様に素晴らしい星を滅ぼされる訳にはいかんからな。」

ベジータ「そんな！ お二人の御手を煩わせる訳にはいきません！ これは我々地球に住む者の問題！ ならば自分達の手で解決しなくては!」

ブルマ「ちよつとベジータ！ せっかく手伝ってくれるって言ってるのに何断ってるの!？ 地球の運命が掛ってるのよ!？ そこんとこ分かってるの!？」ガシツ

ラディッツ「騒ぐなブルマ。まだ人造人間が居ると確定した訳ではないだろう？ それに地球はこれから他の星々と交流して行く事になる。そうなると同様な問題も発生するだろう。貴様はその度にフリーザ様達に力を貸してもらおうつもりか？」

ブルマ「別にそんな事は言わないけど・・・」

ラディッツ「ならばこの程度の問題、俺達地球に住む者達で解決せねば。」

悟空「おう！ 地球はオラ達の星なんだ！ オラ達で守らねえと!!」

クリリン「悟空：：そうだな。ここでフリーザ様の力を借りるのは簡単だ。でも、そうしたらきつと俺達は地球人である事に誇りを持たなくなっちゃう。」

天津飯「ああ・・・ 確かに俺達は弱いかもしれない。だが、何も直接戦う事だけが地球を守る事ではない。」

チャオズ「そうだね天さん。僕達は僕達に出来る事をやろう！」

ピッコロ「悔しいが、戦闘力は超サイヤ人になれる孫達が飛び抜けている。戦いは孫達に任せて俺達はサポートに専念するでしょう。」

ベジータ「任せろ。だがやる事は他にもたくさんある。国王に報告して緊急時の避難計画の策定や避難場所の確保。人造人間の作成者であるドクター・ゲロの捜索。人手はいくらあっても足らん。」

悟飯「ドラゴンボールで居場所を探すのはどうでしょう？ 別に3年待たなくても人造人間が完成する前に倒してしまえば解決しますよ！」

悟空「何言ってるんだ悟飯！ それじゃあ強え奴と戦えねえだろ？」

チチ「悟空さこそ何言ってるだ！ それで怪我でもしたらどうすんだ!! おら皆が傷付くところは見たくねえだよ!!」

ブルマ「・・・あーもー！ 分かったわよ！ 私も私なりのやり方で地球を守るわよ！ これでいいんでしょ!？」

ベジータ「それでこそ俺の婚約者だ。頼りにしているぞブルマ。」

ワイワイガヤガヤイチャイチャ

Dコルド「ふふっ・・・フリーザよ、地球の民は頼もしいな。」

Gフリーザ「そうだねパパ。彼らならきつと大丈夫さ。」

—— 3年後 南の都の南西の島 ——

ラディッツ「ついにこの時が来たか・・・」

ベジータ「結局、ドラゴンボールでも見つける事はできなかったな・・・」

悟空「ドクター・ゲロの居場所を教えてくれって言ってもそんな奴居ねえっていうし、人造人間の居場所を聞いても違う奴が見つかったからなあ・・・」ポリポリ

ラディッツ「だが、ドクター・ゲロという人物が存在していたのは確かだ。それに人造人間もドクター・ゲロに造られたモノだった。つまり、トランクスの世界を破壊した人造人間が居てもおかしくはないということだ。」

ベジータ「ああ・・・だが、居なければ居ないでその方が良い。人造人間が暴れて農

地が荒らされては堪ったもんじやないからな。」

悟空「オラは戦ってみてえんだけどなあ。」

ラディッツ「まったくお前と言う奴は・・・」

ヒユウウン・・・スタスタツ

クリリン「ベジータ！ 島の住人の避難は終わったぞ！」

天津飯「それと偵察ロボットも放つて周囲を監視している。何かあればすぐに連絡がくるだろう。」

ベジータ「そうか、分かった。後は俺達に任せてお前達は離れていてくれ。」

クリリン「気を付けろよ？ もしもの時は助けに行くからな。」

天津飯「力は弱いが分身を配置しておいた。いざという時は盾にでもしてくれ。」

ラディッツ「助かる。」

悟空「オメエらも気を付けろよ？ 敵がそっちに行くかもしんねえからな。」

クリリン「心配すんなって！ 俺の仙術で見つからない様に隠れるからな！」

天津飯「では、頼んだぞ。」

ヒユン・・・

ラディッツ「・・・さて、あとは敵を待っただけか・・・」

ピピピツ!!

ブルマ「ベジータ、現れたわ！ 場所は街の中心部。姿は老人とデブ！ 両方男よ！」
ベジータ「本当に現れやがったか・・・ラディッツ！ カカロット！ 行くぞ!!」
ラディッツ「おう！ 跡形も無く破壊してくれるわ！」
悟空「おーし！ いっちよやってみつかあ！」
バシユウウウ

——市街地中心部——

人造人間19号「どういうことでしょう20号、人が居ません。」キョロキョロ
人造人間20号「ふむ・・・サーチシステムには複数の反応があるが、何かおかしい・・・
エネルギーが全て同値？ これはいつたい・・・む?!」

ギユウウウウ・・・スタツ スタスタツ

ベジータ「貴様らが人造人間か・・・やっとなツラが拝めたぜ。」

20号「不思議だ・・・何故我々が人造人間だと分かったのだ？ それにここに現れる事も分かっていたようだな。何故だ？ 答えてもらおう。」

ラディッツ「ふん。これから破壊される連中が知る必要は無いだろう。」

19号「大した自信ですね。ですが貴方方に勝ち目はありません。我々はソン ゴク

ウをずっと調査してきたのですから。」

悟空「オラを調査だと?」

20号「そうだ。超小型のスパイロボットを使ってな。天下一武道会の時もピッコロ大魔王の時も・・・」

ベジータ「なるほど・・・ならナメック星での戦いもスパイしていたのか?」

20号「その必要はない。我々はベジータ達が来た時点で貴様らのパワーや技を完全に把握した。その後更に腕を上げたとして、年齢から考えてそれまでの様な大幅アップは無理だという計算だ。」

ラディッツ「ならば俺らが負ける事は無いな。」

悟空「ああ。こいつらは一番肝心な事を調べ忘れちまったみてえだ。」

20号「なに?」

ベジータ「貴様らに見せてやろう。ナメック星で俺達が手にした力を!」

悟空

ラディッツ「「はあっ!!!」」

ベジータ

ゴッ!!!

19号「ありえない! 計算の50倍は超えるパワーです!」

20号「なるほど・・・かなりのパワーアップを果たしたようだな。これは早々にアレを使わねばならんか・・・」

超ラディッツ「さて人造人間達よ。せっかく戦うのだからこんな狭い場所ではなく広いところで思いつきり戦おうではないか。」

20号「・・・いいだろう。我々も全力で戦うなら広い方が良い。」

超ベジータ「ならここから南東の方角に無人の荒野がある。そこで戦うぞ。」ヒュツバシユウウウ

——とある荒野——

ギユウウウウウ・・・スタタタツ

超悟空「それじゃあ最初はオレが相手だ。いいよな二人とも?」

超ベジータ「かまわん。無様な姿を見せるなよカカロット。」

超ラディッツ「気を付けろよ。奴ら何か奥の手を持っているようだ。」

20号「さつそく孫悟空が相手か・・・好都合だ。もともと我らの標的は孫悟空、貴様なのだからな。」

超悟空「オレが狙いだと?」

20号「そうだ！ 貴様が我がレッドリボン軍を滅ぼしてからずっと貴様を殺すために研究してきた！ いかによれば孫悟空を倒す事ができるか！ そしてどうという人間なら勝てるのか！」

超ラディッツ「カカロットが昔倒したというレッドリボン軍の残党か・・・」

20号「そしてとうとう開発に成功した！ 究極のエネルギーを取り込む事で最強のパワーを発揮する人造人間を!!・・・19号！」

19号「はい、20号！」スツ

超悟空「・・・哺乳瓶？」

超ラディッツ「なんだあの緑色の液体は？ 燃料か？」

19号「チュウチュウチュウ・・・」ゴキユゴキユゴキユ・・・

カッ！

XIX号「・・・」ドドドドドドド

超ベジータ「瘦せた・・・だと？ どういうことだ。奴は人造人間ではないのか？」

20号「ふっふっふっ。19号はドクター・ゲロが造り出したもつとも完成度の高い人造人間。そして、今飲んだのは最野菜を濃縮還元した100%最野菜ジュース！ これにより19号は最強の戦闘形態へと変形するのだ!!」ドン！

超ラディッツ「ちっ、まさか最野菜の力に気づいていたとは・・・敵ながらやりやが

る。」

20号「貴様らサイヤ人には感謝しているぞ。おかげで孫悟空を殺す事ができる……

X I X号！」

X I X号「リョウカイ」グアツ

超悟空「つと」ガシッ

X I X号「ナニ!？」

超悟空「はっ!!」ドガッ

X I X号「グワッ!？」ヒュン……

ギユン……パッ

超悟空「ダダダダダダダダ……」ドガガガガガガ……

X I X号「グッ!？」ゲッ!？」ガッ!？」ドガバキゴキ……

超悟空「でやあーっ!？」ズッ

グオオオオオオ!!

X I X号「ギャー!？」

ドガアアアアアン!!!!

パラパラパラ……

ドン!……ゴロゴロ……

トランクス「すみません。もっと早く来るつもりだったんですが、時間がズレていた
ので遅れました。」

ベジータ「要件はなんだ！ 奴を追わねばならんだ。早く言え！」

トランクス「それなら安心してください。母さんが偵察ロボットで追跡してくれてい
ます。」

ラディッツ「それならひとまず安心か・・・それでどうしたんだ？」

トランクス「実は皆さんが戦っていた人造人間と俺の世界の人造人間が違うんです。」

ベジータ「なんだと!? じゃあアレの他にも人造人間が居るといふ事か!？」

トランクス「たぶんそうです・・・俺の世界の人造人間は、赤いスカーフを巻いた長
い黒髪の少年と可愛い女の子タイプ・・・金髪で少年の方とよく似た容姿で服装は俺み
たいな感じでした。それとふたりとも冷たい目と丸いイヤリングをしています。」

ラディッツ「厄介な・・・あの19号とやらを見る限り倒せない相手ではないだろう
が、3人一緒になって暴れ出したら大変な事になるぞ。」

ベジータ「それに奴らは気を持たないから探すのに時間がかかる・・・ブルマが奴の
拠点を見つけてくれる事を願うか・・・」

トランクス「そうですね・・・ところで悟空さんは大丈夫なんですか？ 胸が苦しかっ
たりしませんか？」

悟空「おう大丈夫だ！ おめえが持つてきてくれた薬を元にブルマが予防薬作ってくれたからな！ それに昨日健康診断してきたけど、医者に健康過ぎて気持ち悪いって言われちまったぜ！」タハハ・・・

ラディッツ「最野菜を毎日食べているのだ。病気などになるはずがない！」

ベジータ「そのとおりだ。サイヤ人は病気知らずの超健康的な種族だ！」

トランクス「・・・この世界のサイヤ人はいろんな意味ですごいですね・・・とりあえず悟空さんが元気でよかったです。」

ピピピッ！

ブルマ「皆聞こえる？ 人造人間の拠点を見つけたわ！ 場所は北の都の近くの山にある洞窟！ 今位置情報を送るから急いで！」

ベジータ「分かった。お前はそのまま偵察ロボットで監視を続けてくれ・・・聞こえたなお前達。」

トランクス「はい！ 人造人間が行動を起こす前に拠点ごと破壊しましょう！」グツ
ラディッツ「その前に念のため北の都に避難勧告を出してもらおう。ブルマ、連絡頼めるか？」

ブルマ「それなら大丈夫。人造人間の拠点を見つけた時点でもう連絡してるから。」
悟空「なら安心だな！ よーし！ いっちよ人造人間をぶっ飛ばしに行くかー!!」

一同「おう！」

—よく似ているが異なる世界からやって来たトランクスにより知らされた地球の危機。そして、その危機を回避する為に立ち上がった悟空達はドクター・ゲロが造り出した人造人間19号を倒すが、20号に逃げられてしまう。そこで知らされる更なる強敵。悟空達は人造人間から地球を守る事が出来るのか……—

トランクス「ところで父さんは母さんと結婚したんですか？」

ベジータ「入籍して子供も作ったが式はまだだ。人造人間の件があったからな。式はこの問題が片付いてからするつもりだ。」

トランクス「そうですか・・・良かった・・・こっちでは結婚するどころか母さんと俺を放って鍛えてばかりだったそうなので安心しました。」

ラディッツ「そっちのベジータはホントにクズだな！ 野菜を食わないからそんな事になるのだ！」

悟空「きつとすっげえチビでハゲで傲慢で永遠のナンバー2にちげえねえぞ！」

ベジータ「大丈夫だトランクス。俺は家族を大切にする。そしてお前も俺の家族だ。だから1人で抱え込まず俺を頼れ。いいな？」

トランクス「父さん・・・はいっ！」グズツ

つづく

トランクス「待っているよ人造人間・・・!!!」

ラディッツ「見えた！ 北の都だ！」ギユン

ベジータ「人造人間はまだ拠点から出ていない！ 外からまとめて破壊するぞ!!」

ギユン

ドオオオオオオン!!!!

悟空「なんだあ!? 爆発したぞ!」キキッ

トランクス「まさか自爆?・・・いやそんなはずはない! 皆さん気を付けてください!」

ヒユウウウウウン・・・ドシーン!

18号「まったく、いきなり基地を破壊するなんてどういうつもりさ? 服が汚れちゃったじゃない。」

17号「悪い悪い。クソ爺が偉そうに命令してきたからついな・・・それより早く開けてやろう。パイプやコードが切れてしまったからな。」

トランクス「あいつらです！ あいつらが俺の居た世界を破壊した人造人間です!!」
ラディッツ「あれがそうなのか・・・姿だけ見れば強そうには見えんが・・・」
ベジータ「油断はできないな。先ほどの爆発の際に感知したエネルギーは20号のそれより遥かにデカかった。」ピピピッ

悟空「ひゃー!! そんな奴らと戦えんのか！ オラ、ワクワクしてきたぞ!!」ウツキ
ウキ

カチ・・・プシュー・・・バキン!!

ザツ・・・

16号「・・・」

ラディッツ「もう一体人造人間だと？」

ベジータ「トランクス、あいつはどんな奴なんだ？」

トランクス「・・・し・・・知りません。あんな奴見た事も無い・・・」タラリ

17号「よう、16号。お前の動くところは初めて見るよ。何年かぶりで外に出られ

た気分はどうだ？」

16号「・・・」キョロキョロ

17号「ドクター・ゲロはお前を動かすのを嫌がっていた。俺たち自身の首を絞めることになりかねん・・・とね。」

18号「どういふことか知りたいわ。御意見は？」

16号「・・・」チラツ

17号「言いたくないってわけか・・・それとも無口なだけか？ まあいい、おまえももともと孫悟空を殺す為に造られたんだろ？」

16号「そうだ。」

18号「ようやく口を開いてくれたわね。ドクター・ゲロの言いなりになるのはシヤクだけど、とりあえず目標が必要なもの。」

17号「とはいえ、その目標の方から来てくれたみたいだけだな・・・」チラツ

ラディッツ「どうやら奴らはやる気のようにだ。」

ベジータ「それなら俺があの小僧をやる。ラディッツは小娘。カカロットとトランクスは大男の相手をしろ。」

トランクス「分かりました。」

ヒユウウウン・・・スタタタツ

17号「孫悟空の他にベジータにラディッツ・・・もう一人は知らないな。」

18号「別にどうでもいいじゃない。どうせ殺すんだからさ。そうでしょ16号？」

16号「孫悟空以外は殺す必要はない。」

17号「つたく・・・おまえはまじめな奴だな16号。」

ベジータ「戦いの前だというのにのんきにおしゃべりとは余裕だな貴様ら。」

17号「当然だろ。オレ達には無限のエネルギーがあるんだ。所詮有限のおまえらに負けるはずがない。」

ラディッツ「言ってくれる・・・なら無限と有限、どちらが強いか試してみるか？」グ
グツ

18号「試すまでもないと思うけどね。いいわ。最初は私がやる。誰が相手かしら
？」

ラディッツ「俺だ。貴様のその余裕の面を崩してやる！」ゴツ

18号「・・・姿が変わってパワーが上がった？・・・まあいいわ。やる事は変わら
ない。」スツ

シャツ

超ラディッツ「・・・」ガツ

ブンツ ガツ

バツ ババババツ

18号「・・・」バゴツ

超ラディッツ「・・・」ガツ

ブンツ!・・・ドガン!

超ラディッツ「・・・」ギユン

18号「・・・」シユン

ガツ・・・バキツ!!

超ラディッツ「・・・」スタツ

18号「・・・」スタツ

17号「へえ・・・やるじゃないか。ドクター・ゲロに聞いていた以上だ。」

超ラディッツ「・・・なるほど、19号とは格が違うな。奴が相手なら既に5回は破壊している。」

18号「当然よ。19号がどんな奴かは知らないけど、所詮ドクター・ゲロの言う事を聞くようにデチエーンされた奴でしょ? そんな奴と一緒にされたくないわ。」

18号「・・・驚いたよ。宇宙人とはいえここまでやるなんてね。おかげで服がボロボロよ。」

超ラディッツ「・・・まさか今のを喰らってケロツとしているとはな・・・く、く・・・はっーはっはっはっはっはっはっ!!」

トランクス「ラディッツさん!」ギョツ

17号「なんだ? あまりの力の差に気が狂っちゃまったのか?」

超ラディッツ「はっはっはっ・・・決めたぞ。貴様を俺の嫁にする。」キリツ
18号「・・・え?」

ベジータ「え?」

トランクス「え?」

17号「え?」

一同「「え!?!」」

18号「い、いきなり何言いだすのさ! 本当に気が狂っちゃまったのかい!」オロオ

口

超ラディッツ「気など狂ってはいない。ただ、純粋に貴様を嫁にしたいと思ったただけだ。」

18号「なあっ!?」カア・・・

17号「ははははははっ!! 良かったじゃないか18号! お前みたいなじやじや馬を貰つてくれる奴なんて他にいないぞ。その話、受けてやれよ!」ニヤニヤ

16号「孫悟空で無いのなら祝福する。幸せにな18号。」ニッコリ

18号「馬鹿言うんじゃないよあんた達! なんで私がこんな貧乏臭い奴の嫁にならなきゃいけないのさ! ふざけるのも大概にしまっ!」ガー!!

悟空「兄ちゃんも貧乏じゃないぞ? この間、長者番付で10位になってたからな!」ベジータ「フリーザ様からも経営について学んでいたからな。あと数年もすればカプセルコーポレーションも抜き去る勢いだ。」

18号「・・・・・・・・わ、私より弱い奴なんて御免だねっ!」キツ

17号「18号・・・今結構揺れただろ?」

18号「そんなわけ無いだろ馬鹿!!」

超ラディッツ「・・・・・・・・なら貴様より強くなればいいんだな?」

18号「ふん！ 絶っ対に無理だろうけどね！」

トランクス「一体何が起こっているんだ？ 頭がどうにかなりそうだ……」グルグル

18号「興奮めだ！ 行くよ17号、16号！」スタスタ

17号「おい勝手に決めるなよ18号！ 16号もなんとか言つてやれ！ お前は孫悟空を殺したいんだろ！」

16号「確かに私の目的は孫悟空を殺す事だ。だがそれは今でなくてもいい。」

17号「……しょうがないな。分かったよ。今日はここまでだ。」ザツ

トランクス「待て！ 逃がさないぞ人造人間!!」カチャツ……

17号「止めておけよ。さっきので分かっただろう。俺達の方が圧倒的に強いってことがさ。」

トランクス「くっ……」

17号「だから強くなつて来いよ。最低でも互角ぐらいじゃなきゃつまらない。ヌルゲーは趣味じゃないんでね。」

ベジータ「どういうつもりだ？」

17号「別に？ 深い意味はないさ。俺達が孫悟空を狙うのはそれ以外にやる事がないからだし、やるならトコトン楽しみたいんでね。だからせいぜい強くなつてくれよ。」

ヒュン・・・

16号「孫悟空。次会う時は貴様を殺す。」ヒュン・・・

悟空「おう！ それまでに強くなっからな！ ぜってえに負けねえぞ!!」グツ

バシユウウウウ

トランクス「くそっ・・・まさかラディッツさんでさえ敵わないだなんて・・・奴らが暴れ出したらどうすれば・・・」

悟空「それなんだけだよ・・・あいつらたぶんそんなことしねえと思うぞ？」

トランクス「なにを言ってるんですか悟空さん！ あいつらは俺の居た世界を破壊しつくしたんですよ!？」

ベジータ「それはあくまでお前の世界の人造人間だろう。俺やフリーザ様の様に根本から違う可能性もある。」

トランクス「それは・・・そうですが・・・」

悟空「大丈夫だって！ あいつらからは悪い感じはしなかったからな！ それにラディッツが嫁にしてえって言うくらいだ。だから悪い奴らじゃねえさ!」

ベジータ「確かに・・・ラディッツの人を見る目は大分養われてきたからな。そのラディッツが認めたらなら問題ないだろう。」

トランクス「・・・お二人がそういうならとりあえず納得します。ただし偵察ロボッ

トでの監視はつづけますからね！」

ベジータ「それは当然だな。だがあまり近すぎて奴らの癩に障って暴れられたら厄介だ。なるべく遠くから監視するようにしよう。」

トランクス「分かりました……あれ？　　そういえばラディッツさんは？」キョロキョロ

悟空「そういえばいねえな。どこいったんだ？」キョロキョロ

.....

ラディッツ「待て、お前達。」ヒュン……

18号「弱い奴はお呼びじゃないって言ってるだろ！　さつさと修行でもなんでもしなきゃ！！」

ラディッツ「いや、貴様らは金を持っていないだろうと思つてな。3000万ゼニが入ったカードだ。持っていけ。」スッ

18号「……」キュン

17号「チョロ過ぎだろ18号……まあ、貰えるもんは貰つとくけどさ。」

ラディッツ「そうしてくれ。だが代わりに俺達が強くなるまで大人しくしてほしい。」

18号「はっ！　なんで私達があんたの言うこと聞かなくちゃいけないのさ！」

ラディッツ「聞いてくれればもう3000万ゼニーくれてやる。」スッ

18号「まったくしやうがないね！　大人しくしといてあげるよ。ただし金が無くなるまでだからね！　分かったらさっさと強くなつてきな!!」サツ

ラディッツ「ふっ。言われるまでも無い。」ギユン

バシユウウウウ

16号「青春だな。」ニツコリ

17号「いや違うだろう!？」ビシツ

—— 神の宮殿 ——

バシユウウウウ・・・スタタタタツ

神様「来たか・・・なんだかおかしな事になつている様だな・・・」

ピッコロ「人造人間に求婚するなど何を考えているんだ！」

ラディッツ「惚れてしまったのだからしょうがないだろう。」

悟飯「おじさん変わってますね。あんな怖い女の人が好きだなんて・・・」

チャオズ「ラディッツはドM？」

ラディッツ「だれがドMだ！・・・まあ気が強い女が好きなのは認めるが・・・」

ピッコロ「本当に雌雄のある種族は面倒だな。俺には理解できん。」

ベジータ「まあ、性別がないナメック星人には分からんだろうなこの感情は・・・。」

悟空「オラも結婚したばつかの時は良く分かんなかったけど、一緒に居るうちになんかこう胸が温かくなってくんだよ。そんでずっと一緒に居てえつて思うようになるんだ。」

悟飯「分かるような分からないような・・・」

ベジータ「こういうのは言われて理解するものじゃないからな。お前もいずれ恋をすれば分かる。」

トランクス「結婚してる人が言うと言説得力ありますね。」

ラディッツ「さて、この話はここまでだ。俺達は雑談しに来た訳ではないのだからな。」

神様「精神と時の部屋だな？」

ラディッツ「ああ・・・あそこに籠つて徹底的に鍛え直す。」

ベジータ「ラディッツ、貴様まさか農行をするつもりか!？」

ピッコロ「農行だと？ それはいつたいたいなんだ？」

ベジータ「農行は、100日の間断食を行い、身体に強い負荷を与えながら不眠不休で素手で畑を耕し続ける・・・サイヤ人でも達成する事が困難な修行法だ。」

トランクス「名前は兎も角とんでもない修業ですネ・・・」タラリ

ラディッツ「こうでもしなければ18号には勝てんだろうからな。」

ミスターポポ「でも精神と時の部屋には土が無い。どうするつもりだ？」

ラディッツ「そんなもんホイホイカプセルで持ち込めばいい。それと超重力発生装置も一緒に持ち込み、一帯の重力を500倍にした上で超サイヤ人の状態で行おう。」

悟空「ひゃー！ すっげえ楽しそうだな！ 兄ちゃん、オラも一緒にいいか？」ワクワク

ラディッツ「別にかまわんが、飯が食えんのだぞ？」

悟空「う・・・そうだ！ 農行する前に食い溜めすんのはどうなんだ？」

ベジータ「それは別にかまわん。だが燃費の悪いサイヤ人では食い溜めはあまり意味を成さんがな。」

悟空「そっか・・・」

ラディッツ「別に俺に付き合う必要はないぞ？ お前はお前で修行すればいい。」

悟空「・・・いや、オラもやる。それをやれば強くなれんか？ それに兄ちゃんが大変な思いしてる横で飯なんか食えねえよ。」

ラディッツ「カカロットつ：よし分かった！ ならば共に農行を達成するぞ!!」グツ
悟空「おう!!」

・・・・・・・・・・・・・・・・

バタン・・・

トランクス「行きましたね・・・俺達はどうしましょう?」

ベジータ「俺が重力室を持っている。そこであいつらが出てくるまで修行するぞ。」

ピピピッ!

ブルマ「トランクス、聞こえる?」

トランクス「はい。どうかしたんですか母さん?」

ブルマ「実は西のイナカの人から連絡があつてね。なんでもウチのロゴが入った不思議な乗り物が見つかったんだって。」

トランクス「? 不思議な乗り物? カプセルコーポレーションの製品じゃないんですか?」

ブルマ「ところがさあ、その乗り物の型式聞いても分かんない訳。それで写真を送ってもらったら、なんとあんたのタイムマシンでさ! しかも壊れちゃつてんの!」

トランクス「え!?!・・・そ、そんなまさか・・・い、いやありますよ? 俺カプセルに戻してこうして持ってますから。」

ブルマ「ああ、やっぱり？　ちよつと苔とかがついて古っぽいと思ったのよねえ。」
トランクス「・・・とりあえずその乗り物のある場所を教えてください。確認しに行きます。」

ブルマ「詳しくはないけど場所は西の1050地区あたりよ。」

トランクス「分かりました・・・父さんすみません。急用が来ました。」

ベジータ「構わん。重要な事なんだろう？」

トランクス「はい。なんだか胸騒ぎがするんです・・・」

悟飯「だったら僕も行きます。一緒の方が早く見つかるでしょう？」

トランクス「ありがとうございます悟飯さん。」

ブルマ「なら私も行くわ。距離もそう遠くないから。」

トランクス「いえ、母さんは待っていてください。何かあるか分かりませんから。」

ブルマ「トランクス・・・分かったわ。こっちのトランクスと一緒に待つてるからちゃんと帰ってくるのよ？」

トランクス「はい！」

悟飯「あつた！ トランクスさんありましたよー！」

トランクス「よく見つかりましたね悟飯さん！」スタツ

悟飯「でも聞いた通り壊れているみたいですね・・・」

トランクス「・・・確かにこれはタイムマシンですね・・・ッ!? そんな馬鹿な!？」

悟飯「どうしたんですか？」

トランクス「これを見てください・・・」ザツザツ

悟飯「Hope？」

トランクス「これは俺が出発の時に書いたものです・・・」

悟飯「で、でも・・・こつちに来て随分経っているみたいですけど・・・」

トランクス「・・・とりあえず、中を見てみましょう。」フワツ

悟飯「・・・この穴、変ですよね・・・高熱で溶けた様な・・・それに中からあけた

穴ですよ？」

トランクス「・・・とにかく開けてみましょう。」

カチャ・・・プシュー・・・

トランクス「・・・？　なんだこれは？　木の実の殻？・・・いや卵か？」

悟飯「だとしたら、この穴をあけたのはその卵から生まれた何か？」ゴクリ

トランクス「・・・エネルギー残量はゼロ・・・やってきたのは・・・エイジ788!?・・・俺がやってきた時代より更に3年後!」タラリ

悟飯「え・・・!」

トランクス「こ・・・この時代にやってきたのは・・・今から・・・や、約4年前・・・」
悟飯「それじゃあこの卵の中身はトランクスさんが来る1年前には来てた?・・・いつたい何のために・・・」ゴクリ

トランクス「・・・うん? あれは・・・」シユン

悟飯「どうしたんですかトランクスさん?」

トランクス「これは脱け殻?・・・しかも脱皮した直後だ!」ヌチャ...

悟飯「それじゃあまさか・・・卵から産まれた奴が!」

トランクス「・・・まだ近くにいる可能性があります。探しましょう。」

——ジンジャータウン——

ギャピツギャピツギャピツギャピツ・・・

緑の怪物「くつくつくつ・・・人間が山の様に居るわあ・・・これならば大量の生体

エキスが手に入る・・・」ヒユン

ギャピツ

住民「・・・え？」

緑の怪物「こんにちはお嬢さん。さつそくだが貴様の生体エキスをいただく。」シユル・・・

住民「きゃ・・・きゃー！！！！」

シヤツ！

??? 「千枚瓦正拳!!」 シユツ

ズドオオン!!

緑の怪物「なああああにいいいい!!」ズザザザ・・・

住民「あ・・・貴方は!!」

??? 「何をしている！ 早く逃げんか!!」

住民「は、はい！ ありがとうごさいますミスター・サタン!!」タツ

緑の怪物「・・・俺の食事を邪魔するとはあ・・・貴様あ何者だあ！」

ミスター・サタン「俺の名はミスター・サタン・・・最強の地球人だ!!」ドン

緑の怪物「ミスター・サタンだとお？ そんな奴コンピューターは言っていないかつたぞ

！」

ミスター・サタン「ならばその頭にしっかりと刻み込め！ 貴様を倒す男の名をな!!」

ダッ

セル「舐めるなよ！ 俺は強者の遺伝子を組み合わせさせて生み出された最強の人造人間・セルだ！ たかが地球人がこの俺に盾突くんじゃあねええええ!!」ブンッ

ミスター・サタン「ふん！ 大蕪一本背負い!!」ガシッ

サッ・・・ドシン!!

セル「ぐはっ・・・!!」

ミスター・サタン「禾^か花^かカカト落とし！」ブン

セル「か・・・は・・・」ゴキーン!!

ミスター・サタン「価値^{じやうだん}上げ背足！ 上段^{ぼくしやう}麦掌！ 西瓜割り！ 腹下し蹴り！・・・」

セル「がっ！ ぐっ！ ごっ！ ぎいい!?」ズゴッ！ ドッ！ ズドン！ ドスン

！

ミスター・サタン「・・・大鬼瓦正拳!!」ヒュッ

ズドオオオオン!!!!

セル「ぐううわあああああ!!!?」ヒュー・・・

ドガアアアアン!!!

ミスター・サタン「ウイー!!!」ビシッ！

ガラガラガラガラッ!!

セル「ぐううぬうううう！ なあぜえだあ!? たかが地球人のきいさまがああああ!!」

ミスター・サタン「がつーはっはっはっはっ！ ワシは毎日ラディッツさんところの最野菜を食って身体を鍛えているからな！ 人造人間だか妖怪人間だか知らんがこのミスター・サタンの敵ではないわ!!」バーン

セル「最野菜だとお!」

ミスター・サタン「さあ！ 善良な一般市民を狙う怪物め！ ワシの究極の奥義を受けて消え去るがいい!!」ゴゴゴゴゴゴツ!

セル「ぐぬぬぬぬぬうう!!・・・・・・太陽拳!!!」

ピカー!!

ミスター・サタン「何!」サツ

バシユウウウ

ミスター・サタン「・・・逃がしたか。」

バシユウウウ・・・スタツ

ピッコロ「おい貴様！ あの怪物と戦っていたな！ 奴はどうした!?!」

ミスター・サタン「あ！ 貴方はラディッツさんの御友人の方ですね？ すみません

逃がしてしまいました。しかし、だいぶ手傷を追わせたのでしばらく動けないですよ

う。」

ピッコロ「そうか・・・とりあえず礼を言う。貴様のおかげでこの町は救われた。」
ミスター・サタン「いえいえ！ 世界チャンピオンとして当然の事をしたままでです！」
バシユウウウ・・・スタタツ

悟飯「ピッコロさん!!」

トランクス「神様から町が怪物に襲われたと聞きました。大丈夫ですか!？」

ピッコロ「ああ、この男のおかげで皆無事だ。」

悟飯「そうだったんですか！ ありがとうございます・・・つて、サタンさん!？」ギョツ
ミスター・サタン「おお！ 悟飯くんじゃないか！ 元気にしとつたか？」

悟飯「はい！ 毎日最野菜を食べてるから病気知らずです!」

トランクス「あの・・・悟飯さん、この人はいったい?」

悟飯「この人はサタンさんと言って、おじさんの会社がスポンサーになっている格闘家の方です。今年の天下一武道会で圧倒的な力で優勝したんですよ!」

ピッコロ「そういえばどこかで見たと思っただら天下一武道会のチャンピオンか・・・なかなかやるとは思っていたがここまでとはな・・・」

ミスター・サタン「がっはっはっは!! それもこれもラディッツさんのおかげですよ! 彼が最野菜と最高の修行環境を用意してくれたからこそ優勝できたんです!」

トランクス「そうなんですか・・・でも、どうしてラディッツさんは彼のスポンサーになったんでしょう？」

悟飯「サタンさんの善良な心とエンターテインメント性に目を付けたみたいです。サタンさんを鍛えてチャンピオンにすれば良い宣伝にもなるって。」

ミスター・サタン「しがない格闘家だったワシに目をかけてくださったラディッツさんには本当に感謝しています。これからはルートベジタブルファームの宣伝部長としても頑張っていくですよ！」グッ

ピッコロ「そうか、頑張ってくれ・・・とこの町を襲った怪物についてだが・・・」
ミスター・サタン「そうでしたな。奴は人造人間セルと名乗って町の人間を襲っていました。たしか、生体エキスがどうのと言っていましたな。」

トランクス「きつとそいつがああのかげ殻の主に違いありません・・・それにしても人造人間・・・まさかあいつもドクター・ゲロが造ったのか？」

ピッコロ「可能性は高いな・・・だがこれだけははつきりしている。奴が人間を脅かす邪悪な存在だという事だ。」

悟飯「じゃあ早く倒さないと！」

トランクス「ですがどうやって探すんですか？ そのセルというのは気を隠すのがかなり上手いようです。」

ピッコロ「それなら問題無い。神の奴がずっと監視しているからな。」

ミスター・サタン「それなら安心だな！」

神様「そのことだが、すまん見失った。」

ピッコロ「なんだと!? どういう事だ!!」

神様「奴の移動速度が早すぎる。私では捉える事ができん。」

悟飯「そんな・・・」

ピッコロ「くそつたれ! おい神! 貴様はそのままセルの搜索を続けろ! そして

トランクス! 貴様はブルマに連絡して地球瞬時警報システムを起動させるように政府に依頼させろ! 時は一刻も争う!!」

トランクス「分かりました。すぐに連絡します!」

神様「すまん・・・必ず奴を見つけ出してみせる。」

悟飯「ピッコロさん・・・僕はどうすれば・・・」

ピッコロ「お前は神殿に戻って鍛えておけ。万が一の時に戦えるようになる・・・」

悟飯「分かりました! ピッコロさんはどうするんですか?」

ピッコロ「俺は天津飯達と手分けしてセルを探す。サタン、貴様はどうする?」

ミスター・サタン「ワシは王宮に行って会見に立ち会います。そして、世界チャンピ

オンの名において全世界の人々に避難を促すのです。こういう時に世界チャンピオン

!!・・・溢れる！ 力が溢れるぞおおおお
れば！・・・待っているよ17号、18号！!!!!!!
てやる!!!!」ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ
人間のエキスを吸わずともこれさえあ
これで力を蓄え、必ずお前たちを吸収し

つづく

神【ぜ．．．絶望的だ．．．奴の成長率は異常過ぎる．．．

！】

ピッコロ「見つけたのか!?　だがどういうことだ!　人間の避難は既に終わっている!　何故奴の力が増している!」

神【奴はパオズ農場で最野菜を吸収している．．．最野菜が秘める豊富な栄養素が奴に力を与えているのだ!】

天津飯「なんてことだ!?　よりにもよって最野菜を取り込むとはっ．．．」

クリリン「どうするんだよ!?　ラディッツ達はまだ出てきてないんだろ!」

神【．．．こうなっては仕方がない。ピッコロよ、宮殿に戻ってくるのだ。神と大魔王が再びひとつになる時が来た．．．】

ピッコロ「何を言っている!　貴様が居なくなればドラゴンボールが無くなるんだぞ!」

神【たしかにそうだ。だが、ここで奴を止めるには我らが融合するしかない。】

クリリン「そんな．．．じゃあ人がいっぱい死んだ時はどうすればいいんだ!」

神「・・・作ったわたしが言うのもなんだが、死者さえ蘇らせるアレは元々宇宙の摂理に反するモノ。あまりに大きな願いを叶え続けると相応の歪みも生まれてしまう。」

天津飯「歪みか・・・考えてみれば、ノーリスクでどんな願いも叶えてくれるだなんて、そんな都合の良い話があるわけがなかったな・・・。」

神「わたしは悟空の様な高潔な心を持った者の最後の希望としてドラゴンボールを失くさずに残した。だが、もうそれ也不需要いだろう。人々は地球の危機に手を取り合っている、各々が出来る事を必死に行っている・・・そう、人が神の手から離れる時が来たのだ！」

ピッコロ「・・・分かった。ならば俺も地球の住人として出来る事をやろう。神よ、すぐに向かう。」

神「ああ、待っているぞピッコロ。」

——パオズ農場——

セル「ぶるああああ!!」

シヤクシヤクシヤクシヤク!

セル「うまい・・・うまいぞおおオオオ!! もつとだ! もつと最野菜を食べなくては・・・俺の身体が! 全細胞が! 最野菜を求めてえいるうううう!!」ゴゴゴ

バシユウウウウ・・・スタツ

ピッコロ「そこまで化け物め!!」

セル「・・・誰かと思えばピッコロ大魔王ではないか。」

ピッコロ「!? 何故その名を知っている!？」

セル「何故知っているかだと? 簡単な事よ。俺が貴様の兄弟だからだ。」

ピッコロ「兄弟・・・だと? 何を訳のわからん事を!!」

セル「くつくつくつ・・・まあ、これじゃあ分からんよなあ。よし、今の俺はさくぶる機嫌が良い。特別にこのセルについて教えてえやろう。」

ピッコロ「・・・」ゴクリ

セル「改めて、わたしの名は人造人間 “セル”。生み出したのはドクター・ゲロの使っていたコンピュータだ。」

ピッコロ「やはりドクター・ゲロか・・・」

セル「その昔ドクター・ゲロは戦闘の達人達の細胞を集め、その細胞を合成させた人造人間の研究を始めたが時間がかかり過ぎる為に途中で断念した・・・しかしコンピュー

タはその作業をそのまま休むことなく続けていた・・・そして超小型の虫型スパイロボットを使い、孫悟空やピッコロ・・・更にベジータにフリーザ、そしてその父親の細胞をも集めたのだ。」

ピッコロ「まさかそんな事が・・・」

セル「今頃コンピュータはドクター・ゲロの研究所の地下でわたしを造っているだろうよ。」

ピッコロ「・・・いいの？ そんなことまで話して。」

セル「別にこの世界のセルがどうなろうと構わん。わたしさえ存在していればそれでいいのだからなあ。」ニイ

ピッコロ「貴様・・・」

セル「さて話は以上だ。それではそろそろ始めようか。」ゴキツ

ピッコロ「最後に聞かせろ。何故貴様はわざわざこの世界にやってきたんだ!？」

セル「わたしの目的は完全体となることだ。そしてそうなるにはドクター・ゲロが造り出した17号と18号を吸収する必要がある・・・どうやったのかは知らんが私の居た未来ではトランクスに破壊されてしまっていてな。しかし、運よくトランクスがタイムマシンを持っていったのだ。そして、わたしはトランクスを殺し、タイムマシンを奪って、この時代にやってきたと言う訳だ。」

ピツコロ「そういうことだったのか・・・」

セル「さあもう質問は終わりだな？」

ピツコロ「ああ・・・質問に答えてくれてありがとうよ。その礼に貴様にいい事を教えてやろう。」

セル「なに？」

ピツコロ「俺はもうピツコロでも神でもない・・・俺は貴様を倒す者だ!!」ゴツ!!

セル「!? このパワーは・・・!」

ピツコロ「はっ!!」ズツ

グオア!!・・・ズザアア・・・

セル「ぬう・・・」グググツ・・・ムクツ

バツ・・・シュバツ

ピツコロ「ふっ!」サツ

バキツ

セル「ちイ・・・」バツ

ザクツ

ピツコロ「・・・」シャツ

ゴキイツ!!

ピツコロ「つ・・・」バツ

ギユオオオオオオオオ!!!

ピツコロ「こ、これは・・・吸いこまれるっ!」ズザザザ・・・

ヒュン・・・ヒュン・・・ゴキユンゴキユンゴキユン・・・

ピツコロ「なっ!?! 周りの最野菜を吸いこんでいるのか!?!・・・させん!

超爆裂魔

波あああ!!!」ダンツ

カツ・・・ズゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ!!!

!!!!!!

ピツコロ「・・・どうだ?」ハアハア

ゴツ!!!!

ピツコロ「っ!?!」サツ

ギヤピツギヤピツギヤピツギヤピツ・・・

ギヤピツ!

セル（健康体）「最野菜が無ければ即死だったぞ。」

ピツコロ「貴様・・・その姿はっ!?!」

セル（健康体）「どうやら大量の最野菜を取り込んだ事により進化したようだな・・・

ふはははははっ! 身体が驚くほど軽いぞお!」

ピツコロ「くそつたれええ!!」ギユン!

セル(健康体)「どこを見ている?」シユン!

グルグルグルグル!

ピツコロ「ぐう!?! 早いッ」ググググッ

セル(健康体)「無駄だ。わたしの尻尾からは逃れられん。それでは貴様の生体エキス
をいただくとするうかあ・・・」

ドスッ

ピツコロ「がつ・・・ああああああああ!!」ドクンドクンドクン・・・

セル(健康体)「ッ!?!」バツ

ピコツロ「はっ・・・な、なんだ? 何故離れたんだ・・・?」ゼエゼエ・・・

セル(健康体)「・・・不味い! なんと不味いエキスなんだああ!!」ピキピキピキ

ピコツロ「・・・え?」

セル(健康体)「まさか生体エキスがこんなにも不味いとは思わんかったぞお!! ダメ
だ、これでは生体エキスでパワーアップできん! 最野菜だ! 最野菜を探さね

ばあああああ!!!」ギユン

バシユウウウ

!!

ピッコロ「ええ……(困惑)」

——ドクター・ゲロ研究所——

クリリン「ピッコロの話だとここに地下研究所があるはずなんだけど……」キョロ
キョロ

トランクス「クリリンさん、ありました。たぶんここですよ！」

クリリン「おっ！ほんとだ！さっそく降りてみよう。」

ヒュウウウ……スタタツ

???'「おやあ……まさかこんなところに客人がくるとはなあ。」

クリリン「っ！誰だ!？」バツ

キュピツキュピツキュピツ……

トランクス「子供？……いやまさかセルか!？」

セル「なあんだ。君達はボクのことを知っているのかあ。でもどうして知ってるのかなあ？ボクのごとはドクター・ゲロしか知らないはずなんだけどなあ……」コテン
トランクス「貴様がそれを知る必要はない。貴様はこれから死ぬんだからな！」カ

チャ・・・

セル「おっと、待った待ったあ！ 別にボクは君たち人間を害しようとは思ってないよお！ ボクの興味は農業だけだあ！」

クリリン「農業？・・・あつ、そうか！ このセルは農耕民族のサイヤ人の細胞を持つてるから農業に興味があるのか！」ポン

トランクス「だからといって敵じゃないとはいえませんが。今も俺達から生体エキスを吸おうとしているのかも・・・」キツ

セル「そんなことしないよお！ ボクにはそんな能力無いし、そもそも戦闘力さえないんだから！」ブンブン

クリリン「そうなのか？・・・じゃあちよつと頭を触らせてくれよ。俺の仙術ならお前が力を隠していても触れれば探る事ができるからな。」

セル「どうぞどうぞ。それで疑いが晴れるなら。」

クリリン「それじゃあ・・・」スツ

トランクス「・・・どうですかクリリンさん。」

クリリン「・・・こいつの言うとおりで。こいつには戦闘力がほとんどない。代わりにすごい農業力を持つてるみたいだ。」

セル「当然さあ！ ボクはサイヤ人のエリートである孫悟空にラディッツ、ベジータ

の細胞を持つてるからね！」

トランクス「・・・分かった。お前を信じよう。」

セル「ありがとう！ それじゃ改めて自己紹介をしよう。ボクは大地と野菜と平和を愛する人造人間「セル」。ドクター・ゲロのコンピュータの誤動作によつて生み出された存在さあ！」

トランクス「誤動作？」

セル「うん。ちよつと前なんだけど、上の研究所が大爆発しちやつてねえ。その衝撃でコンピュータが壊れちやつたみたいなんだ。そしてその壊れたコンピュータが合成中の細胞から悪の因子を排除して急成長させた結果生まれたのがボク・・・『完璧体』セルなのさ！」

クリリン「完璧体か・・・あいつとはある意味真逆の存在なんだな・・・」

セル（完璧体）「それじゃあ次は君達の番だよ。君達の事、そして何故ボクの事を知っていたのか教えてよ。」

・・・・・・

セル（完璧体）「・・・つまり、君の世界のセルがこの世界の17号と18号を吸収

して完全体になる為にやってきたんだね。」

トランクス「そうです。そして今、俺の世界のセルは力を蓄えるために最野菜を取り込んで進化を続けています。このままではそう遠くないうちに17号と18号を吸収する為に現れるでしょう。」

セル（完善体）「それは困ったねえ。今のままでも危険なのにこれ以上強くなったらまああずい。」

クリリン「なあ、おまえもセルなら何か弱点とか知らないか？」

セル（完善体）「そおうだねえ・・・もしかしたらナメック星人の弱点である口笛が効くかもしれない。」

トランクス「口笛か・・・でもそれだけでは決定力に欠けますね。」

セル（完善体）「あとはそうだなあ・・・なんとかして取り込んだモノを吐き出させるとか・・・」

クリリン「なんとかって・・・」

セル（完善体）「しようがないだろお。コンピュータが壊れてなければ聞けたかもしれないけど、ボクが完成した時点で完全に壊れてしまったんだあ。まあ、データだけなら残っているかもしれないけど・・・」

トランクス「ならコンピュータを持って帰りましょう。母さんに協力してもらえば

データが壊れていても復元できるかもしれない。」

セル（完善体）「ならボクも一緒に行こう。何かの役に立てるかもしれないからねえ。」
クリリン「いいのか？」

セル（完善体）「もちろんさあ。言っただろう、ボクは平和を愛するつて。今の状態じゃおちおち農業もできないし、異世界のセルは最野菜を盗んでるんだろう？ これはなんとしてもお仕置きしなくちゃねえ……。」ピキピキ

クリリン「ははは……そういうところはサイヤ人っぽいな。」

トランクス「……よし。コンピュータはカプセルに収納しました。急いで戻りましょう。」

セル（完善体）「そうだあ、これも持つていこう。17号と18号の設計図だよ。何かの役に立つかもしれない。」

クリリン「おっ！ それがあればあいつ等が暴れ出した時に止められるかもしれないな！」

トランクス「ええ！ それも一緒に母さんに見てもらいましょう！」

— 神の宮殿 —

ギーイイイ・・・バタン

ベジータ「ようやく出てきたか。1000日の予定だったのに1年間も修業しやがって。待ちくたびれたぞ。」

超ラディッツ「すまん。農行は達成したがまだ不安だったからな。」

超悟空「おう！ おかげですっげえ強くなれたぞ！ 超サイヤ人にもずつとなつていられるようになったしな！」

ベジータ「そのようだな：：これなら俺も貴様らと同じ修業をした方がよさそうだ：：トランクス入るぞ！ 少しでも早くパワーアップするんだ！」

トランクス「待つてくくださいよ父さん！ 俺はサイヤ人の血を引いてますけど農耕民族じゃないんですよ!? だから農行をしたって・・・」

ベジータ「たしかにお前は農耕民族ではない・・・だが、農行は何も農業力を上げる為だけのモノじゃない。極限の状態に身を置く事で感覚を研ぎ澄まし、余分なモノを削ぎ落す・・・その結果己の中に眠っている潜在能力を引き出す修業なんだ。これを行えばお前は必ず強くなれる。だから俺に着いてこい！」

トランクス「父さん・・・分かりました。俺も強くなりたい。人造人間にもセルにも負けないくらい！」

ベジータ「それでこそ俺の息子だ！ それじゃあ行ってくる。ラディッツ、カカロット。お前達が精神と時の部屋に入っている間に事態は大きく動いている。ピッコロに話を聞いておけ。」

トランクス「それと今、母さんがドクター・ゲロの研究所にあつたコンピュータと人造人間の設計図を調べているので何か分かつたら連絡があるはずですよ。」

超ラディッツ「分かつた。状況を確認したら動くでしょう。」

超悟空「強くなったオラ達ならどんな奴にだって勝てるさ！ ベジータ達が出てくる前に終わっちゃうかもしんねえぞ！」

ベジータ「それならそれでかまわん。一番重要なのは地球を守る事だからな……それじゃあ行ってくる。」

トランクス「ラディッツさん、悟空さん。皆をよろしくお願いします。」

ラディッツ「当然だ。貴様はこつちを気にせずにしつかり強くなって来い。」
トランクス「はいっ！」

.....

ピッコロ「……という訳だ。」

悟空「ひゃー！ そんなすげえ奴が現れたんか！ オラ、ワクワクしてきたぞ！」

ラディッツ「そのセルという奴は許せんな。俺らが丹精込めて育てた最野菜を盗み食
いした挙句、18号を狙っているだと・・・最早畑のこやしでは済まさん・・・塵も
残さず滅ぼしてくれる!!」ゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

天津飯「許せんのは分かったから気を収めてくれ・・・息ができん。」タラリ

ラディッツ「おっと、すまん。」シユウ・・・

クリリン「本当に強くなつたんだな。これなら18号達やセルにも勝てるんじゃないか？」

ラディッツ「どうだろうな。18号はあの時本気を出していなかったからどれだけ強
いのか分からんし、セルの方は今も成長を続けているのだろうか？」

ピッコロ「いや、セルの方は恐らく大丈夫だ。パオズ農場の件で最野菜を吸収してい
る事が分かったからな。残りの最野菜農場・・・ルートベジタブルフアームの本社とカ
プセルコーポレーションの分は全て収穫して厳重に保管してある。後は奴が痺れを切
らして現れるのを待つだけだ。」

ラディッツ「そうか・・・ところで18号達の動向はどうだ？ セルがそちらに現れ
る可能性もある。」

ピッコロ「あいつらなら東地区でドライブしているとところだ。元々東の都で買い物

していたようだが、住人が避難したからすることが無くなったようだな。」

悟空「お！ あいつら暴れなかったんだな！」

ピッコロ「18号はだいぶ御立腹だったかな。」

ラディッツ「セルの事は教えてあるのか？」

クリリン「それなら俺が教えに行つたよ。セルの奴に吸収されたらまずいからな。でも17号が返り討ちにしてやるって息巻いちまつてさ。そのまま行つちまつたよ。」

ラディッツ「・・・嫌な予感がする。すぐに18号の元に向かうぞ。」

悟空「18号とは戦わねえのか？」

ラディッツ「今はそんな事をしていない場合ではないだろう。18号と戦うのはセルを倒した後だ。」

悟空「そつか。そんじゃあさつきとそのセルつて奴を倒さねえとな！」

ラディッツ「ああ！ この世界に來た事を後悔させてくれるわ!!」クワツ

—— 東地区某所 ——

ブウウウウン・・・

18号「・・・ムスー

17号「いい加減機嫌直せよ18号。別に買い物なんていつでもできるだろう?」

18号「わたしはさっさと金を使いきって思いつきり暴れてやりたいんだよ!」キッ

17号「その割に時間をかけて買った服が一着だけなのはなんでだよ? 実はそれ、

ラディッツに見せる為に買ったんじゃないのか?」ニヤニヤ

18号「はあ!? なんで私があんな奴の為にそんなことしなくちゃいけないのさ!!

時間がかかったのは気に入った服がなかなか見つからなかっただけだ!!」ウガー!

17号「ふーん・・・そういう事にしといてやるよ。」

18号「だーかーらー!!」グギギキ・・・

16号「車を止めろ17号・・・何か来る・・・」

17号「え? ラディッツでも来たのか?」

ドオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!

ヒュン・・・スタタタツ

18号「いったいなんなんだい!?!」

17号「ラディッツ達がこんな事するとは思えない・・・ということはセルって奴か。」

ギャピツ!

セル(健康体)「ぐふふふふ・・・見つけたぞお17号お、18号お。」

18号「あの気持ち悪い奴がセルなのか？ 私達と全然違うな・・・」

17号「ドクター・ゲロはセンスが無いな。どうせならもつとかつこよく造つてやればよかつたのに。」

16号「二人とも無駄話を止めて早くここから離れる。お前たちでは奴に勝てん。」

17号「何言ってるんだよ16号。俺達には無限のパワーがあるんだぜ？ あんな奴返り討ちにしてやるよ。」

セル（健康体）「ほう・・・言つてくれる。ではお前からいただくとするか17号。」シュンツ

グオン！

17号「え？」

16号「・・・」ブン

ドガツ

セル（健康体）「ちっ・・・旧型が邪魔しおつて・・・」ギヤルルン・・・ズザツ

18号「何なんだい今のスピードは・・・まったく捉えられなかつた・・・」タラリ

16号「今ので分かつただろう。奴の戦闘力は大き過ぎる・・・お前達が奴に吸収されれば、もう誰の手にもおえない・・・世界の終わりだ。」

17号「だから尻尾巻いて逃げろつて？ 冗談じゃない。 さつきは油断したがあん

な醜い妖怪野郎、俺の敵じゃない!!」ダツ

16号「17号!」

セル（健康体）「やれやれ・・・大人しく吸収されないかあ・・・ならば強制的に大人しくさせるまでえだあ。」シユンツ

ガギン

17号「はっ! どうだ? お前の動き捉えてやったぜ?」グググ・・・

セル（健康体）「ほう・・・流石だ17号。では更に早くするか。」シユンツ

17号「なに!? ぐわっ!?」バキッ

シユンツ・・・ゴキッ

シユンツ・・・ドスツ

シユンツ・・・バキイ

シユンツ・・・ドガン

17号「かつ・・・はっ・・・」

18号「・・・たしかに逃げた方が良さそうだね・・・」

16号「ああ、そうだ。私が17号を救出する。そうしたらすぐに逃げてくれ。」

18号「まさか戦うつもりか!? やめなよ! 17号であれなんだ! 旧型のあんた

じゃ・・・」

16号「・・・」ザッ

18号「聞いているのか16号!!」

16号「お前達はいいい奴だ。人間も動物もいたずらに命を奪わなかった。短い間だが、いつしよに旅ができて楽しかった・・・」

セル（健康体）「無駄な抵抗はもう終わりか？ それではそろそろ吸収させてもらおうか。」グイッ

17号「くっ・・・離せ・・・醜い妖怪野郎!!」ジタバタ

セル（健康体）「くっくっくっ・・・これからその妖怪野郎と同化するのだぞ？」スッ
グオン

17号「ッ!？」ジタバタ

セル（健康体）「ではいたどころ・・・ん？」トン
ガッン!!

セル（健康体）「なに!？」ギユウウウン・・・

ドガアアアン!!!

16号「17号、すぐに18号と逃げろ。私が奴を破壊する。」

17号「破壊するだど?・・・そんなの無理だ・・・俺でさえ手も足も出なかったのに・・・お前が逆に破壊されるぞ!!」

16号「・・・計算では私とセルはほぼ五分と五分の戦闘力だ。」ドシユンツ

17号「なんだつて!!」

セル(健康体)「面白い! ならばその力見せてみるお!!」バシユンツ

ガギイイイイイイ!!

セル(健康体)「ぬう・・・このパワーは・・・」ググググググ

16号「やはりな・・・スピードは早いがその分パワーが低い。」ガチツ

ブンブンブンブン!!

セル(健康体)「なあああああ!!」ドガンドガンドガンドガン!!

ドガン!!!

ガチャン・・・ブルン・・・ブイイイイイ!!

セル(健康体)「・・・っ!? チェーンソーだとおお!!」ギョツ

チュイイイイ!!

セル(健康体)「ぎいいいいやあああああ!!!」ジタバタ

ガチャン・・・キヤルキヤルキヤルキヤル!!!

17号「なんだアレは!? 刃が付いたローラー?」タラリ

16号「・・・」ガチャン

17号「マジかよ・・・ホントに倒しやがった・・・」ゴクリ

16号「・・・っ!? 逃げろ17号!!」バツ

17号「なに？」

グチユグチユグチユグチユ・・・

セル（健康体）「ばあ!!」シヤツ

グオン・・・ギユウツ・・・ゴクン!

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴツ・・・カツ!!!

セル（頑健体）「はああああ・・・体中に力が漲るウウウ・・・これが特殊生命体との

融合・・・すばあらしいいいいい!!!」ゴツ

18号「そんなっ・・・たしかにあいつは・・・」ジリツ

セル（頑健体）「ふっふっふっ・・・私には核が存在してなあ・・・それが破壊されな
い限り死にはしない。そして核さえ無事ならピツココロの血の力により再生できるの
だあ!!」

16号「18号逃げろ・・・俺が奴を食い止めている間に!!」ドシユン!

セル（頑健体）「ふん!!」ブン!

ドクシヤツ!!!

16号「がつ……」ズザアアア

セル（頑健体）「馬鹿め！ 最早貴様など私の敵ではないわあ！」クワツ

18号「16号!?!……くつ」スツ

セル（頑健体）「さて18号、次は貴様の番だ。大人しく私に吸収されるがいい……」
ゴゴゴゴゴゴッ

—遂に17号を吸収してしまったセル。そして更なる進化を求め、その魔の手を18号へと伸ばす。ラディッツは間に合う事ができるのか。そして、18号を守る事ができるのか……人造人間を巡る戦いは続く—

超ラディッツ「18号……無事でいてくれ!!」ギユン

つづく

18号「それ以上近づいたら自爆してやるからね!!」

18号「私に死なれたら困るんだろ?」

セル(頑健体)「……この声が聞こえるか18号? 俺だ……17号だ。」17号

ボイス

18号「っ!?!」

セル(頑健体)「今俺はセルと一体化してとてもいい気分だ……すばらしいぞ! お前も早く吸収してもらうべきだ。たったそれだけで究極の生命体になる事が出来るんだぞ!」17号ボイス

18号「……………」タラリ

16号「だ……騙されるな18号……そ……そんなのはセルが17号の声を利用しているだけだ!!」ギギギツ

セル(頑健体)「きさまは余計な事を言うな! 黙ってる! ロボットに俺達の気持ちとは分かんさ!……さあ、18号! 迷う事は無い! 早く一体化して最高のパワーを手に入れるんだ!! そしてドクター・ゲロ様の意思を受け継ぎ、孫悟空を倒し、更に全世界をも我らの手に!!」17号ボイス

18号「・・・お前は17号なんかじゃない!! 私達は勝手に改造したドクター・ゲロを恨んでいた。ドクター・ゲロ“様”なんて間違つても言わないよ!!」キツ

セル(頑健体)「・・・ふん! ならば貴様を無理にでも吸収するまでだ。今の私なら、貴様がエネルギー弾を放つ前に捕える事ができるからな!」

18号「くっ・・・」ジリッ

セル(頑健体)「ふっふっふっ・・・諦める。」ニイ

超悟空「でやああああ!!」ギユン

ゴキイイイ!!!

セル(頑健体)「なあにいいい!!」ズザザア・・・

超悟空「だだだだだだだだだ!!」ドガガガガガガ!

セル(頑健体)「ぐううう!! 孫悟空うう!!」ビシビシビシシ・・・

バシユウウウ・・・スタツ

超ラディッツ「18号! カカロットが奴を足止めしている間にここから離れるぞ!!」ガシッ

18号「ラディッツ!? どうして・・・」

超ラディッツ「お前が心配だったからに決まってるだろう! おい16号! 貴様は動けるか!」

16号「すまない・・・動けそうにない・・・」ギギギ・・・

超ラディッツ「ならば俺が運ぶ・・・いくぞ18号!俺に着いて来い!」スツ

18号「つ・・・分かったよラディッツ・・・あんたに着いてくよ!」ギユツ

バシユウウウ・・・

超悟空「・・・行つた見てえだな。」スタツ

セル(頑健体)「孫悟空うう・・・俺の邪魔をしおつてええ・・・!!」ギリツ

超悟空「そう怒んなよ。もともとオラと戦うつもりだったんだろ?それともオラが怖えのか?」ニヤツ

セル(頑健体)「舐めるなよ!!完全体にならずとも貴様なんぞ殺してくれるわあああ!!!」ゴツ

超悟空「へへっ!すげえ気だな。オラわくわくしてきたぞ!そんじゃあいつちよやってみつかあ!!」ブオオオオ・・・

カツ!!

超悟空1-2「はああああ・・・」シユウウウウ・・・

セル(頑健体)「え・・・!!?」

超悟空1-2「・・・いくぞ。」シユンツ

ズムツ!!

セル(頑健体)「かはっ・・・!?」グラッ

超悟空1―2「・・・」グッ

バキッ!!!

セル(頑健体)「っ・・・!?」ズザアア・・・バツ

超悟空1―2「どうしたんだよセル? おめえの力はそんなもんじやないだろう?」

セル(頑健体)「ふっふっふっ・・・少しはやれるらしい・・・なー」ブンッ

超悟空1―2「ふっ!」ガシッ

グアツ・・・ダン!!!

セル(頑健体)「くっ!!」バツ

ギユン!!

超悟空1―2「はあっ!!」バカッ

ヒユウウウウ・・・ザパアアアアン!!

ヒユン・・・スタッ

超悟空1―2「出て来いよセル。まだまだやれんだろ?」

バシヤン!

セル(頑健体)「本気にさせたいようだな・・・この俺を!!」ギリッ

超悟空1—2「もっと強くなれんのか!? ひゃー!! だったら遠慮しねえでやってくれ!!」ワクワク

セル(頑健体)「・・・ふふ・・・」

サツ

セル(頑健体)「はああああああ・・・!!!」ゴゴゴゴゴゴゴツ

セル(頑健体)「はああああ・・・」ニイ

超悟空1—2「おめえやっぱすげえなあ・・・楽しくなってきたぜ!!」グツ

セル(頑健体)フルパワー「孫・・・悟空うううう!!!」バツ

ガツン!!!

——とある無人島——

18号「大丈夫か16号?」

16号「ああ・・・今自動修復機能をフル稼働しているところだ。あと数分もすれば自分で動けるようになる。」

超ラディッツ「すまん。せめて貴様が飯を食えたなら最野菜の大豆で治してやれたんだが・・・」

16号「気にするな。お前は18号を助けに来てくれた。それだけで十分だ。」ニコリ
超ラディッツ「俺が18号を助けるのは当然の事だ。18号には俺の嫁になつてもらわねばならぬのだからな。」

18号「ホントあんたは馬鹿だね。こんな時にまでそんな事言うなんて・・・」ソワソワ

超ラディッツ「ふっ、お前を嫁にする為なら馬鹿にでもなんにでもなるさ。」

18号「ふん！　いくら金を持ってようと馬鹿の嫁なんてごめんだよ！」プライツ

16号「ふふ・・・青春だな。」ニッコリ

ザパアアアン!!

超ラディッツ「っ!?　下がれ18号!!」ギョーン

ガギン!!

セル（頑健体）「ほう・・・完全に虚を突いたと思つたんだがなあ。」グググ

超ラディッツ「貴様何故!」グググ

セル（頑健体）「ふっふっふっ！　そんなもの孫悟空を殺して追つてきたに決まつてい
るだろう!!」バキッ

ギヤルルン・・・サツ

超ラディッツ「馬鹿を言え! カカロットの気はまったく消えていない・・・何!? セルの気だと!? どういう事だ!」

セル(頑健体)「つまりこういう事さ。」

ポコポコン!!

18号「きゃあ!?」グルグルグル

16号「18号!! ぐっ」ゴキイ

超ラディッツ「こ・・・これは・・・!?」

セル(頑健体) B「おっと動くなよラディッツ。動けば18号を吸収するぞ?」

セル(頑健体) C「お前もだ16号。自爆なんてしようものなら・・・分かってるな?」グリグリ

18号「な・・・なんでセルが3体も・・・っ!」ギリギリ

セル(頑健体) A「なあと簡単な事よ。天津飯の四身の拳で分身しただけだ。」ニイ

超ラディッツ「まさか天津飯の細胞も持っていたとは・・・カカロットと戦っているのは最後の一人か。」

セル(頑健体) A「そのとおり。だが、私の分身は天津飯と違いパワーダウンしないのでな。孫悟空に海に落とされた際に分身して気を抑えながら追ってきたという訳だ。」

(まあその分耐久力が下がってしまふのだがな……)

超ラディッツ「ちっ……してやられたぜ……だが何故すぐに18号を吸収しない？　それが貴様の目的なのだろう？」

セル(頑健体) A「たしかにそうだった。だが、貴様を見た事で考えが変わった。ラディッツ、俺に吸収される。そうすれば18号は助けてやる。」

超ラディッツ「俺を吸収する……だと!?　何故そんな事を……」タラリ

セル(頑健体) A「私がここまで進化できたのはひとえに最野菜のおかげだ。あれほど生体エネルギーに溢れたモノは他に存在しない。そして、そんな最野菜を生み出す事ができるサイヤ人を吸収する事ができたならどれほどの力が手に入る事か!」

18号「だめだよラディッツ!　私はいいからそんな奴ぶつ飛ばしちまいな!!」

セル(頑健体) B「うるさいぞ18号お?　大人しくしているお!」ギユウウ

18号「うっ……」ギリギリ

超ラディッツ「やめろ!……本当に俺が吸収されれば18号を見逃してくれるんだな?」

セル(頑健体) A「ああ、最野菜に誓って手は出さん。」

超ラディッツ「……分かった。好きにしろ。」

16号「ラディッツ!!」ザリツ

超ラディッツ「16号・・・18号を頼んだぞ。」

セル(頑健体)A「それでは全ての最野菜に感謝して・・・いただきまああす!!!」グ
アツ

ズツ・・・ギウツ・・・ゴクン!!

18号「あ・・・ああ!!!」ツ・・・

バシユウウウウウウ

超悟空1-2「兄ちゃんっ!!!」ギユン!!

16号「孫悟空!!」

セル(頑健体)A「はあ~~~~っ!!!」ブウウウン・・・

バンツ! バンツ! バンツ!!!

超悟空1-2「ちくしよ〜!!」ガンガンガン!!

カアア・・・ボウツ!!!!

超悟空1-2「うわあ〜っ!!!」ビユンツ

グオオオオオオオオオオオオオオオオ・・・

ビクトリーセル「・・・」ゴゴゴゴゴツ

18号「そんな・・・ラディッツ・・・」ペタン

16号「分身が消えたか・・・ぬん!」ギギギ・・・

ダン！

16号「18号、ここを離れるぞ。進化した奴が何をしでかすか分からん。」ポン

18号「い・・・嫌だ！ あいつを・・・ラディッツを助けないと!!」フルフル

16号「無理だ。セルは17号を吸収した時点で俺達を超えていた。そのセルがラディッツを吸収してしまったのだ。私達に勝ち目はない・・・。」

18号「でも・・・。」

シユタツ

超悟空1―2「オラが奴を足止めする。おめえらはカリン塔の上にある神様の宮殿へ行つてくれ。そこにオラの仲間達がいる。場所は分かるか？」

16号「そこならデータにある。すまない孫悟空。」

超悟空1―2「気にすんなって。おめえらは悪い奴じゃねえし、困った時はお互い様だ。」

ギユピツ！

Vセル「・・・リー・・・ロン」

超悟空1―2「あいつもやる気みてえだ。早く行け!!」スツ

16号「分かった。いくぞ18号！」ガチツ

18号「っ・・・。」

Vセル「ベリイイイイメロオン!!!」カツ!

超悟空「……へ？」ポカッ

Vセル「ふはは……ふうーはっはっはっはあぁあ!! ついに……ついにサイヤ人の力を手に入れたぞ! この力さえあれば好きだけベリーメロンを作る事ができる!! 最早ベリーメロン以外どうでもいい! アーイ・ラヴ・ベリイイイイメロオン!! オールハイル・ベリイイイイメロオオオオン!!」カツ

超悟空「……おめえ……ホントにセルなのか?」

Vセル「何を言っている? どこからどう見てもセルだろう?」

18号「いや、変わり過ぎだろっ!!」

Vセル「ふむ……まあ、ラディッツを吸収した事により華麗に進化した私を見違えてもしょうがないか……よし! ならば改めて自己紹介しよう!! 私はベリーメロンを求めて未来からやってきたベリーメロンをこよなく愛する究極のベリーメロン間……ビクトリーセルだぁあ!!!」Vポーズ

16号「どうしてこうなった……」

Vセル「さて、自己紹介も終わったし、そろそろ始めるとするか。」スツ

16号「野望だど・・・?」

Vセル「そうだ・・・私の野望・・・それは・・・この全宇宙をベリーメロンで埋め尽くす事だ!!」ドーン

18号「こんな奴の為にラディッツは・・・」フラツ

16号「しつかりしろ18号!」サツ

Vセル「ふはははははは! それでは我が野望の第一歩としてこの地球の大地という大地全てをベリーメロン畑にしてくれる!!」

超悟空「そんなことさせねえぞ! たしかにメロンはうめえけど、それだけ育てても誰も幸せにならねえ!!」ピシッ

Vセル「そんな事は無い! ベリーメロンは誰もが愛する至高の作物! それが大地を埋め尽くすという光景を望まぬ人間がいる筈がない!!!」ピカー!!

超悟空「だったら地球の皆に聞いてみるか? そうすればどっちが正しいか分かるはずだ。」

Vセル「聞くまでも無いと思うがな・・・まあいいだろう。ならばベリーメロンとその他の作物全て! どちらが良いか地球の住民に聞こうではないか!!!」カツ

超悟空「よーし! そんじやあ準備があるから10日位待つてくれねえか? それまでに準備を終わらせるからよ。」

Vセル「いいだろう！　ならばその間、私は適当な場所にセルフアームを立ち上げ、ベリーメロン畑を作りながら待つとしよう。」

超悟空「しようがねえな・・・地球の皆に迷惑にならねえ場所にしてくれよ？」

Vセル「善処しよう。」

—— 神の宮殿 ——

ピッコロ「まさかこんな事になるとはな・・・」

16号「すまない・・・我々の責任だ。」

18号「っ・・・」

悟飯「18号さん、そんな顔しないでください。おじさんはそんな顔をさせる為に18号さんを助けたんじゃないんですから。それに今ブルマさん達がセルを造ったコンピュータを調べているところなんです。きつとおじさんを助け出す方法も見つかりますよ！」

18号「坊や・・・そうだね。いつまでもクヨクヨなんてしてられない。私もラディッツ達を助けるためにできる事をするよ。まあ、何ができるのかは見当もつかないんだけど」

どね……。」

クリリン「それは俺達も一緒だよ。仲間だつてのに何もできない……すぐくもどかしいよ……。」

天津飯「なんにせよブルマ達がコンピュータの解析を終わらせない事には動きようがないな。」

キイイイン!!

チャオズ「あ! ブルマの飛行機だ!」

悟空「そんじゃあ何か分かつたんだな!!」

ヒュウウウウ……ガチャン!

スタツ キュピツ ボン!

ブルマ「皆お待たせ! セルが吸収した物を吐き出させる方法が分かつたわよ!」

セル(完善体)「へえ……ここが神の宮殿かあ。なかなか興味深い所だねえ。」キョ

ロキョロ

8号「なっ!? セル!?」サツ

16号「あのセルよりだいたい小さいが……奴が生み出した分身か?」ガチャン

クリリン「待て待て待て! 二人とも待ってくれ! こいつはセルだけど俺達に協力

してくれてるんだ!」

天津飯「そのとおりだ。こいつがラディッツ達を救い出す鍵になるんだ。だから攻撃しないでくれ。」

18号「・・・どういう事だい？」

悟飯「それをこれから説明します。実はですね・・・」

・・・

18号「じゃああのトランクスって奴とセルは別の世界から来たってことなのかい？」

16号「パラレルワールドというものか・・・まさか実在したとはな・・・」

セル(完善体)「そういうことだねえ。そしてボクがこの世界で生まれた野菜と大地と平和を愛するセルさ！ とあるゲームのキャラクター風に言うよ 『ふるふる。ぼくわるいセルじゃないよ。』だね！」

18号「その姿と声でふざけたこと言ってるんじゃないよ。捻り潰されたいのかい？」
ピキピキ

16号「気持ちは分かるがやめるんだ18号。ラディッツを助けられなくなるぞ。」
ン

18号「そうだったね・・・命拾いしたな。ラディッツに感謝しな!」チツ

セル(完善体)「やれやれ・・・18号はおつかないなあ。ちよつとしたお茶目じやないかあ。」

ブルマ「いや私もだいぶイラつときたわよ? だだでさえ姿と声のギャップで気持ち悪いのにそんなこと言われたんじや引つ叩きたくもなるわよ。」ヤレヤレ

悟空「だよなあ。おめえ声が残念すぎつぞ!」

セル(完善体)「酷い!? ボクだつて好きでこんな声じやないのに! どうせならくぎゅボイスが良かったよ!!」

悟飯「まあまあ・・・僕はセル君の声、嫌いじやないですよ? 聞いているとんだか楽しくなつてきます。」

セル(完善体)「おお! 悟飯くん! 君は何ていい奴なんだ! 是非ボクのお友達になつてほしい!」キラキラ

悟飯「もちろんだよ! よろしくねセル君!」スツ

セル(完善体)「こちらこそよろしく悟飯君!!」ギユツ

クリリン「良い話だなく・・・じやなくて、そろそろラディッツ達を助ける方法を教えてくれよ。分かつたんだろ?」

ブルマ「そういえばそんな話だったわね。もう! セルの所為で忘れちゃつたじやな

い！」プンスカ

セル（完善体）「いやまあたしかにボクの所為だけどさあ・・・」

18号「いいからさつきと言いな！　じやないと背中 of 翅を引つpegすよ!!」ガシツセル（完善体）「わっわっ!?　分かったから止めてえ！　ボクのチャームポイントを取らないでええ!」ジタバタ

16号「それでどうすれば二人を助けられるんだ?」

セル（完善体）「・・・どうやら奴は吸収したモノを体内に留めておくのにかなりエネルギーを使うみたいだね。なんとかして消耗させれば吐き出すと思うよ。」

16号「だが、セルは17号を吸収して無限のエネルギーを手に入れた。それを消耗させるといのは・・・」

ブルマ「それなら問題無いわ。セルが・・・ああもう紛らわしいわね！　これからこっちのセルは善セルって呼ぶわね!」

善セル「構わないよお。ボクもあのセルと一緒にされたくないからねえ」

ブルマ「・・・それでね。善セルが持つてきてくれた設計図のおかげでエネルギー炉を止める装置が造れそうなの。これがあればセルが取り込んだ17号のエネルギー炉も止められるはずよ。」

クリリン「止められたとしても消耗するようになるだけで強いのは変わらないだろう

からなあ・・・戦って消耗させるのは難しそうだ・・・」

悟空「大丈夫だつて！ あと10日もあるんだからそれまでに強くなればいいさ！」

天津飯「そうは言っても精神と時の部屋には使用制限があるだろう？ 悟空は後1年

分しか使えないぞ。」

ピッコロ「・・・いや、なんとかなるかもしれない。」

悟空「本当かピッコロ!!」

ピッコロ「ああ、俺は神と融合した事でパワーアップしたがその際に知識も継承した。

この知識とナメック星で学んだ知識を合わせれば使用期間を延ばして入れる人数も増やせるかもしれない。」

悟飯「すごいですピッコロさん!!」

クリリン「それならセルともまともに戦えるようになれそうだな！」

ピッコロ「できるかどうかはやってみることに分らんぞ？ それに時間が必要だ・・・そうだな、ベジータ達が出てきてからになるが2日程時間をくれ。」

善セル「合わせて3日か・・・それじゃあ待っている間もう一つの方法を試そうか。」

18号「他に方法があるのかい!? いったいどうすればいいんだ!?!」

善セル「やる事は単純さあ。セルに催吐性のある物を食べさせるんだ。これでもラディッツ達を吐き出すはずだよ。」

天津飯「そんな事で助けられるのか・・・だがどうやってセルにそんなものを食べさせるんだ？」

16号「・・・奴はメロンに凄まじい執着を持っていた。」

チャオズ「じゃあメロンに薬を混ぜる？」

善セル「それじゃあすぐにばれるんじゃないかなあ。」

悟空「だな。オラだつて変なの混ぜつてたらすぐに分かるんだからセルにも分かるだろ。それにそんな事したらセルが大暴れしちまいそうだ。」

クリリン「それじゃあどうするんだ？ やっぱり戦うしかないのか？」

悟飯「・・・僕に考えがあります。」

クリリン「本当か悟飯!? いったいどうするんだ？」

悟飯「はい。セル攻略の鍵・・・それは、ずばりメロンです!」

悟空「何言つてんだ悟飯。それはさつきから話してただろ？」キョトン

悟飯「正確にはメロンのヘタの周りの部分です。」

善セル「・・・そうか! ッククルビタシン"か! 流石だよ悟飯君!!」

18号「そのククルビタシンつてのはいったい何なんだ？」

悟飯「ククルビタシンはウリ科の植物のヘタに近い部分に含まれる有害物質です。」

ブルマ「え!? ウリの仲間にはそんなものが入つてたの!? 大丈夫なのそれ? 私

ズッキーニとか好きなんだけど・・・」

善セル「通常の含有量では無害だよ。ただ、稀に含有量が多いモノがあつてそれが原因で食中毒になつたりするんだあ。」

チャオズ「そういうえば、たまに苦くて渋いやつがあつた。それがそうなのかな？」

悟飯「たぶんそれです。その苦みや渋みの成分で食中毒になるんです。」

天津飯「だが俺達は食べても平気だったぞ？　とてもセルに効くとは思えんが・・・」
悟飯「はい。だからメロンを品種改良してクルルビタシンが大量に含まれるモノを作り出します・・・本当はこんな事はしたくないんですけどね。」

善セル「そうだねえ・・・品種改良つていうと良い物だと勘違いしそうだけど、その本質は遺伝子組み換えと変わらないからねえ・・・」

16号「たしかにな・・・品種改良は「掛け合わせ」を行うことで、望ましい形質をもった子孫を作る。対して遺伝子組み換えはDNAの構造を直接的かつ人為的に変化させる・・・DNAに変化を与えるという点では、品種改良も遺伝子組み換えも同じだ。」
悟空「そんなに深く考えんなって！　環境に悪影響与えるってんならダメだろうけど、おめえ達はその事しねえだろ？　それにメロンは中身を食うもんなだから皮が苦くたつて問題ねえさ！」

ブルマ「それに品種改良は地球じゃ普通のことだしね。美味しくしたり、寒さや暑さ

に強くしたり。まあ、時間が掛るし、変な特性持つて無いかとかしつかり調べ無くちゃダメだけど、そこに注意すれば大丈夫でしょ。」

悟飯「・・・分かったよお父さん、ブルマさん。僕やるよ。皮にクルルビタシンを持たせる代わりにすつごく美味しいメロンを作ってみせる!!」グツ

善セル「ボクも手伝うよお！　そしてセルの奴においしいと言わせてやろう！」

悟飯「ありがとう善セル君！　君が一緒ならすごく心強いよ！」

ブルマ「それじゃあベジータ達が出てくるまでどういう風に掛け合わせるかシユミレーションしておきましょう。復元したドクター・ゲロのコンピュータを使えば精度の高いデータが採れるはずよ。」

善セル「そうだねえ。それと掛け合わせる作物も決めないとねえ。」

悟飯「最野菜のマスクメロンをベースにするとして、夕張メロンとアンデスメロン、それと他のウリ科の作物を掛け合わせてみましょう。」

18号「私に何かできることはないか？　ラディッツ達を助けるために私も何かしたいんだ。」

悟飯「残念ですけどこれは専門的な知識が必要な事ですから・・・18号さんはセルと戦う事になった場合に備えて鍛えたらどうですか？」

善セル「いや、18号は生体ベースとはいえ、ある意味完成された固体だから成長率

はあんまり高くないと思うよ。だから、精神と時の部屋で鍛えたとしても悟空たちみたいに急激な成長は望めないかなあ。」

18号「そんな・・・私は何もできないのか・・・」ブルブル

16号「18号・・・」

悟空「・・・18号でも強くなれつかもしれねえ方法があるぞ。」

18号「本当か!?!」バツ

悟空「おう!・・・ピッコロ、ラディッツの農場にあつたアレも収穫してあるんだよな?」

ピッコロ「アレ?・・・そういう事か。たしかにアレならば18号も強くなれるかもしれない。」

16号「アレとはいったいなんだ?」

18号「強くなれるならなんだっていいよ。さあ、早く案内してちょうだい。ラディッツを助ける為ならなんだってやってやるよ・・・」グツ

ピッコロ「分かった。それじゃあ着いて来い。お前達に伝説を見せてやる。」

—18号を守る為にセルに吸収されてしまったラディッツ。結果セルは強大な戦闘力と農業力を手に入れるが、農耕民族の遺伝子の影響でベリーメロン化してしまう。こ

れにより当面の危機は回避されたがこの事が吉と出るのか凶と出るのか・・・それはまだ誰にも分からない。――

Vセル「喜びのパワーを右腕に！」キイイイン！

Vセル「慈しみの力を左腕に！」キイイイン！

Vセル「我が強さを右肩に！」キイイイン！

Vセル「誇り高き心を左肩に！」キイイイン！

Vセル「我が美しさを股間の紳士に！」チーン！

Vセル「シン・チャールズ・ファーマーミングシーズン!!!」

ズガガガガガガガガガガツ!!!

ズ Vセル「我が愛は1億のメロンを生む！ さあ、美味しく育つんだぞお前達!!!」Vポー

つづく

悟空「ひゃー！ 会社の地下はこんな風になってたんか！」

18号「お前、ラディッツの弟だろ？ 知らなかったのか？」キョロキョロ

悟空「おう！ オラ難しい事分かんねえから、畑仕事だけやってたかん！ 会社に来んのも久しぶりだ！」

18号「悟飯とラディッツは頭良さそうなのになんでこいつは・・・」

ピッコロ「幼い頃に崖から落ちて頭をぶつけたらしいからな。その時に頭のネジが何本か抜けてしまったんだろう。」

18号「ああ、どうりで。」

悟空「ひでえなオメエら!？」

16号「それにしても巨大な冷蔵庫だな。いったいどれだけの量を貯蔵できるのか・・・」

ピッコロ「俺もそこまででは分らん。だか、セルに吸収されない様に収穫した最野菜は全てここに保管してある。」

悟空「ここがセルに見つけられなくて良かったよな。もし見つかったらもつと大変な事になってたぞ。」

18号「それで本当にここにパワーアップできるモノがあるのか？　まさか最野菜がそうだとか言わないだろうね？」

ピッコロ「半分当たりで半分外れというところだな。」

18号「なんだいそりゃ？　もったいぶらずに教えなよ。」

ピッコロ「そう焦るな．．．ほら見えたぞ。目的のモノはあの中だ。」

16号「．．．随分頑丈な扉だな。これは私でも破壊できないかもしれない。」ペタペタ

ピッコロ「特殊超合金製の扉だ。こいつはベジータのギャリック砲でも傷付けられん代物だ。代わりにとつともなく重いがな。」

18号「アレとやらは、それだけの事をする必要があるモノってことか．．．それじゃあさつさと開きな。時間が惜しい。」

ピッコロ「ああ．．．孫、あそこの装置に手のひらを乗せて、レンズを覗きこめ。そうすれば扉が開く。」

悟空「おう！　任せてくれ！」スッ

ピピピピピピ．．．ピーー！　ガチャン！

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

18号「・・・これがそうなのか？」

ピッコロ「そうだ。これがお前をパワーアップさせるモノ・・・伝説のスーパー最野菜・・・モドキだ。」

18号「なんだいモドキって？」

悟空「本当の伝説のスーパー最野菜は黄金に輝いてんだけど、こいつは完全に成熟する前に収穫しちまったからな。」

ピッコロ「その所為で本物程の力は無いが、それでも凄まじいエネルギーを秘めている。こいつを食えばお前もパワーアップできるはずだ。」

16号「たしかにこれだけのエネルギーがあれば18号もパワーアップできそうだが・・・」

18号「金色に点滅するラディッシュとか食べたくないんだけど・・・ホントに食べて大丈夫なのか？」

ピッコロ「気持ち分かるが大丈夫だ。こいつは完全無農薬でラディッシュの農気を大量に受けて育ったモノだ。安全性も味も保証する。」

悟空「心配すんなって！ 美味すぎて昇天しかけつかもしんねえけど、そんな時はぶん殴って連れ戻すからよ！」ブンブン

このままではエネルギー炉が暴走して爆発するぞ!!」ザッ

ピッコロ「待て16号。18号は今、身の内から溢れ出るエネルギーを制御しようと闘っているんだ。邪魔をするな。」ガシッ

16号「しかしっ!!」

18号「……………そうだよ16号……………邪魔するんじゃない……………もう少しで抑え込めそうなんだ……………もう少し……………」ググクグッ

悟空「18号！ 溢れだす力をただ抑え込むだけじゃだめだ！ いきなりでつけえ力が出てきてビックリしてるかもしれないけど、その力はオメエのモンだ！ エネルギーを身体の中を血が流れるみてえに循環させろ！ いつも力を使う時と同じだ！」

18号「くっ……………こっちの気も知らないで無茶言いやがって……………だけど……………なんとなく分かってきたよ!!」ゴゴゴゴッ

キュイイイイン……………カツ!!

グオオオオオオオオオオ……………!!!!

16号「18号……………!!」ビリビリ

ピッコロ「なんて爆発だ!?!」だがこれで……………」ビリビリ

悟空「……………感じるぞ。すぐくでつけえのに静かで力強い気だ。」ビリビリ

モクモクモク・・・

18号「・・・」ユラア

16号「18号? 大丈夫か?」

ピッコロ「どこか身体に異常は無いか?」

18号「・・・平気だよ。むしろ身体の違和感が無くなって清々しい気分だ。」

悟空「そいつは良かった! ってあれ? そういえば18号には気が無かったはずなのになんで今は気を感じられるんだ?」

ピッコロ「そういえばそうだな・・・16号、スキャンできないか?」

16号「分かった。やってみよう・・・」ピー

ピピピピピピ

16号「!? こ、これは!」

18号「どうしたんだい?」

悟空「どつか悪かったんか?」

16号「・・・18号は生身の肉体に有機部品と機械を掛け合わせて造られた人造人間だ・・・だが、今の18号の肉体は全て有機物で構成されている・・・」

18号「なんだって!? それじゃあエネルギー炉も無くなったって言うのかい!」

16号「いや、エネルギー炉自体は存在する。だが、それがひとつの臓器のようになっているんだ。」

ピッコロ「つまり、18号の機械部分が機能はそのままに有機物に変化したというわけか・・・」

悟空「？ どういうことだ？」

16号「簡単に言えば、18号は最早人造人間ではない。人造人間の力を持った人間。超人となったのだ。」

ピッコロ「つまり、気とエネルギーの両方を扱えるようになったという事か。」

18号「・・・そうみたいだね。元々のエネルギーの他に別の力を感じる・・・これが気って奴なのか。」グツ

悟空「そいつはすげえな！ 元々めちやくちや強えパワー持ってたのに気まで加わったら、とんでもねえことになるぞ!!」ワクワク

ピッコロ「・・・そうとは限らんぞ。18号は元々気を扱えなかったんだ。突然気を得たからといって、すぐに使えるようになるわけではない。」

18号「たしかにね。この気ってヤツはエネルギーとは使い勝手が違うみたいだ。このままじゃ戦闘に使えないね。」

16号「それに気とエネルギーは反発し合うようだ。これを使いこなすにはかなりの

修練が必要になるだろう。」

悟空「おつ！ そんじやあ精神と時の部屋で修行だな！ オラが一緒に入つて教えてやるよ！」

ピッコロ「それがいいだろう。気の扱いなら孫が最も優れているからな。」

18号「・・・しようがないね。このままじゃ満足に戦えないだろうからね。・・・それにしてもこいつと一緒にいるのか・・・いろんな意味で疲れそうだ。」ハア：

ピッコロ「安心しろ。精神と時の部屋をパワーアップできれば入れる人数も増える。そうすれば苦勞が分散して多少マシになるだろう。」

18号「たのんだよ！ この能天気で阿呆な修業馬鹿と二人つきりだなんてごめんだからね!!」

ピッコロ「任せてくれ。孫の馬鹿がお前に移つたらラディッツに申し訳ないからな。全身全靈で当たらせてもらう。」

悟空「ホントにひでえなオメエら!？」

悟飯「とりあえず、こんなところかな。」

善セル「そうだねえ。ドクター・ゲロのコンピュータでシミュレートして、高い確率で望んだ結果になるように交配した苗の準備は万端だ。あとはピッコロの精神と時の部屋の改造が終わるのを待つだけだ。」

悟飯「あとは、期日までにベリーメロンを完成させる事ができるかね。」

善セル「あ、名前はそれにするんだねえ。」

悟飯「うん、少しでもセルが気に入る物にしたいからね。それに、皮は兎も角味は宇宙一にしたいんだ。だからこの名前がふさわしいと思っただ。」

善セル「直訳すると非常にメロン・・いや、極メロンの方がいいかな。うん。如何にも美味しそうな名前だ。」

悟飯「この名前に負けないくらい美味しいメロンを作れるようにがんばろうね善セル君！」グツ

善セル「ああ！ セルの奴をいろんな意味で昇天させてやろう！」グツ

ブルマ「あつ、居た居た。ふたりとも、メロンを栽培する為の温室とドクター・ゲロのコンピュータの複製品ができたわよ。」

悟飯「流星ですブルマさん！ まさかこんな短期間で仕上げなんて。やつぱりブルマさんは地球一の科学者ですよ！」キラキラ

善セル「我らのブルマの科学力はアアアアアアアア！ 世界一イイイイイイイイ
!!」ウインウイン

ブルマ「それ程でもあるわ！」o (O、ω、O) 9 ドヤ

トランクス「何やってるんですか皆さん・・・」タラリ

悟飯「あつ！ 出てきたんですねトランクスさん！」

善セル「お疲れ。どうやら随分強くなつたみたいだね。」ピピピッ

ブルマ「おかえり〜。ずいぶん髪の毛が伸びたわねえ。あとで切つてあげるわ。」ヒラ
ヒラ

トランクス「お願いします母さん。かなり鬱陶しかったんです。」

善セル「ええ〜！ その髪型、ドラクエの主人公みたいでかつこいじやないか！」

悟飯「そうですね！ これで剣を背負つて髪を茶色にしたらそっくりですよ！」

ブルマ「あ〜・・・でも目つきが悪いのがダメね。まったくそんな所だけベジータに
似て！」

トランクス「いったい何の話ですか・・・(汗)」

ブルマ「それはそうと、あんたが出てきたつてことは、ピッコロも精神と時の部屋の
改造を始めたのね。ここから後二日か・・・。」

悟飯「僕達の準備は終わりましたし、それまでどうしましょうか？」

トランクス「だったら、18号の修行を手伝ったらどうですか？ なんでも人造人間じゃなくなったとかで、気の扱いの練習してましたよ。」

善セル「おっ！ 無事にパワーアップできたみたいだねえ！ でも人造人間じゃなくなったっていうのはどういふことだい？」

トランクス「俺も良く分かりませんが、特別な最野菜を食べたら細胞が進化して、機械部分が有機物になったらしいですよ？ そのおかげで気を使えるようになったとか。」

悟飯「やっぱり伝説のスーパー最野菜つてすごい！ 僕も作れるようになりたいです!!」キラキラ

善セル「だったら、精神と時の部屋に入った時に悟空にスーパーサイヤ人になる方法を教えてもらえばいいんじゃないかなあ？ 時間はたっぷりあるわけだし。」

悟飯「それは良いアイディアだね善セル君！ よーし！ スーパーサイヤ人になる為に研究だけじゃなくて修業もがんばるぞー!!」グツ

善セル「僕も微力ながら協力させてもらおうよ！ 一緒に頑張ろう!!」

8日後

ギイイイイイ……バタン！

18号「ふう……久しぶりの外だけど、精神と時の部屋に慣れると身体が軽過ぎて違和感がすごいな。」

悟空「だよな。なんか軽く飛んだだけで宇宙まで行けそうな気がするぞ。」

クリリン「二人ともお帰り！ 修業はどうなったんだ？」

悟空「おう！ ラズリの修業はばっちりだぞ。気のコントロールだけじゃなくてすんげえ技も編み出したんだ！」

クリリン「そいつは良かった！……って、ラズリ？」

18号「私の名前だよ。中で修行している時に人造人間じゃなくなつたのに18号は変だと善セルの奴に言われてね。この際だから改造される前の名前を名乗る事にしたんだ。」

クリリン「へえ。そんな名前だったんだな。ところで悟飯達はもうしたんだ？ もしかして、まだ……」

ラズリ「ああ。残念だけどまだ完成していない。ぎりぎりまで品種改良を続けるみただけで、あてにしないほうがいいだろうね。」

悟空「もうちょっとのところまできてんだけどなあ……。」ポリポリ

クリリン「そうなのか……でも、ラズリも無事パワーアップできたみたいだし、悟空にベジータ、トランクスマでいるんだ。セルの奴と戦いになってもなんとかなるよな！」

ピッコロ「そう簡単にいけばいいがな。」ヌツ

悟空「おつ、ピッコロ！ 居たんか！ 他の皆はどうしたんだ？」

ピッコロ「他の連中はお野菜超選挙に向けて準備中だ。会場の準備や当日の段取り、国との調整なんかもあるから大忙しだ。」

ラズリ「……セルの奴はどうしてるんだ？」

ピッコロ「セルなら中の都北西にある平原で大人しくメロンを育てているぞ。」

クリリン「変な歌と踊りを踊りながらだけどな。」

悟空「それならよかった！ そんなじゃ残りの時間はじっくり体を休ませるとすつかあ。」

ラズリ「そうだな。セルが暴れ出した時に万全の状態で臨めるようにな……。」

ピッコロ「：：それでは次に『超☆野菜党』党首ベジータに演説を行ってもらおう。それではベジータ！」

ベジータ「ああ・・・」スツ

カツ！

ベジータ「

諸君 私は野菜が好きだ

諸君 私は野菜が好きだ

諸君 私は野菜が大好きだ

根菜類が好きだ

葉茎菜類が好きだ

果菜類が好きだ

豆科野菜類が好きだ

山菜類が好きだ

香辛つま物類が好きだ

菌茸類が好きだ

穀物類が好きだ

平野で 盆地で

高原で 台地で

丘陵で 湿原で

砂丘で 河岸段で

扇状地で 三角州で

この地上で育てられている ありとあらゆる野菜が大好きだ！

艶々と瑞々しく、ピリツと辛く威勢が良い大根が好きだ。

おでんの大根は冬の人気者。汁をたっぶり含んだ一切れを口に運ぶとホロリとろ

けて、ヤケドしてもいいと思う勢いで食べてしまう。

黒くて厚い皮に覆われていて存在感に満ちているカボチャが好きだ。

ふくりほくりとして感動的な食べ物で、咀嚼嚥下のあとに一呼吸おいて、しみじみ

東の空を見つめていたいほどだ。

紫色が美しく光沢があり、皮の弾力の張った茄子が好きだ。

科学的に分析すれば、あまり栄養のない食べ物だが、食べ物の値打ちは栄養だけにあ

るのではない。食べる喜びのために食べる。それでいい。

白菜の葉っぱの縮緬じわに溜まった露の悲しい重み。葉の表をすべる日光の、猫の毛

のような肌触りの柔らかさも堪らない。

塩漬けされた白菜の歯ざわりの快さ、ポリポリと響く音は最高だ。

すき焼きの牛肉はネギに味付けをする添え物に過ぎない。肉の味が移ったネギはすき焼きの醍醐味。肉の旨味と柔らかいネギの甘さには絶頂すら覚える。

ミョウガの刺激の強い香り。舌をちよつと痺れされるような味が好きだ

こんなに自己を頑固に守り通して、黙つて辛味と香りを一身に引き受けている野菜をほかに知らない。

野のものなのに、春菊やほうれん草のような癖が無い菜の花が好きだ

花盛りの菜の花は、金色の花が高く高く咲き連なり、舌だけではなく、目でも楽しませてくれる。

諸君 私は野菜を 全ての人間の心を満たす野菜を望んでいる。

諸君 私を支持する地球人諸君。

君達は一体 何を望んでいる？

メロンのみの世界を望むか？

色鮮やかな野菜が食卓に並ばない世界を望むか？

肥満、栄養失調、生活習慣病が蔓延する世界を望むか？」

民衆『野菜!!』
ベジタブル
野菜!!
ベジタブル
野菜!!
ベジタブル

超ベジータ」

よろしい ならば農業だ

我々は満身の力をこめて今まさに振り下ろさんとする備中グワだ！

だが今や飽食の時代。美味しい物が溢れるこの時代において、ただの農業では通用しない！

農業革命を!! 一心不乱の超農業革命を!!

我らはわずかに50億人に満たぬ小さな星の住人にすぎない。・

だが諸君は宇宙屈指の農耕民族だと私は信仰している。

ならば我らは、諸君と私で総兵力500兆と1億人の農集団となる。

野菜を視界の彼方へと追いやり 偏食をしている連中に思い知らせよう。

健康であるからこそ、好きな物を食べられるのだと思ひ出させよう。

連中に野菜の味を思い出させてやる。

連中に野菜を噛みしめた時の音を思い出させてやる。

多彩な食物が在るからこそ、愛するモノを真に楽しむ事ができるのだと思ひ出させて

やる!!

天津飯「ベジータの奴め。途中から暴走していたな。まさか演説で超サイヤ人になるとは・・・」タラリ

ラズリ「これからどうするんだ？」

トランクス「投票は個人IDを使ったネット投票ですからすぐに結果は分かりますけど、この様子だと投票が終わるまで時間がかかりそうですね・・・」

ピッコロ「とりあえず投票期間は今日1日だ。午前0時まで投票を受け付け明日の10時に結果発表となる。」

悟空「それじゃあそれまで暇だなあ・・・」

Vセル「ならば俺が手塩にかけて育てたベリーメロンを喰らうがいいイ!! その魂にベリーメロンの素晴らしさを刻みつけてやる!!」

——翌日 お野菜超選挙演説会場——

悟空「いよいよ投票結果の発表だな！」

トランクス「結局0時ぎりぎりまで投票が終わりませんでしたね。」

クリリン「ベジータの所為で結構な人数が農業に走ったからなあ・・・」

天津飯「しかもベジータの奴も結局帰ってこなかったからな。」

ブルマ「しようがないわよ。ここしばらく忙しくて農作業やってなかったんだから。農業欲が堪ってたんでしょ。」

トランクス「準備中も手の震えを抑えながらやってましたからね……」

ピッコロ「まるでアル中だな……」タラリ

ラズリ「おい、そろそろ時間だよ。準備しな。」

トランクス「そうでした。それじゃあ父さんの代わりに俺が舞台に立てば良いんですよね？」

ピッコロ「ああ、頼む。孫では心配だからな。」

ラズリ「全世界に醜態を曝す訳にはいかないからね。」

悟空「オラ、もう諦めたぞ……」ズーン

……

ピッコロ「それでは時間になったので選挙結果を発表する！」

Vセル「おい待て貴様！ 何故この星がベリーメロンに染まる素晴らしき日に誰も居らんのだア!!」

ピッコロ「しようがないだろう。ここら一帯の連中は農作業に走っているのだからな。中継はラジオで聞いているだろう。」

Vセル「農作業ならしかたがないな。よろし！ さっさと結果を発表しろ！ まあ結果は見えているがなア!!」ニヤツ

ピツコロ「・・・それでは結果を発表する！ 背後の巨大ディスプレイを見ろ！」
ダララララララララララララララ・・・ダン！

〔投票率：100%〕

〔支持率〕（ベリーメロン党29%

〔超☆野菜党：71%〕

〔よって、超☆野菜党の勝利!!〕

Vセル「エネルギー顔芸

トランクス「やりました！ やりましたよ皆さん!! 俺達の勝利です！」グツ

クリリン「そうだな！ セルが演説した時はどうなる事かと思っただけで勝って良かったぜ！」

天津飯「これもベジータの演説のおかげだ！」

悟空「やつぱ、旨いもんはいっぱいあった方がいいかな!!」

ワイノワイノ・・・

ラズリ「・・・おい、お前達。喜ぶのは良いけど気を抜くんじやないよ。セルの暴走に備えな。」

クリリン「おっと、悪い。そうだったな。」スッ

悟空「オラは別にそれでもいいんだけどなあ・・・」ザッ

天津飯「勘弁してくれ。」バツ

ピッコロ「まったくだぜ。これだから戦闘狂は・・・」グッ

Vセル「・・・めん・・・」ゴゴゴゴゴ・・・

トランクス「ツ・・・」カチャッ

ラズリ「来るかつ・・・！」ザリッ

Vセル「認めんぞオオオオ!!!」カツ!!

グオオオオオオオオオ・・・!!!!

クリリン「なんて気だつ・・・!?」ビリビリ

ピッコロ「これが奴の本気か・・・」ビリビリ

悟空「ひゃー! オラ、ワクワクしてきたぞ!!」ビリビリ

ドドドドドドドドドドド・・・!!

Vセル「最早ア・・・最早我が理想の世界を認めない人間共なんぞどうでもいいイ!

一人残さず畑の肥しにして、ベリーメロンの養分にしてくれるわア!!!」ゴッ

トランクス「させるかつ！ 喰らえギガスラツS Y

Vセル「俺の背後に立つんじやねえ!!!」

トランクス「ぐわああああ!!!」ドガン

天津飯「トランクスー!!」

クリリン「しつかりしろ！ 今大豆を・・・」

Vセル「アイテムなど使ってんじやねえ!!!」

クリリン「うわああああ!!!」ドガン

ピッコロ「クリリン！ クソツ、ここまでとは・・・一旦引いて立て直・・・」

Vセル「男に後退の二文字はねえ!!!」

ピッコロ「ぐああああ!!!」ドガン

天津飯「そんな・・・強過ぎるっ！」ガクガク

Vセル「軟弱者は消えうせろ!!!」

天津飯「がああああ!!!」ドガン

ギョーン！

ガギイン!!

超悟空2「それ以上はさせねえぞセル!!」ググググ

Vセル「孫悟空ウウウ!!!」ギリギリ

